Ⅲ　18 歳以上の区民の方が対象

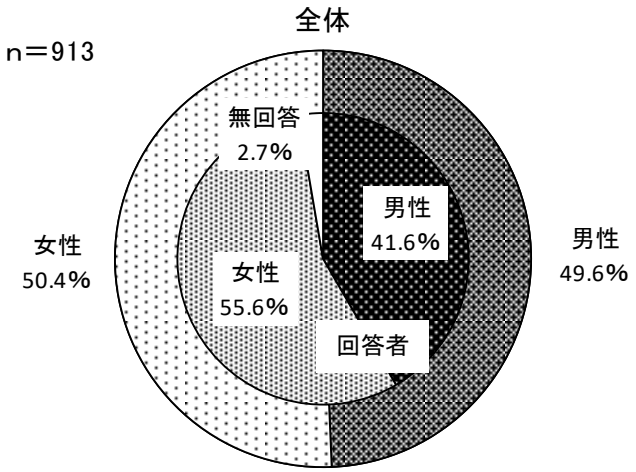
②スポーツ・福祉・保健分野などの調査結果

1　回答者の属性

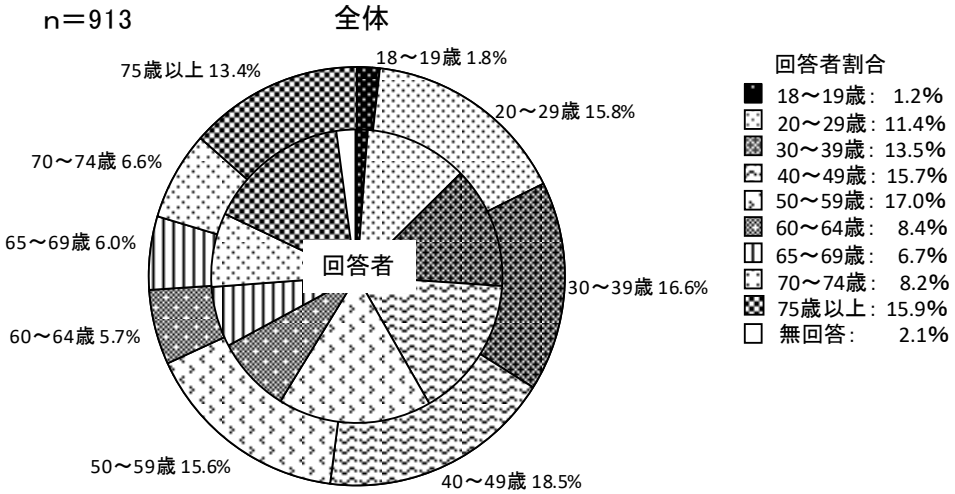
【性別】

全体：大田区の 18 歳以上の人口（ｎ＝638,565）※令和３年１月１日

回答者：有効回収数（ｎ＝913）



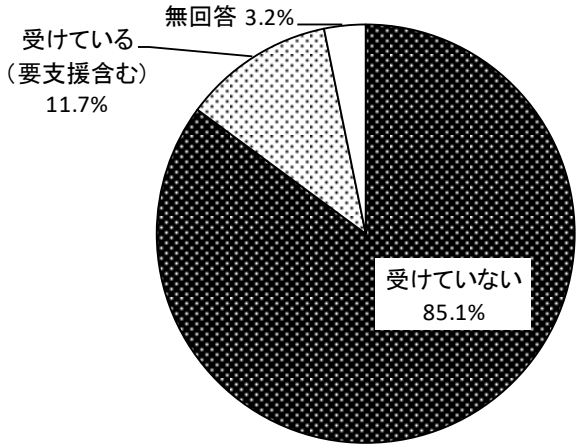
【年齢】



【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人＋外国人）令和３年１月１日現在版

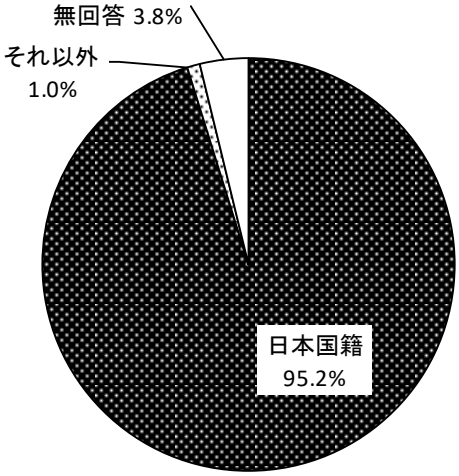
【介護保険制度の要介護認定を受けているか（65 歳以上の方）】

n=281



【国籍】

n=913

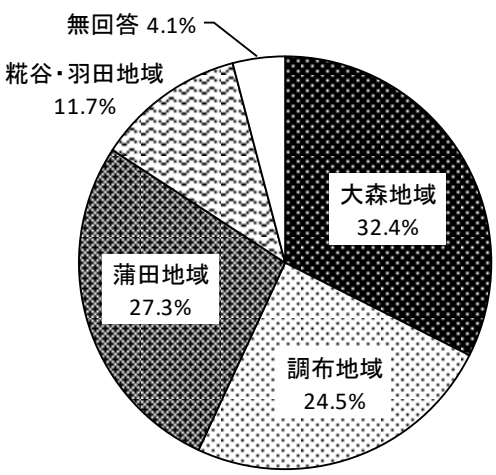


（日本国籍以外）

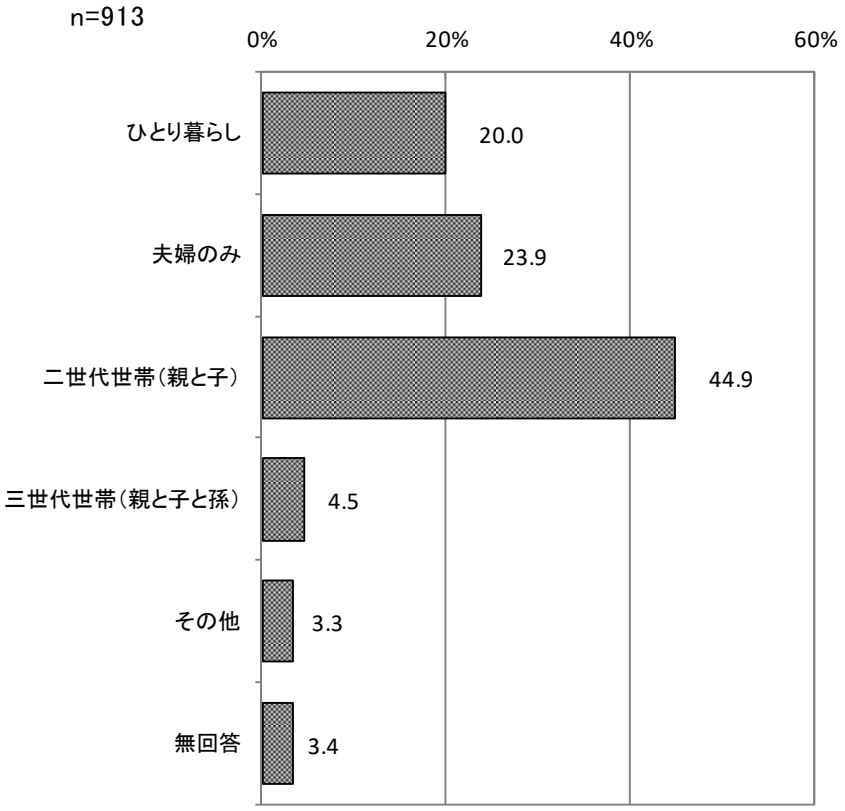
	中国	韓国	モンゴル	ネパール	ベトナム	無回答
人数	2	2	1	1	1	2

【住まいの地域】

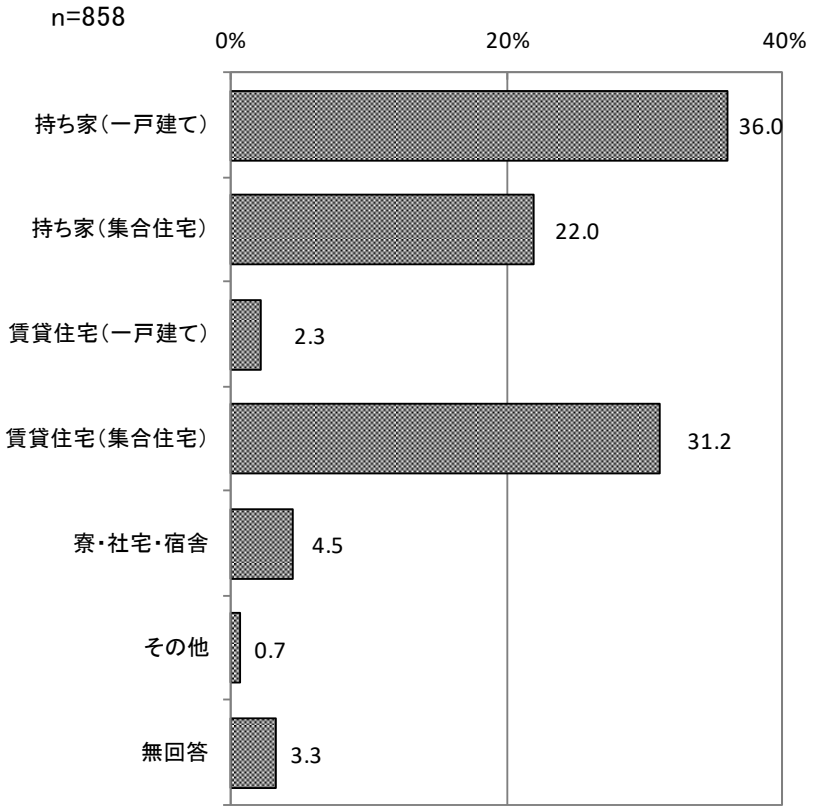
n=913



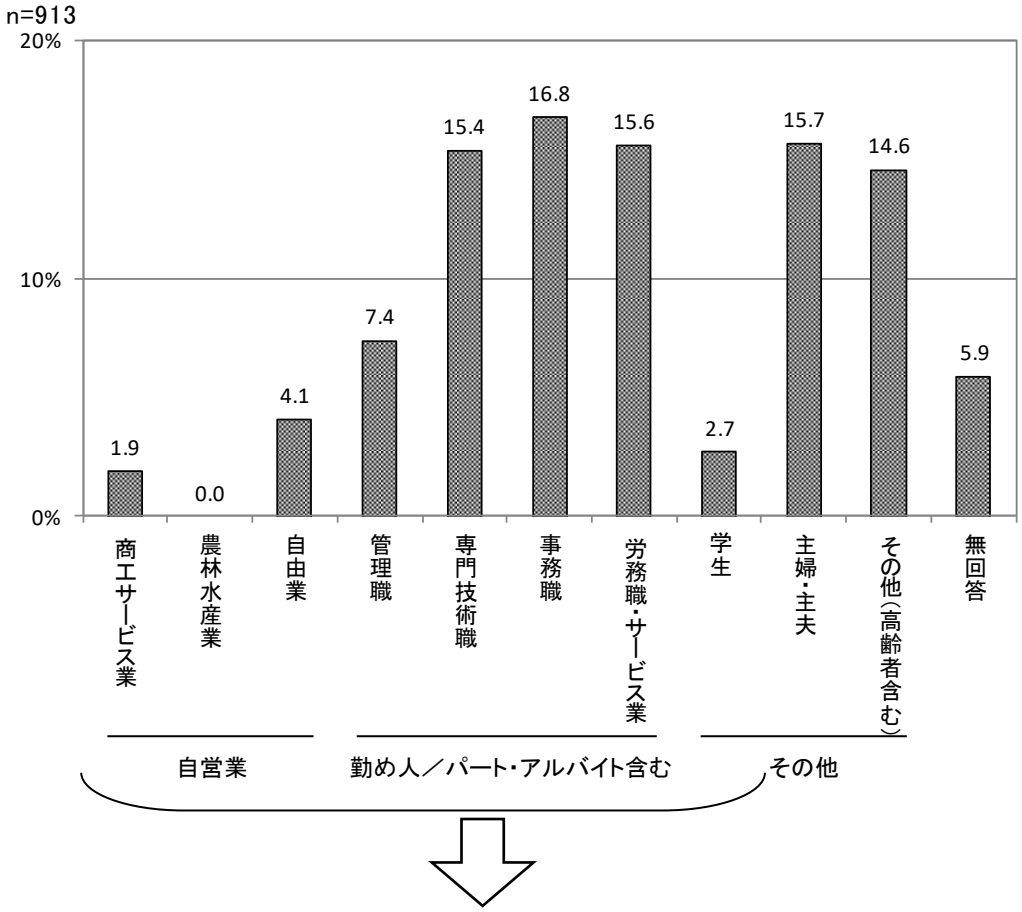
【家族構成】


n=913
0%
20%
40%
60%
ひとり暮らし
20.0
夫婦のみ
23.9
二世代世帯（親と子）
44.9
三世代世帯（親と子と孫）
4.5
その他
3.3
無回答
3.4

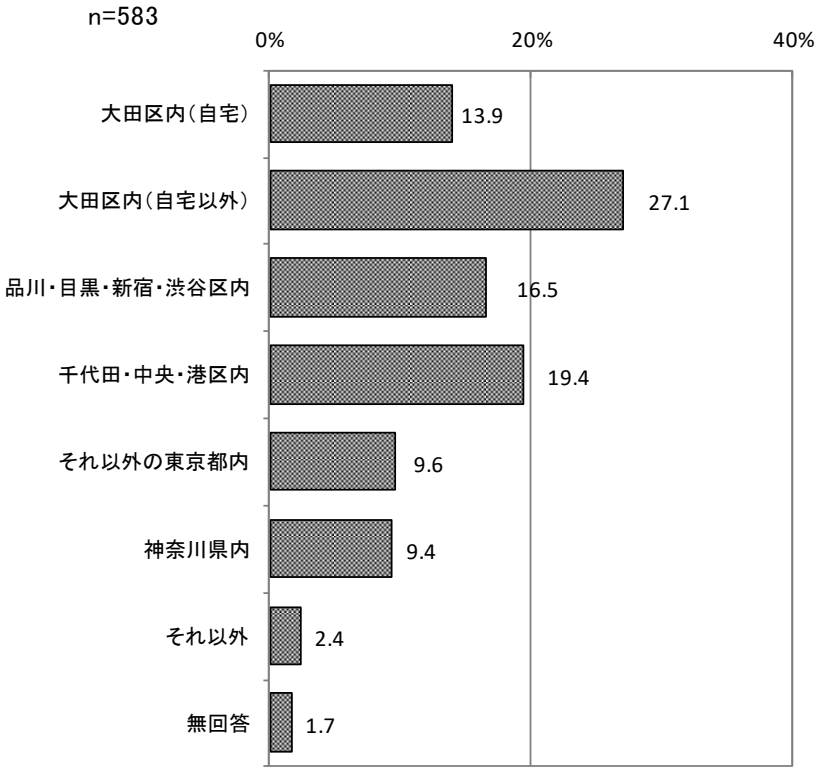
【住まいの種類】


n=858
0%
20%
40%
持ち家（一戸建て）
36.0
持ち家（集合住宅）
22.0
賃貸住宅（一戸建て）
2.3
賃貸住宅（集合住宅）
31.2
寮・社宅・宿舎
4.5
その他
0.7
無回答
3.3

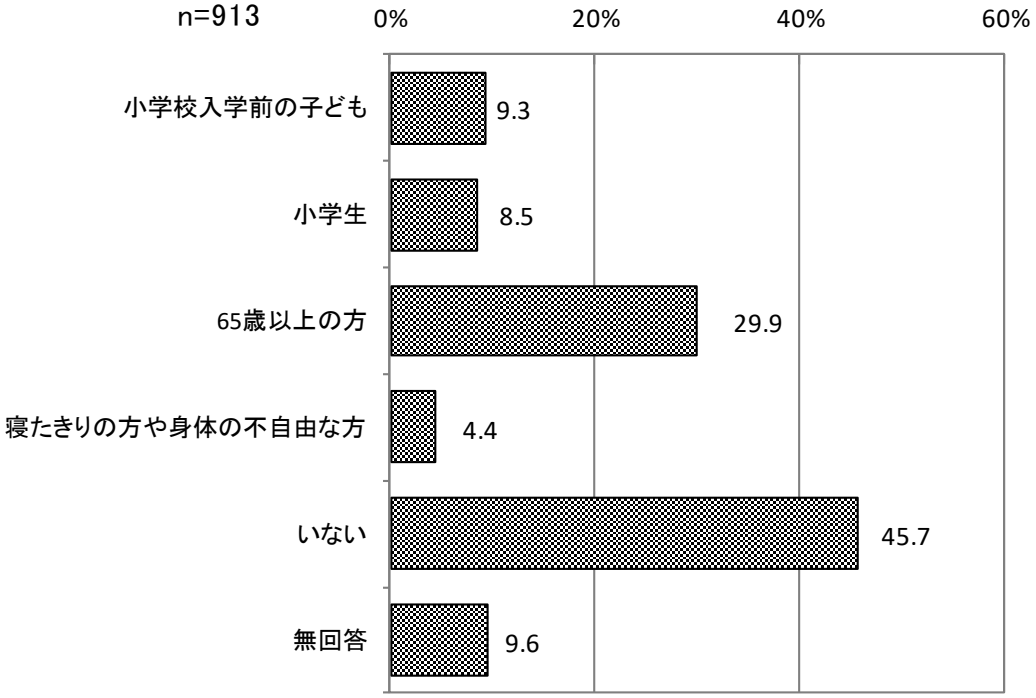
【職業】


n=913
20%
10%
0%
1.9
0.0
4.1
7.4
15.4
16.8
15.6
2.7
15.7
14.6
5.9
商工サービス業
農林水産業
自由業
管理職
専門技術職
事務職
労務職・サービス業
学生
主婦・主夫
その他（高齢者含む）
無回答
自営業
勤め人／パート・アルバイト含む
その他

【主な通勤・通学先】

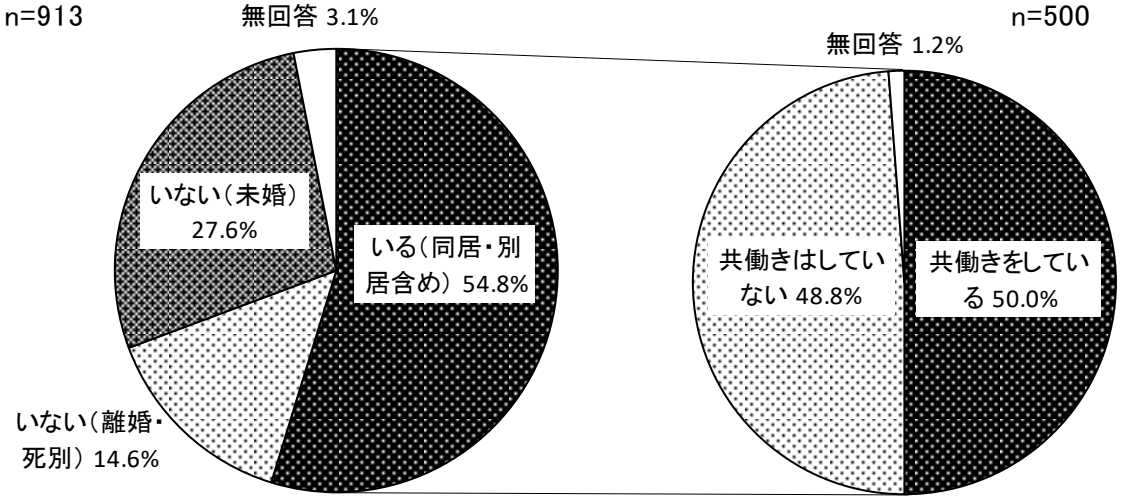

n=583
0%
20%
40%
大田区内（自宅）
13.9
大田区内（自宅以外）
27.1
品川・目黒・新宿・渋谷区内
16.5
千代田・中央・港区内
19.4
それ以外の東京都内
9.6
神奈川県内
9.4
それ以外
2.4
無回答
1.7

【同居家族】

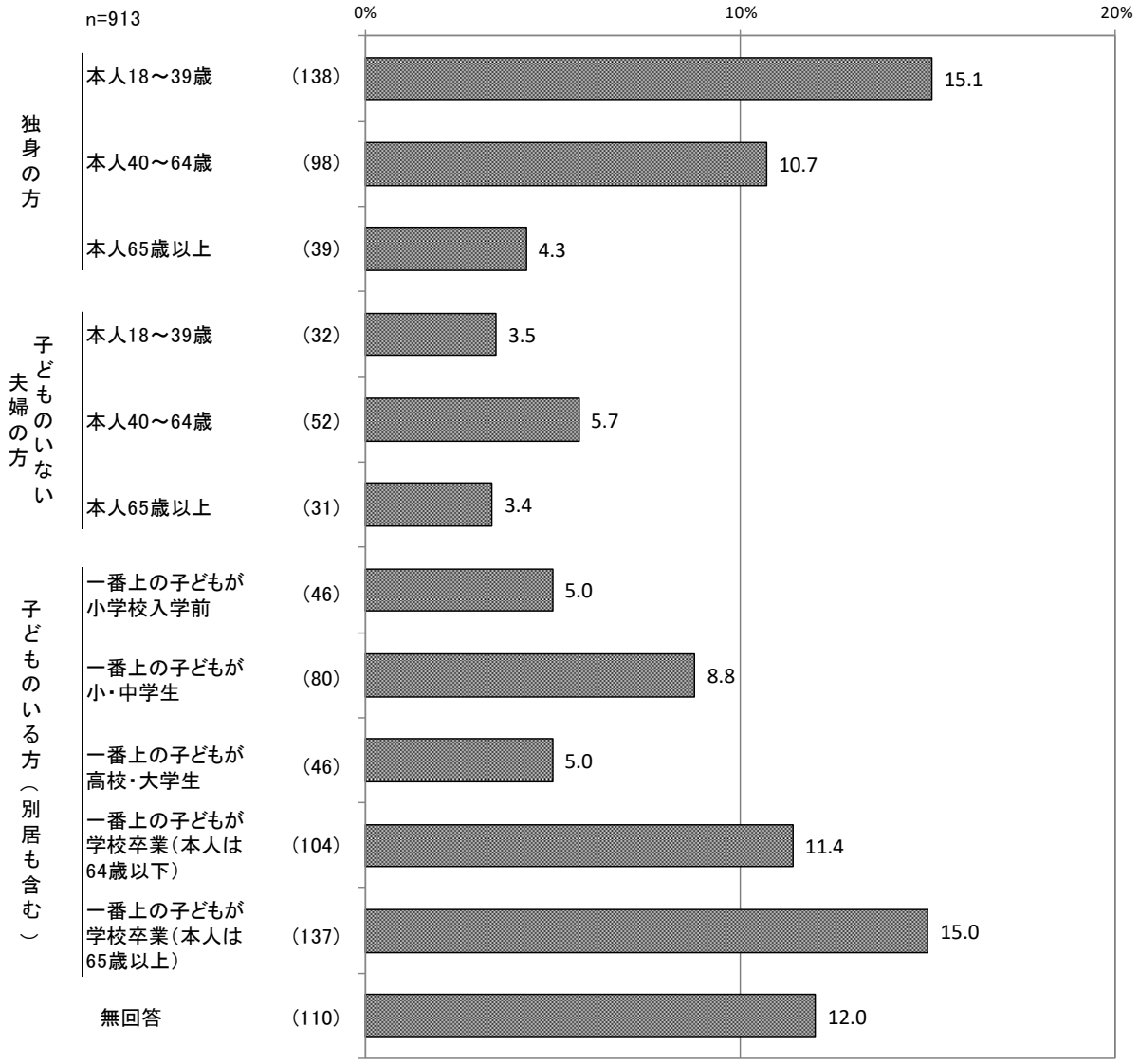


【配偶者の有無】

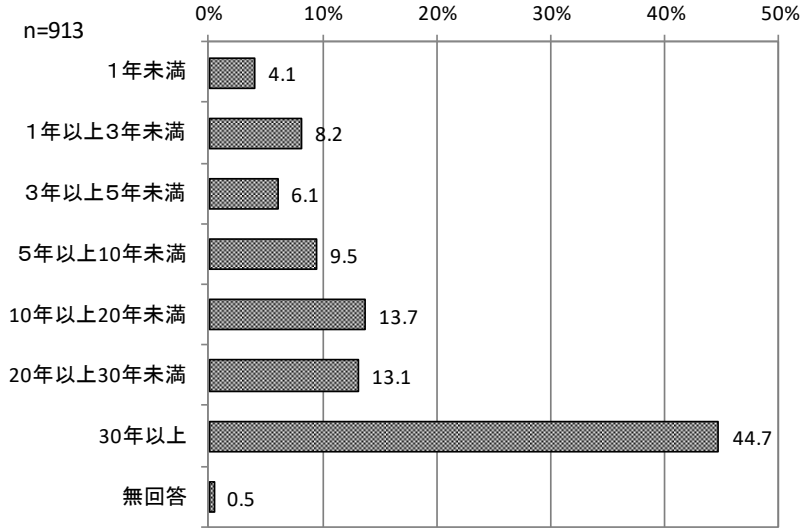
【（配偶者のいる方）共働きについて】



【ご自身のステージ】



【大田区にお住まいの期間】



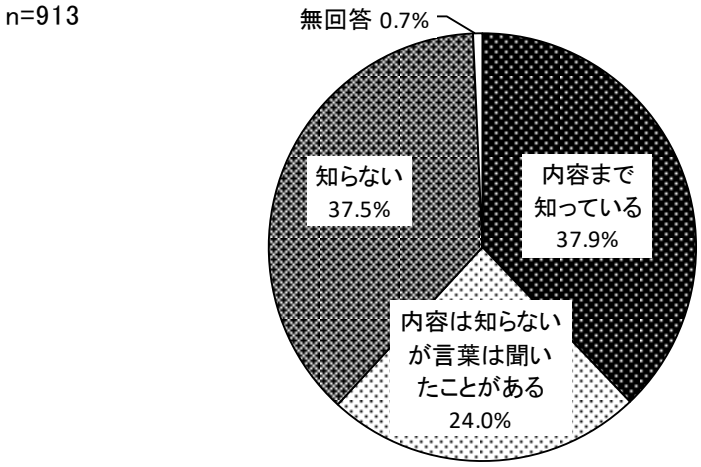
２　各種認知度について

（１）「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

◎「内容まで知っている」は３割後半となっている

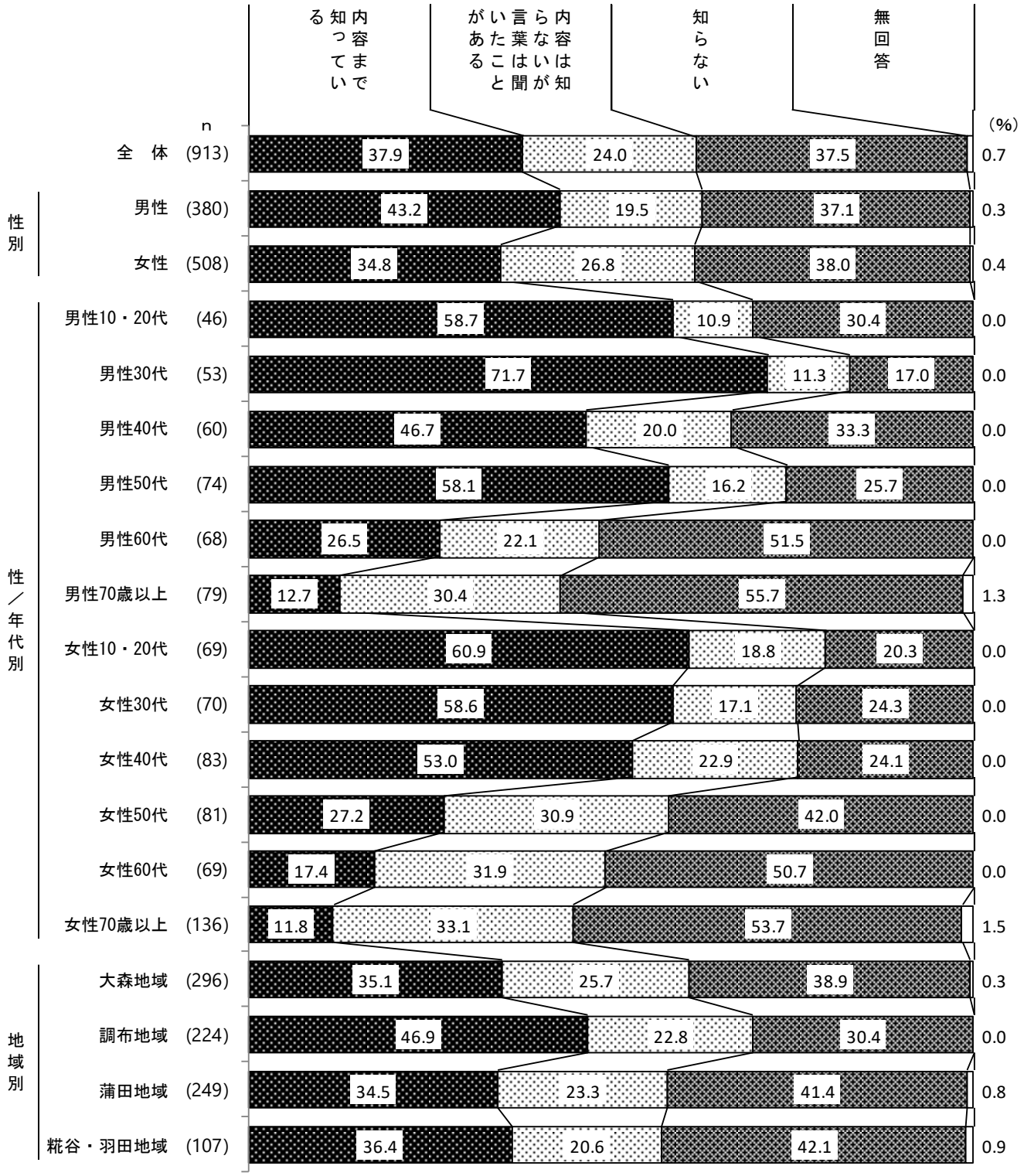
問１　「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」を意味する言葉ですが、あなたはこの言葉を知っていましたか。（○は１つ）

図表２－１　「ワーク・ライフ・バランス」の認知度



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度について聞いたところ、「内容まで知っている」が 37.9%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が 24.0%、「知らない」が 37.5%となっている。（図表２－１）

図表２－２　「ワーク・ライフ・バランス」の認知度（性・性／年齢別・地域別）



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度を性別でみると、「内容まで知っている」は男性（43.2%）が女性（34.8%）を8.4ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「内容まで知っている」は男性では30代が約７割、10・20代、50代が５割後半となっている。女性では10・20代が約６割で、年代が上がるにつれて低くなっている。

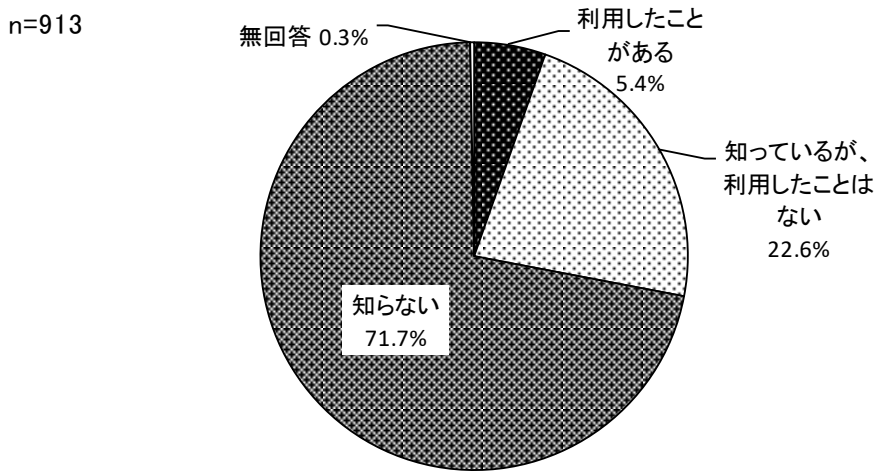
地域別でみると、「内容まで知っている」は調布地域で４割半ば、その他の地域では３割半ばとなっている。（図表２－２）

（２）「エセナおおた」の認知度

◎「知らない」が約７割となっている

問２　区では、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みとして様々な講座や展示などの事業を実施しています。これらを主に実施している施設である、男女平等推進センター「エセナおおた」を知っていますか。（○は１つ）

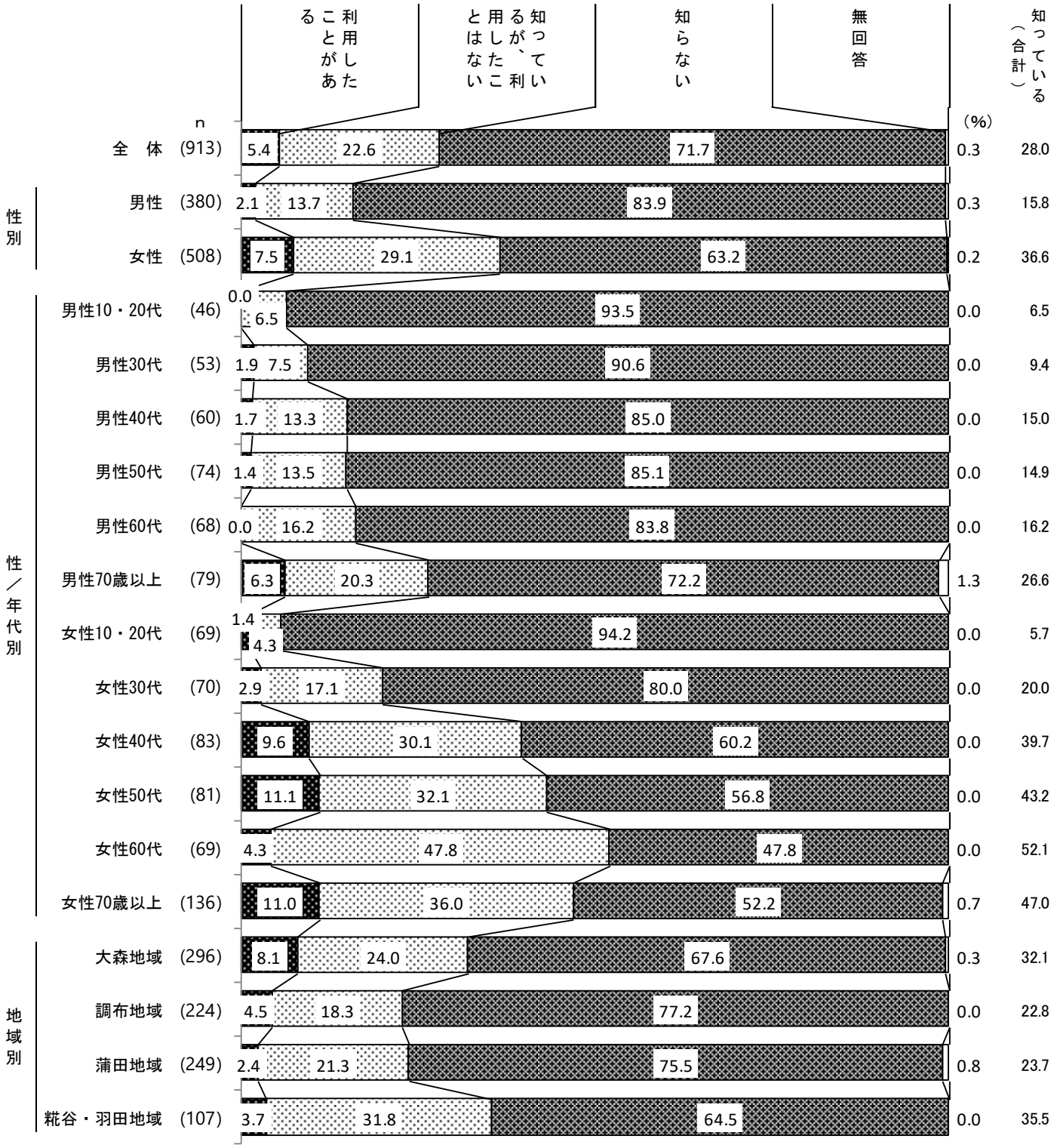
図表２－３　「エセナおおた」の認知度



「エセナおおた」の認知度について聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」(22.6%)、「利用したことがある」（5.4%）を合わせた《知っている（合計)》は 28.0%となっている。

一方、「知らない」は 71.7%となっている。（図表２－３）

図表２－４　「エセナおおた」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「エセナおおた」の認知度を性別でみると、《知っている（合計）》は女性（36.6%）が男性（15.8%）を 20.8 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている（合計）》は、男性は年代が上がるにつれて高くなっている。女性は 60 代（52.1%）で５割前半となっている。

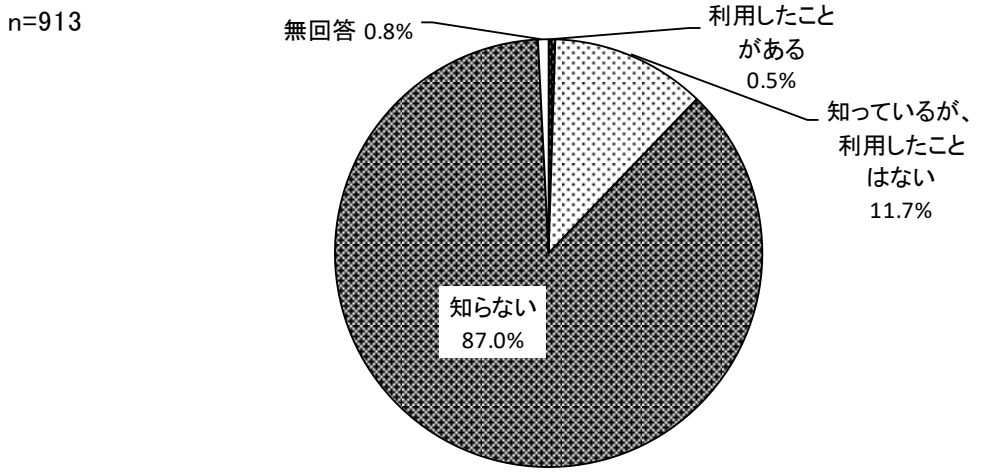
地域別でみると、《知っている（合計）》は大森地域、糀谷・羽田地域で３割台、調布地域、蒲田地域で２割前半となっている。（図表２－４）

（３）「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度

◎「知らない」が８割後半となっている

問３　男女平等推進センター「エセナおおた」では、「女性のためのたんぽぽ相談」で女性の様々な悩みに関する相談を受け付けていることを知っていますか。（○は１つ）

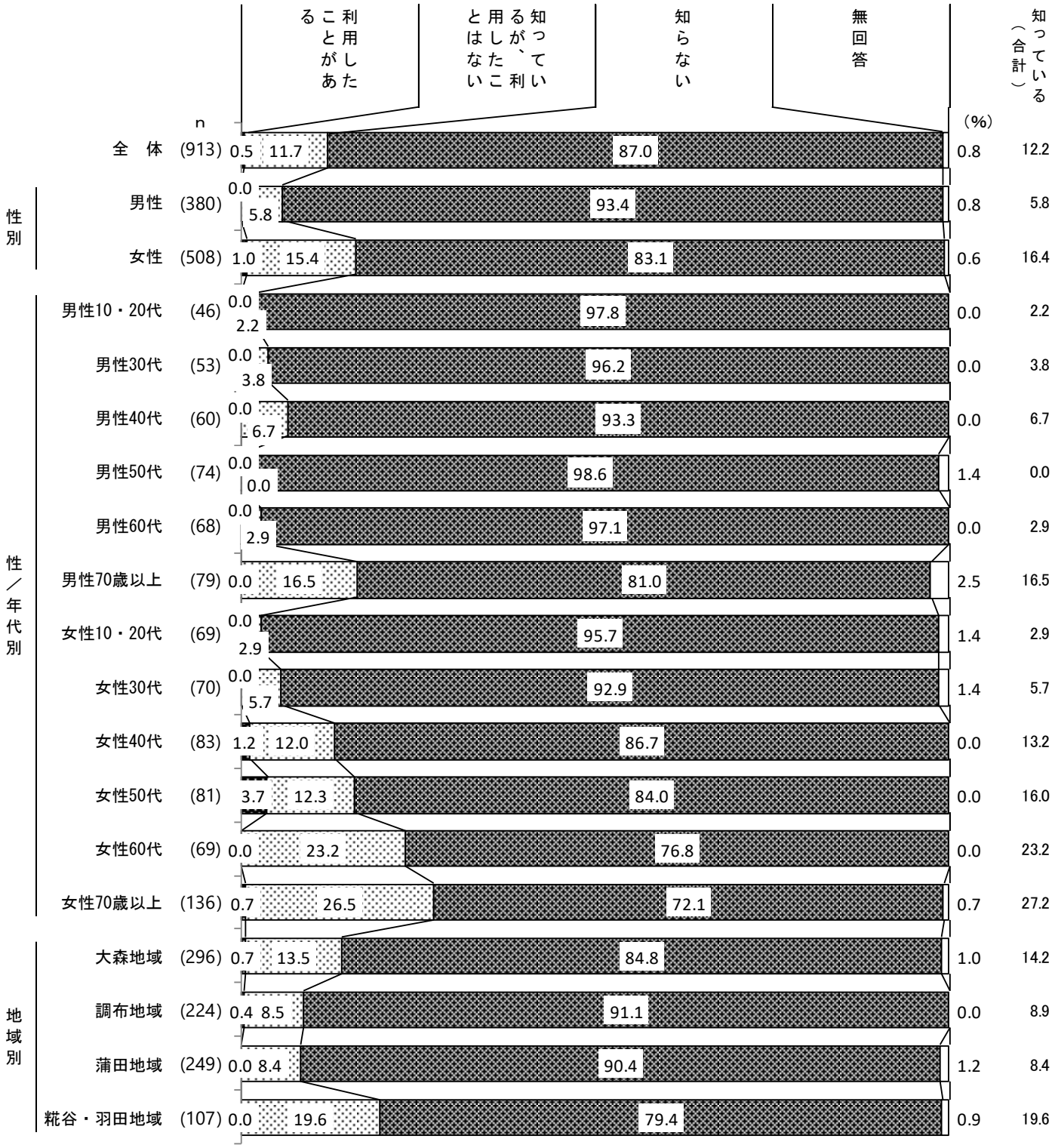
図表２－５　「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度



「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度について聞いたところ、「利用したことがある」（0.5%）、「知っているが利用したことはない」（11.7%）を合わせた《知っている（合計）》は 12.2%となっている。

一方、「知らない」は 87.0%となっている。（図表２－５）

図表２－６　「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度を性別でみると、《知っている（合計）》は女性（16.4%）が男性（5.8%）を 10.6 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている（合計）》は女性では年代が上がるにつれて高くなっている。男性では 70 歳以上が１割半ば、その他の年代は１割に満たず、50 代では 0.0%となっている。

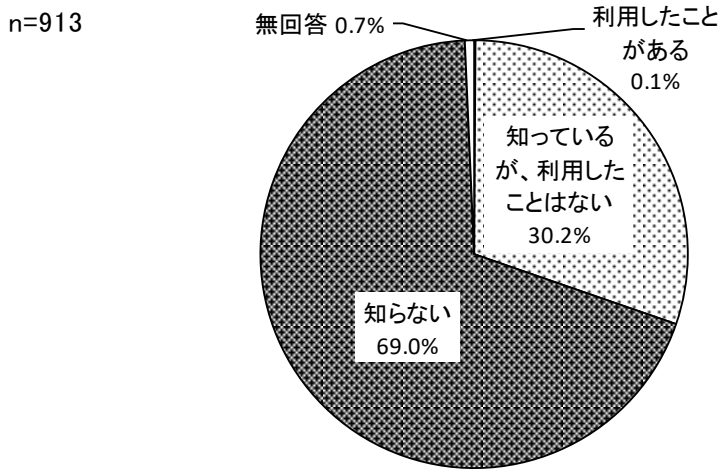
地域別でみると、《知っている（合計）》は調布地域（8.9%）、蒲田地域（8.4%）で１割未満となっている。（図表２－６）

（４）「大田区ＤＶ相談ダイヤル」の認知度

◎「知らない」が約７割となっている

問４　区では、「大田区ＤＶ相談ダイヤル」を設置し、配偶者やパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝ＤＶ）に関する相談を受け付けていることを知っていますか。（○は１つ）

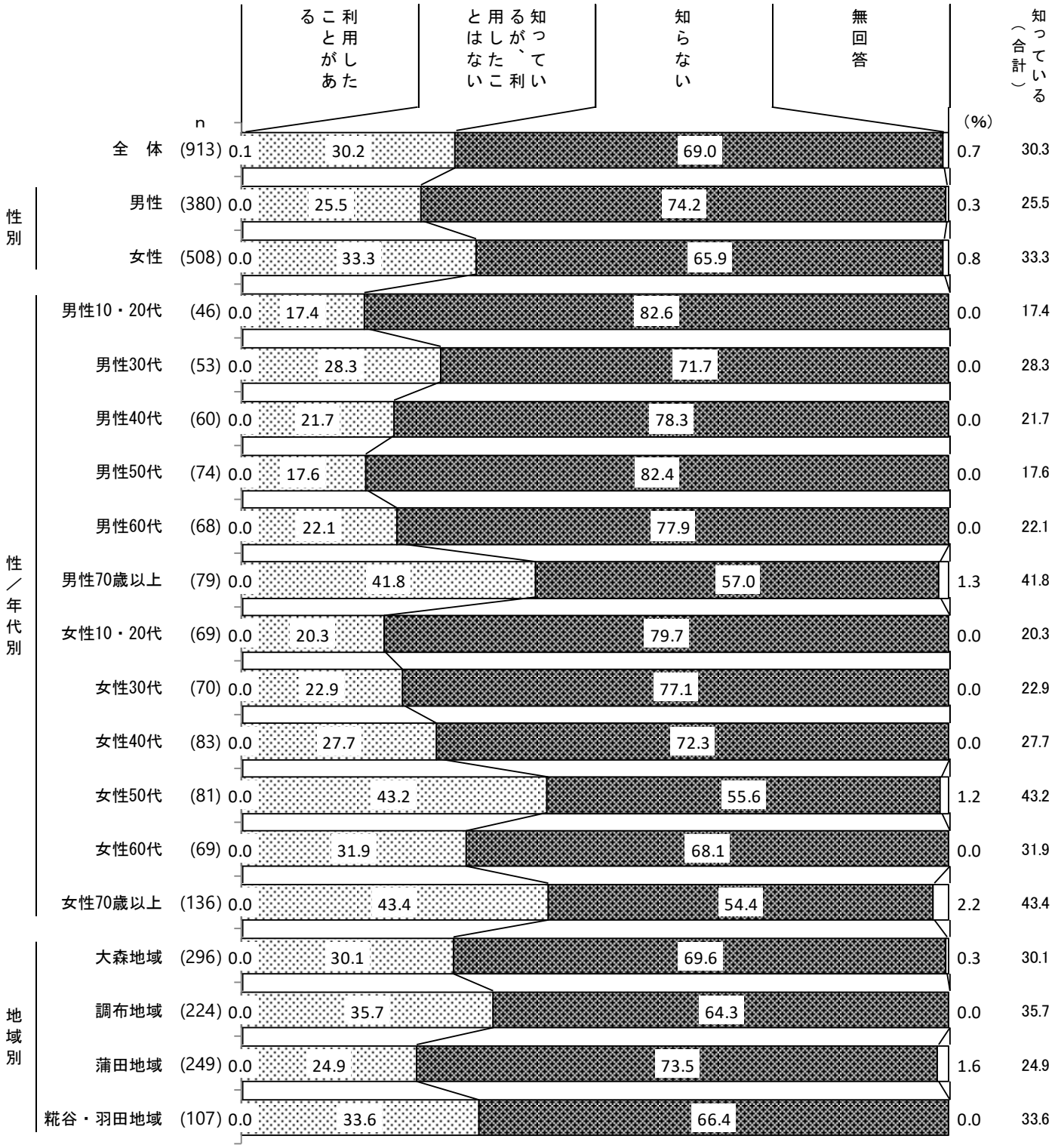
図表２－７　「大田区ＤＶ相談ダイヤル」の認知度



「大田区ＤＶ相談ダイヤル」の認知度について聞いたところ、「利用したことがある」(0.1%)、「知っているが、利用したことはない」（30.2%）を合わせた《知っている（合計)》は 30.3%となっている。

一方、「知らない」が 69.0%となっている。（図表２－７）

図表２－８　「大田区ＤＶ相談ダイヤル」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「大田区ＤＶ相談ダイヤル」の認知度を性別でみると、「知っているが、利用したことはない」は女性（33.3%）が男性（25.5%）を 7.8 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っているが、利用したことはない」は男性 70 歳以上、女性 50 代、70 歳以上で４割台となっている。

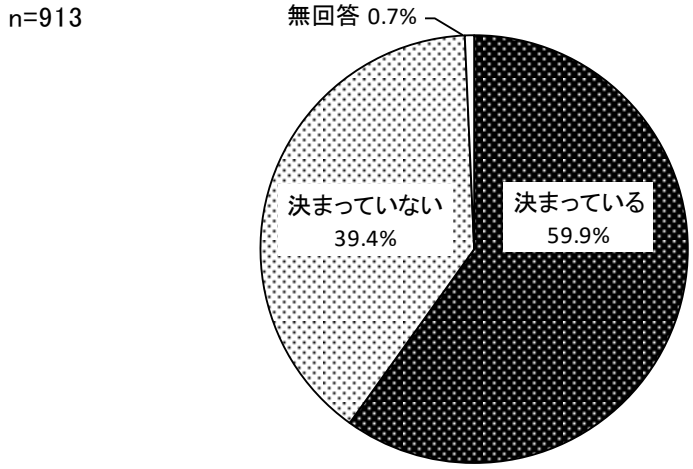
地域別でみると、「知っているが、利用したことはない」は蒲田地域で２割半ば、その他の地域で３割台となっている。（図表２－８）

（５）災害時の避難先を決めているか

◎「決まっている」が約６割となっている

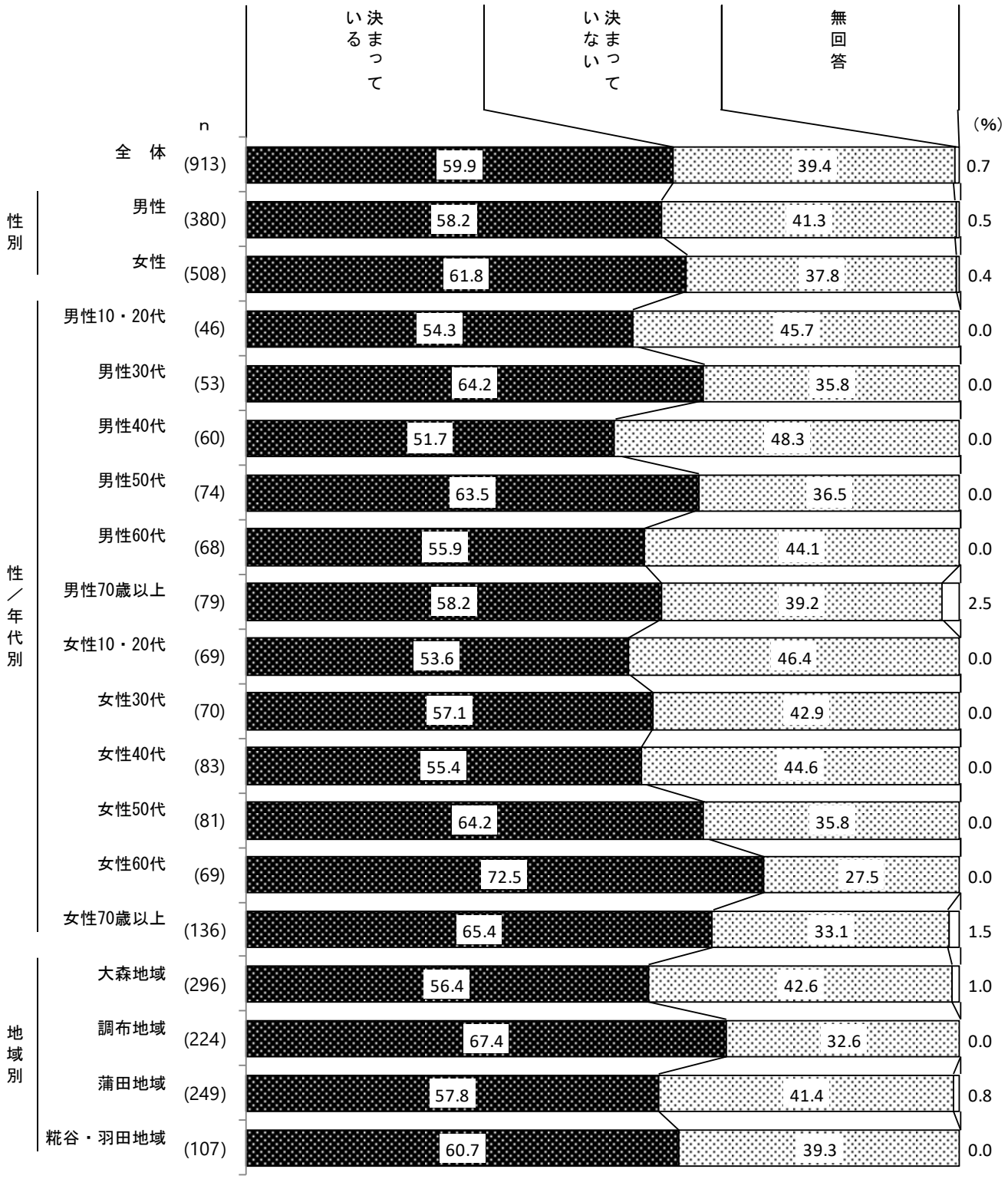
問５　災害時の避難先は決まっていますか。（○は１つ）

図表２－９　災害時の避難先を決めているか



災害時の避難先を決めているかについて聞いたところ、「決まっている」が 59.9%、「決まっていない」が 39.4%となっている。（図表２－９）

図表２－10　災害時の避難先を決めているか（性別・性／年代別・地域別）



災害時の避難先を決めているかについて性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「決まっている」はすべての性／年代で５割以上となっている。

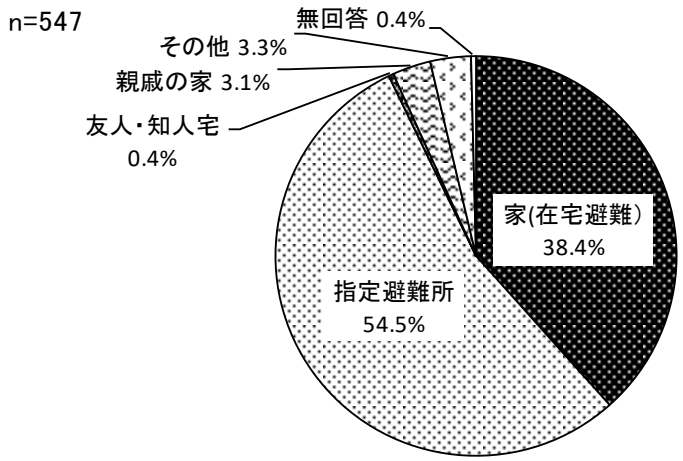
地域別でみると、「決まっている」は調布地域、糀谷・羽田地域で６割台、大森地域、蒲田地域で５割台となっている（図表２－10）

（６）災害時の避難場所

◎「指定避難所」が５割半ばで最も高くなっている

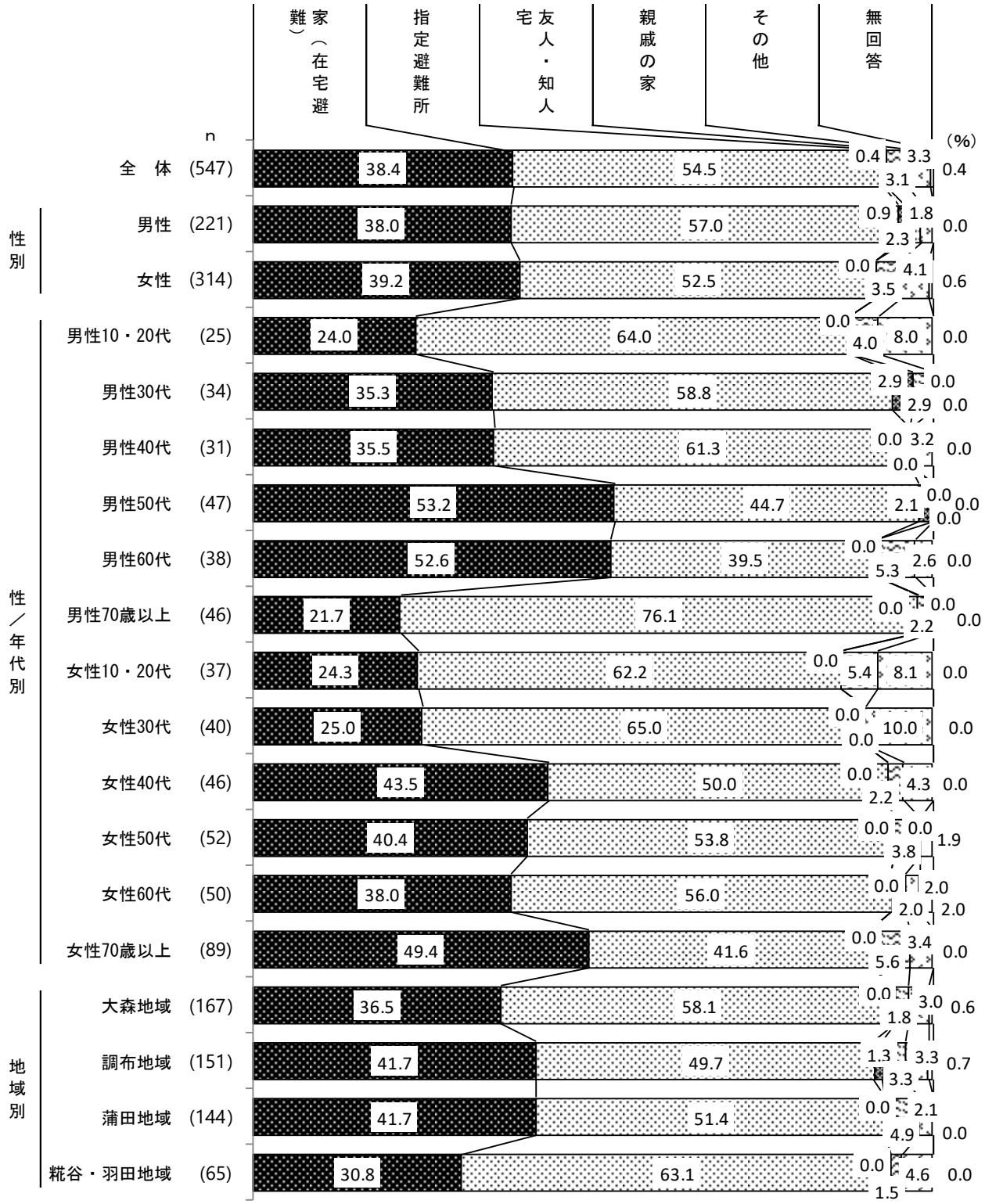
【問５で「１．決まっている」と回答された方】 問５－１　避難先はどこですか。（○は１つ）

図表２－11　災害時の避難場所



災害時の避難場所について聞いたところ、「指定避難所」が 54.5%で最も高く、次いで、「家（在宅避難)」(38.4%）などとなっている。(図表２－11)

図表２－12　災害時の避難場所（性別・性／年代別・地域別）



災害時の避難場所について性別でみると、大きな差異はみられなかった。

性／年代別でみると、「家（在宅避難）」は男性 50 代、60 代が５割前半、女性 70 歳以上が約５割で最も高くなっている。

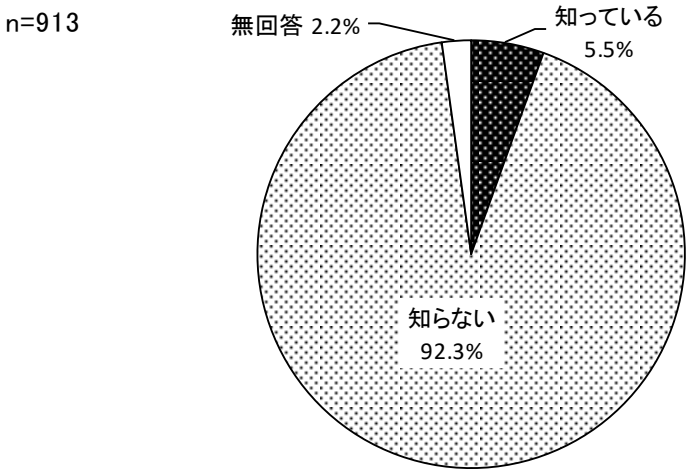
地域別でみると、すべての地域で「指定避難所」が最も高くなっている。（図表２－12）

（７）「マイ・タイムライン講習会」の認知度

◎「知らない」が９割前半となっている

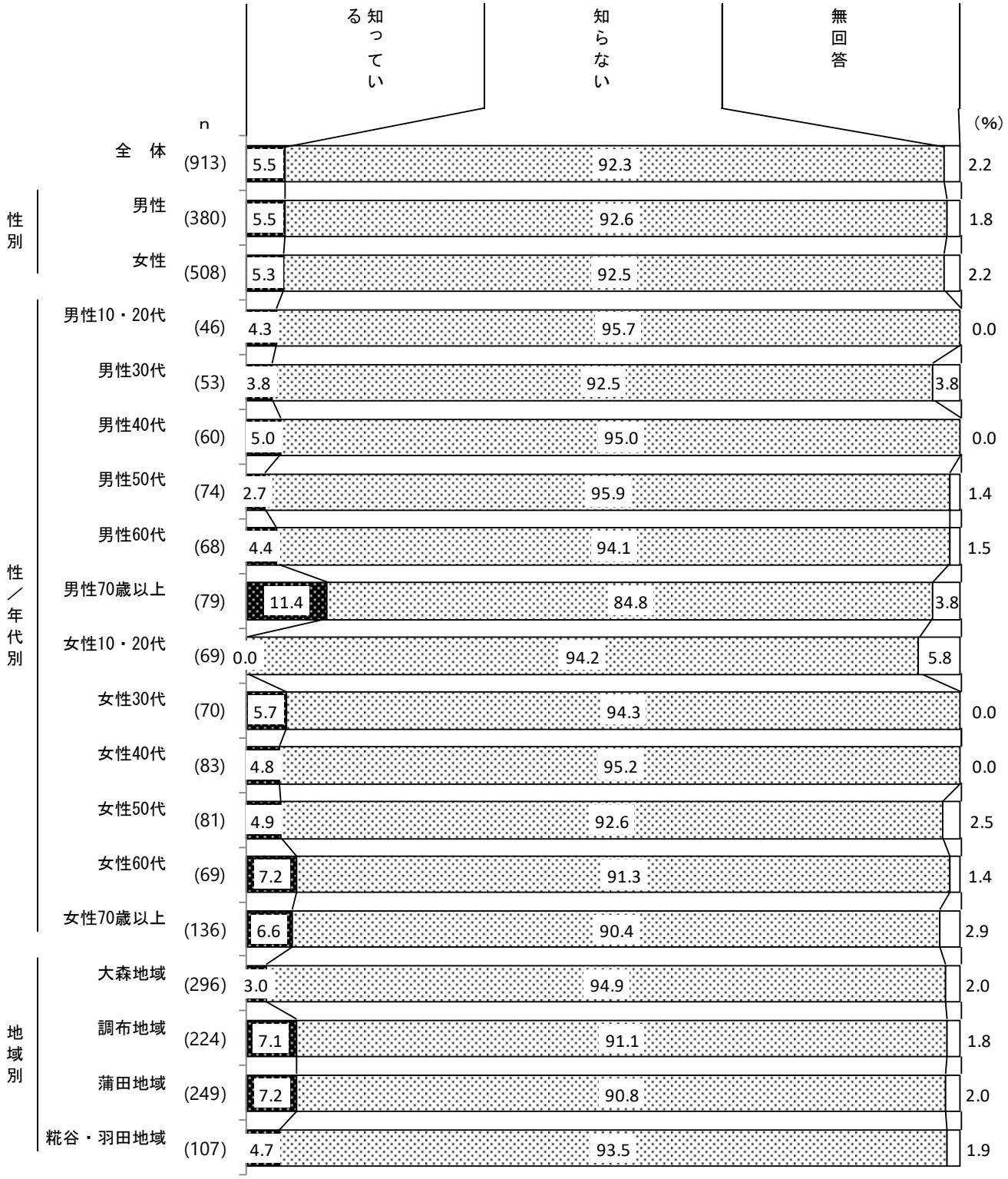
問６　区は大規模水害に備え、家族構成や生活環境に合わせた防災行動を予め時系列にまとめておく「マイ・タイムライン（個人の避難計画）」の普及を進めていますが、「マイ・タイムライン講習会」を開催していることを知っていますか。（○は１つ）

図表２－13　「マイ・タイムライン講習会」の認知度



「マイ・タイムライン講習会」の認知度について聞いたところ、「知っている」が 5.5%、「知らない」が 92.3%となっている。（図表２－13）

図表２－14　「マイ・タイムライン講習会」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



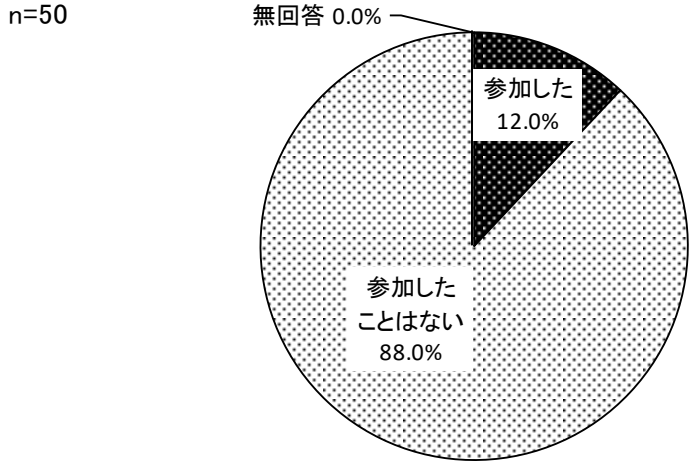
「マイ・タイムライン講習会」の認知度について性別でみると、大きな差異はみられなかった。
性／年代別でみると、「知っている」は男性 70 歳以上で約１割となっている。
地域別でみると、「知らない」がすべての地域で９割台となっている。（図表２－14）

（８）「マイ・タイムライン講習会」への参加の有無と参加した理由

◎「参加した」は１割前半、参加した理由は「災害への備えが必要と思ったから」

【問６で「１．知っている」と回答された方】 問６－１　マイ・タイムライン講習会に参加したことがありますか。（○は１つ） 【問６－１で「１．参加した」と回答された方】 問６－２　マイ・タイムライン講習会に参加した理由は何ですか。（○はいくつでも）

図表２－15　「マイ・タイムライン講習会」への参加経験



「マイ・タイムライン講習会」への参加したことがあるか聞いたところ、「参加した」は 12.0%、「参加したことはない」が 88.0%となっている。（図表２－15）

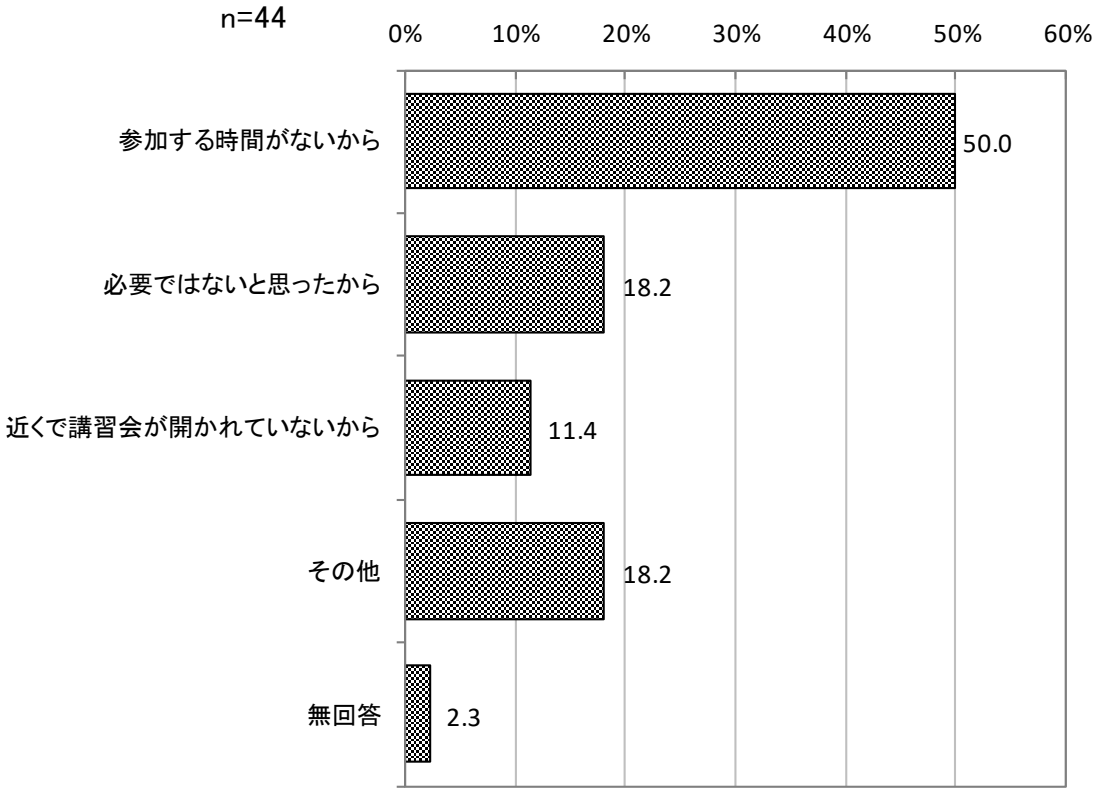
また、「マイ・タイムライン講習会」へ参加した人（n=６）に参加した理由を聞いたところ、全員が「災害への備えが必要と思ったから」と回答した。

（９）「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由

◎「参加する時間がないから」が５割で最も高くなっている

【問６－１で「２．参加したことはない」と回答された方】
問６－３　マイ・タイムライン講習会に参加したことがない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図表２－16　「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由



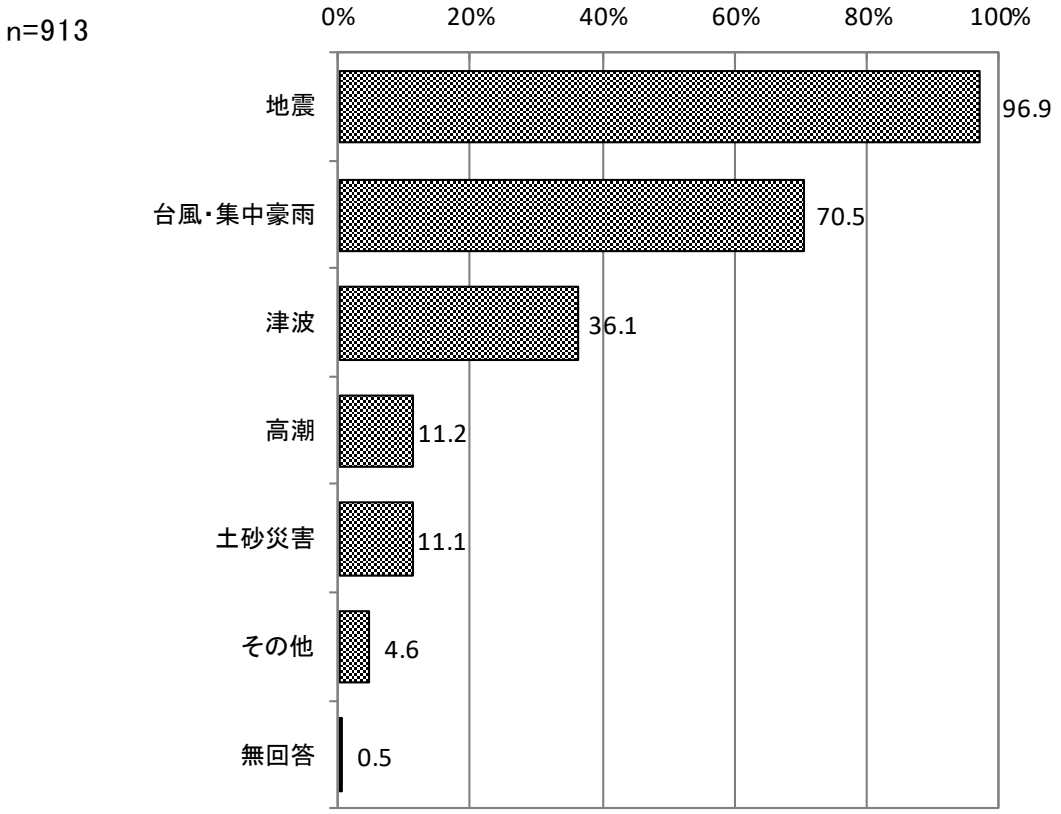
「マイ・タイムライン講習会」へ参加したことがない理由を聞いたところ、「参加する時間がないから」が 50.0%で最も高く、次いで、「必要ではないと思ったから」（18.2%）、「近くで講習会が開かれていないから」（11.4%）となっている。（図表２－16）

（10）自然災害で不安だと思うもの

◎「地震」が９割半ばで最も高くなっている

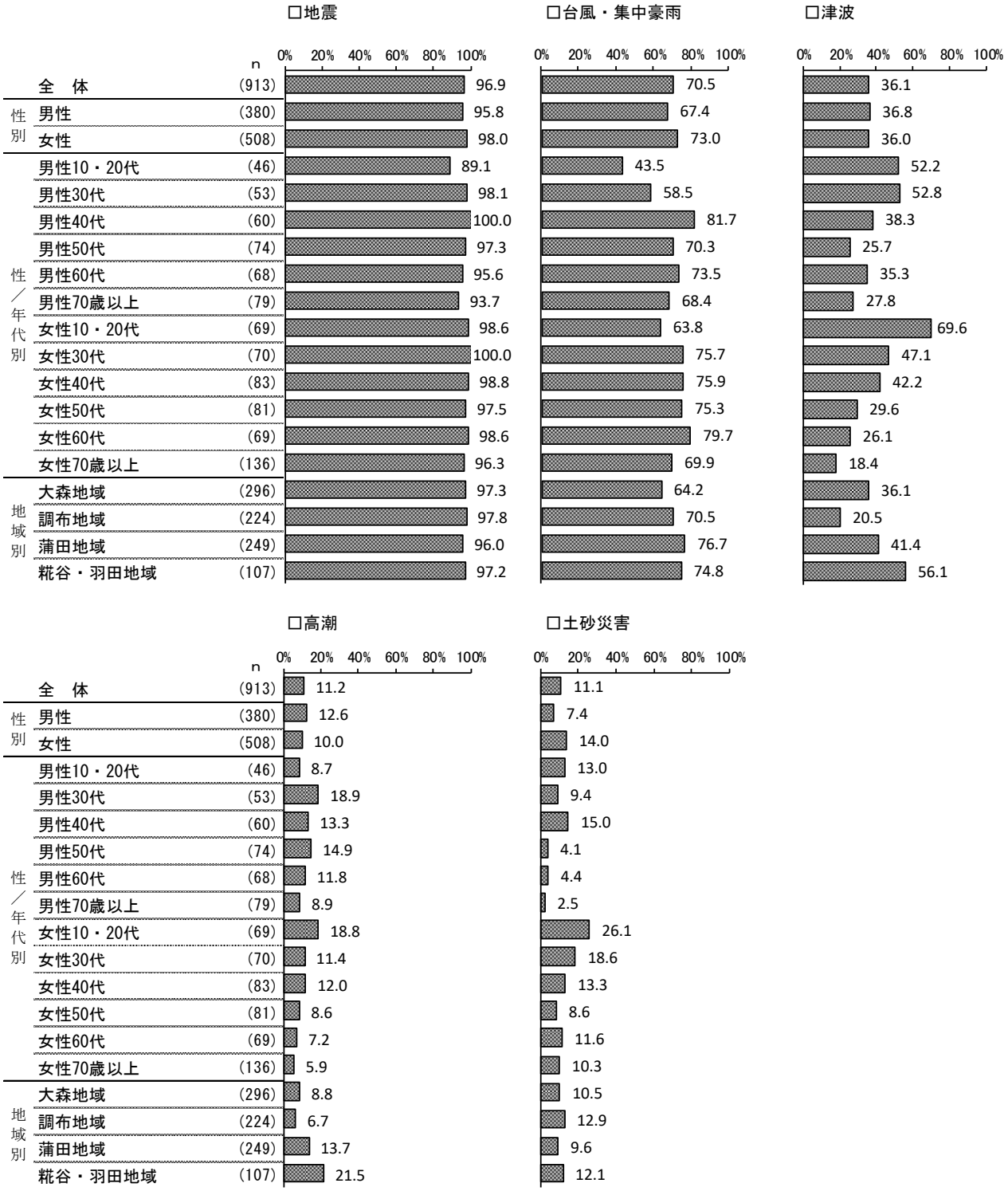
問７　自然災害で不安だと思うものは何ですか。（○はいくつでも）

図表２－17　自然災害で不安だと思うもの



自然災害で不安だと思うものについて聞いたところ、「地震」が 96.9％で最も高く、次いで、「台風・集中豪雨」（70.5％）、「津波」（36.1％）となっている。（図表２－17）

図表２－18　自然災害で不安だと思うもの（性別・性／年代別・地域別　上位５項目）



自然災害で不安だと思うものについて、性別でみると、男女ともに「地震」が９割台と最も高くなっている。

性／年代別でみると、すべての性／年代で「地震」が最も高く、次いで、男女ともに 10・20 代が「津波」、その他の年代が「台風・集中豪雨」となっている。

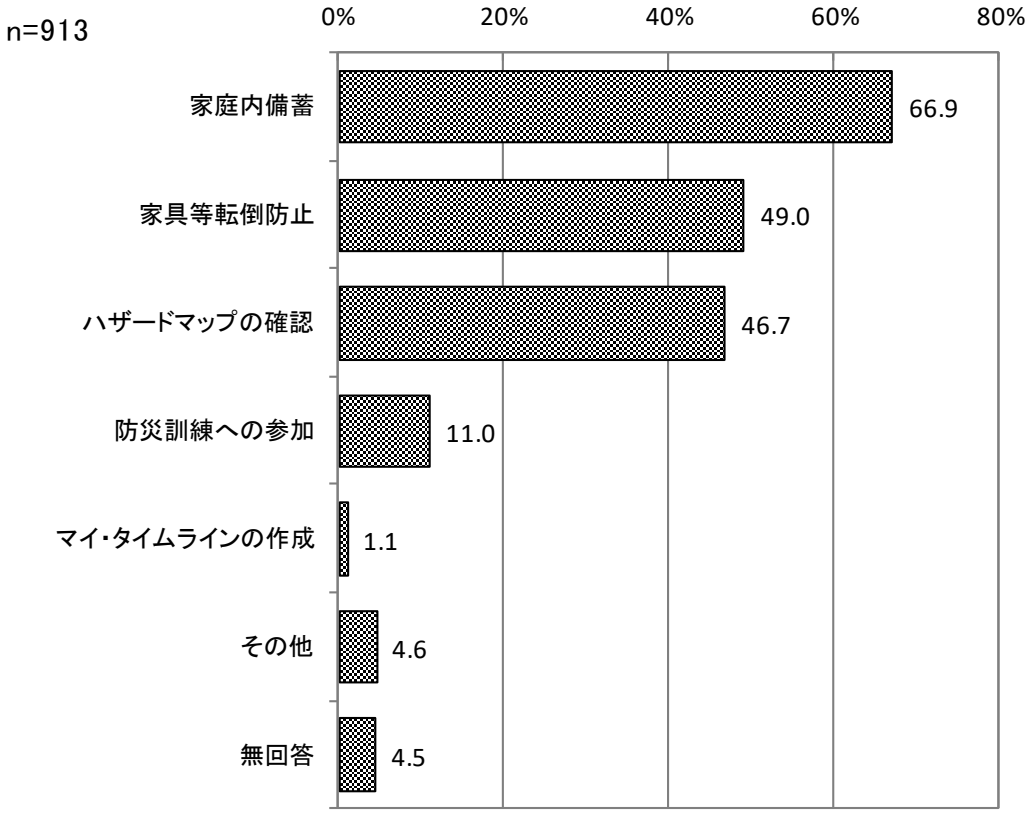
地域別でみると、すべての地域で「地震」が最も高くなっている。また、糀谷・羽田地域で「津波」が 56.1%、「高潮」が 21.5%と他の地域より高くなっている。（図表２－18）

（11）災害から自身を守るための取り組み

◎「家庭内備蓄」が６割半ばで最も高くなっている

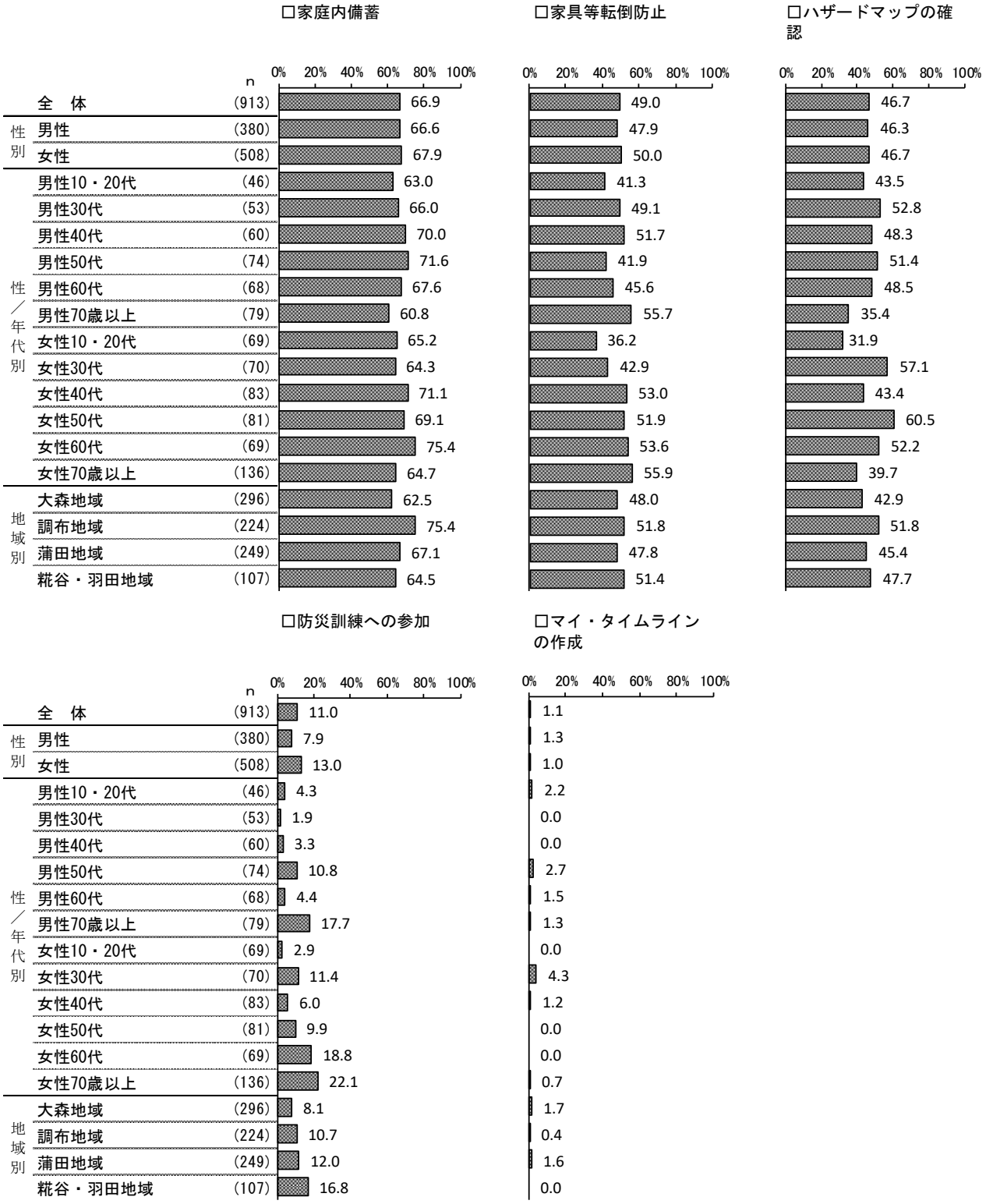
問８　災害から自身を守るためにどのような取り組みをしていますか。（○はいくつでも）

図表２－19　災害から自身を守るための取り組み



災害から自身を守るためにどのような取り組みをしているか聞いたところ、「家庭内備蓄」が66.9％で最も高く、次いで、「家具等転倒防止」（49.0％）、「ハザードマップの確認」（46.7％）となっている。（図表２－19）

図表２－20　災害から自身を守るための取り組み（性別・性／年代別・地域別　上位５項目）



災害から自身を守るための取り組みについて、上位５項目を性別でみると、男女ともに「家庭内備蓄」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、すべての性／年代で「家庭内備蓄」が最も高くなっている。

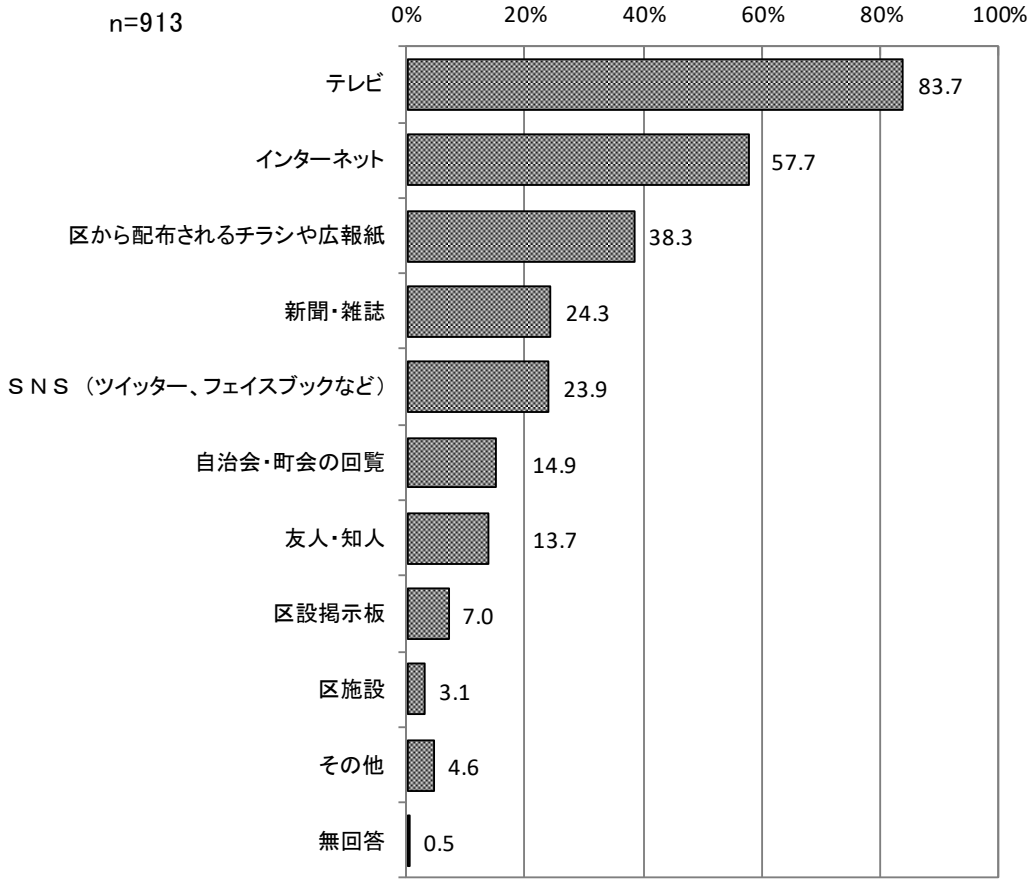
地域別でみると、すべての地域で「家庭内備蓄」が最も高くなっている。（図表２－20）

（12）防災に関する情報の収集方法

◎「テレビ」が８割前半で最も高くなっている

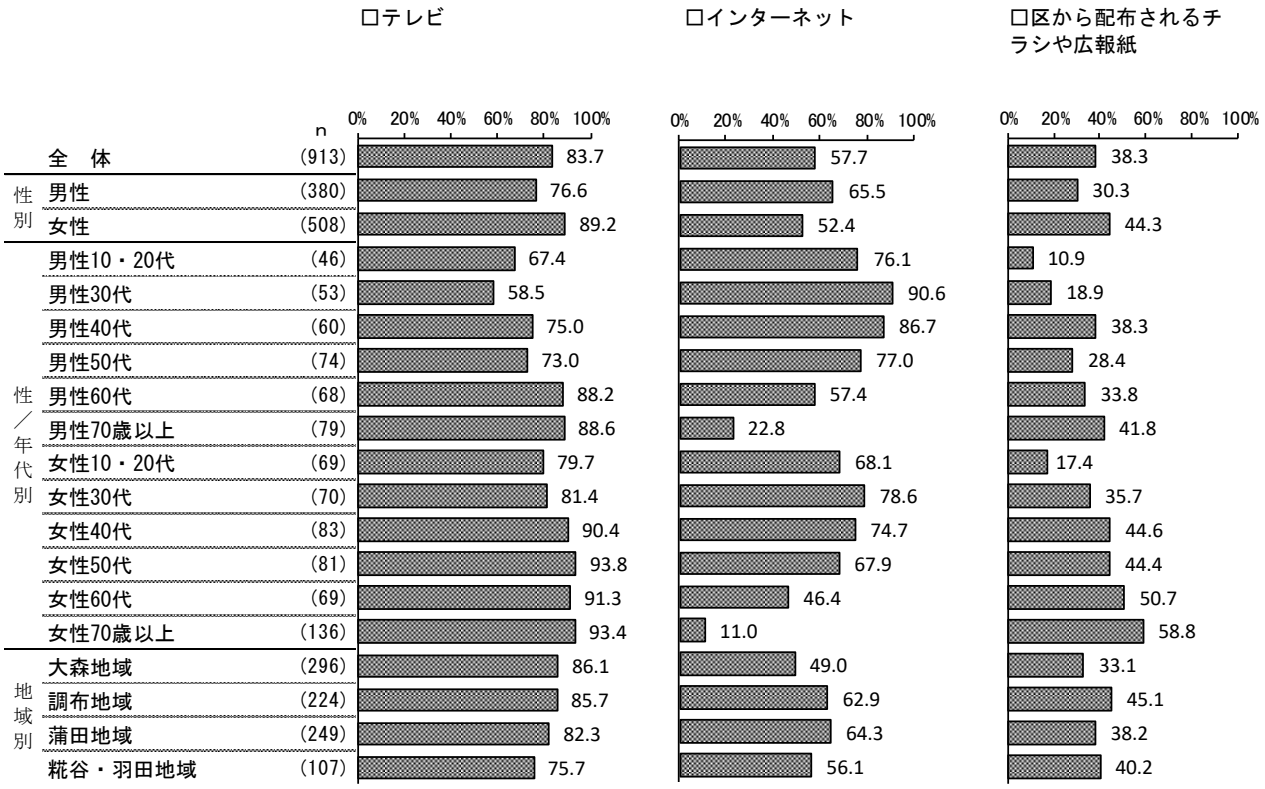
問９　「防災に関する情報」をどのように収集していますか。（○はいくつでも）

図表２－21　防災に関する情報の収集方法



防災に関する情報の収集方法について聞いたところ、「テレビ」が 83.7％で最も高く、次いで、「インターネット」（57.7％）、「区から配布されるチラシや広報紙」（38.3％）となっている。（図表２－21）

図表２－22　防災に関する情報の収集方法（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



防災に関する情報の収集方法について、上位６項目を性別でみると、「テレビ」は女性（89.2%）が男性（76.6%）を 12.6 ポイント、「区から配布されるチラシや広報紙」は女性（44.3%）が男性（30.3%）を 14.0 ポイント上回っている。「インターネット」は男性（65.5%）が女性（52.4%）を 13.1 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、男性は 60 代、70 歳以上で、女性はすべての年代で「テレビ」が最も高くなっている。男性 50 代以下の年代では「インターネット」が最も高くなっている。「ＳＮＳ（ツイッター、フェイスブックなど)」は男女ともに 10・20 代で５割を超えているのに対し、70 歳以上では１割未満と若年層に比べて高齢層が低くなっている。一方、「新聞・雑誌」は男女ともに 10・20 代では 1 割未満に対し、70 歳以上では４割台と年代が上がるにつれて高くなっている。

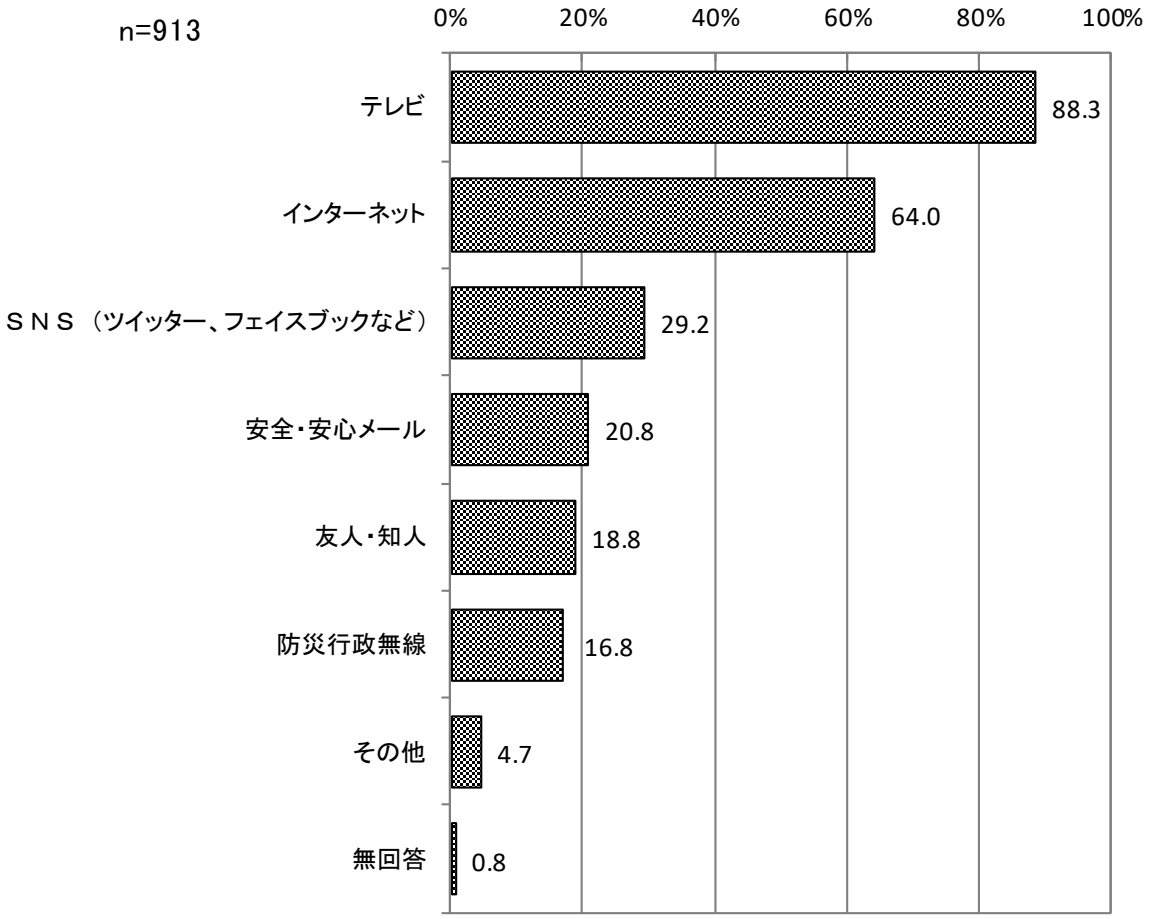
地域別でみると、いずれの地域も「テレビ」が最も高くなっている。(図表２－22)

（13）災害時の情報の収集方法

◎「テレビ」が８割後半で最も高くなっている

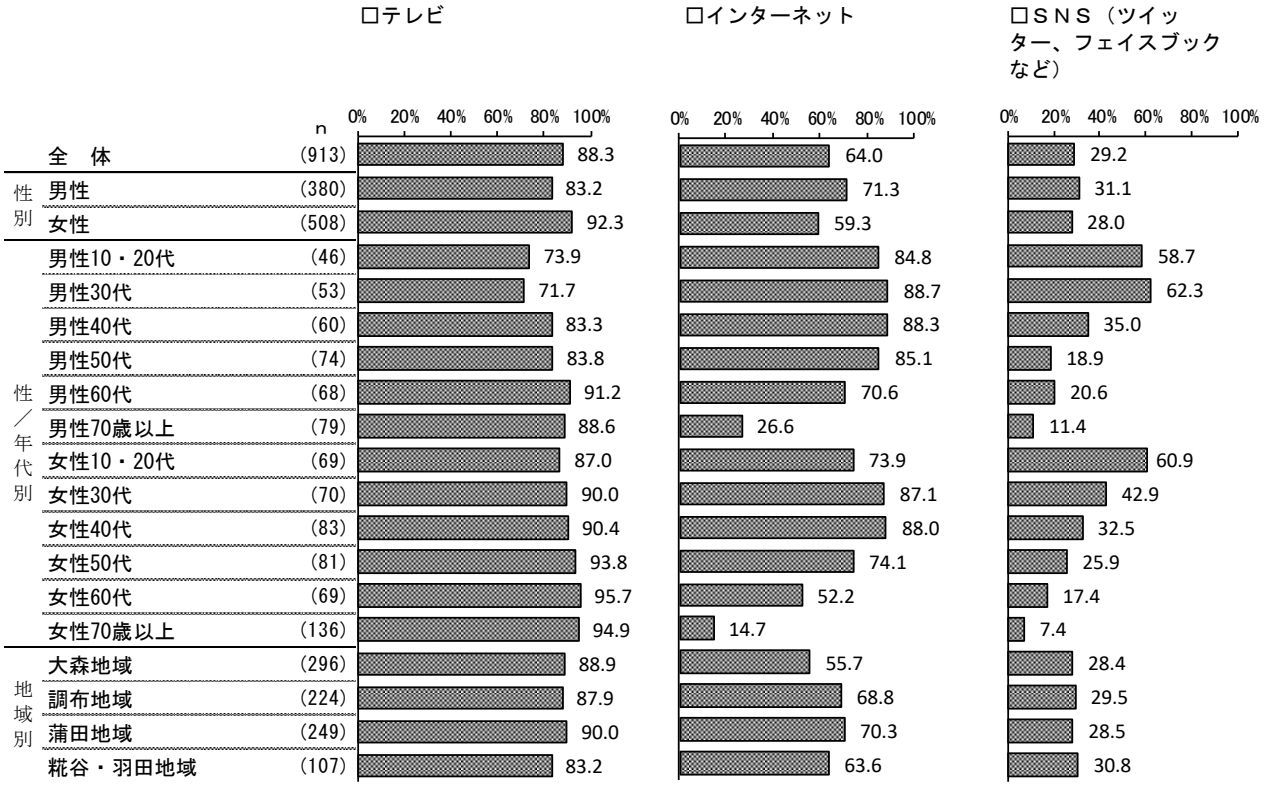
問 10　「災害時の情報」をどのように収集していますか。（○はいくつでも）

図表２－23　災害時の情報の収集方法



災害時の情報の収集方法について聞いたところ、「テレビ」が 88.3％で最も高く、次いで、「インターネット」（64.0％）、「ＳＮＳ（ツイッター、フェイスブックなど）」（29.2％）となっている。（図表２－23）

図表２－24　災害時の情報の収集方法（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



災害時の情報の収集方法について、上位６項目を性別でみると、「インターネット」では男性（71.3%）が女性（59.3%）を 12.0 ポイント上回っている。「安全・安心メール」では女性（25.8%）が男性（15.3%）を 10.5 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、男性 50 代以下は「インターネット」が最も高く、男性 60 代以上と女性のすべての年代で「テレビ」が最も高くなっている。

地域別でみると、すべての地域で「テレビ」が最も高くなっている。「防災行政無線」では大森地域では約１割に留まっている。（図表２－24）

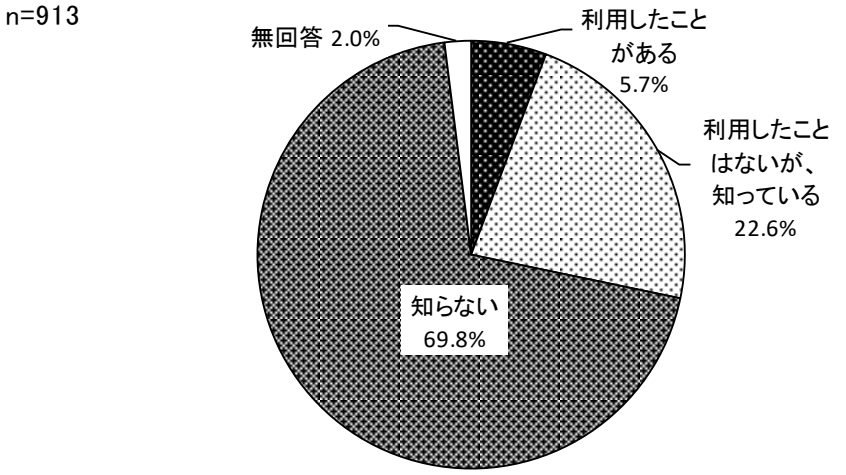
３　観光について

（１）「大田区観光情報センター」の利用の有無

◎「知らない」が約７割となっている

問 11　大田区観光情報センターを利用したことはありますか。（○は１つ）

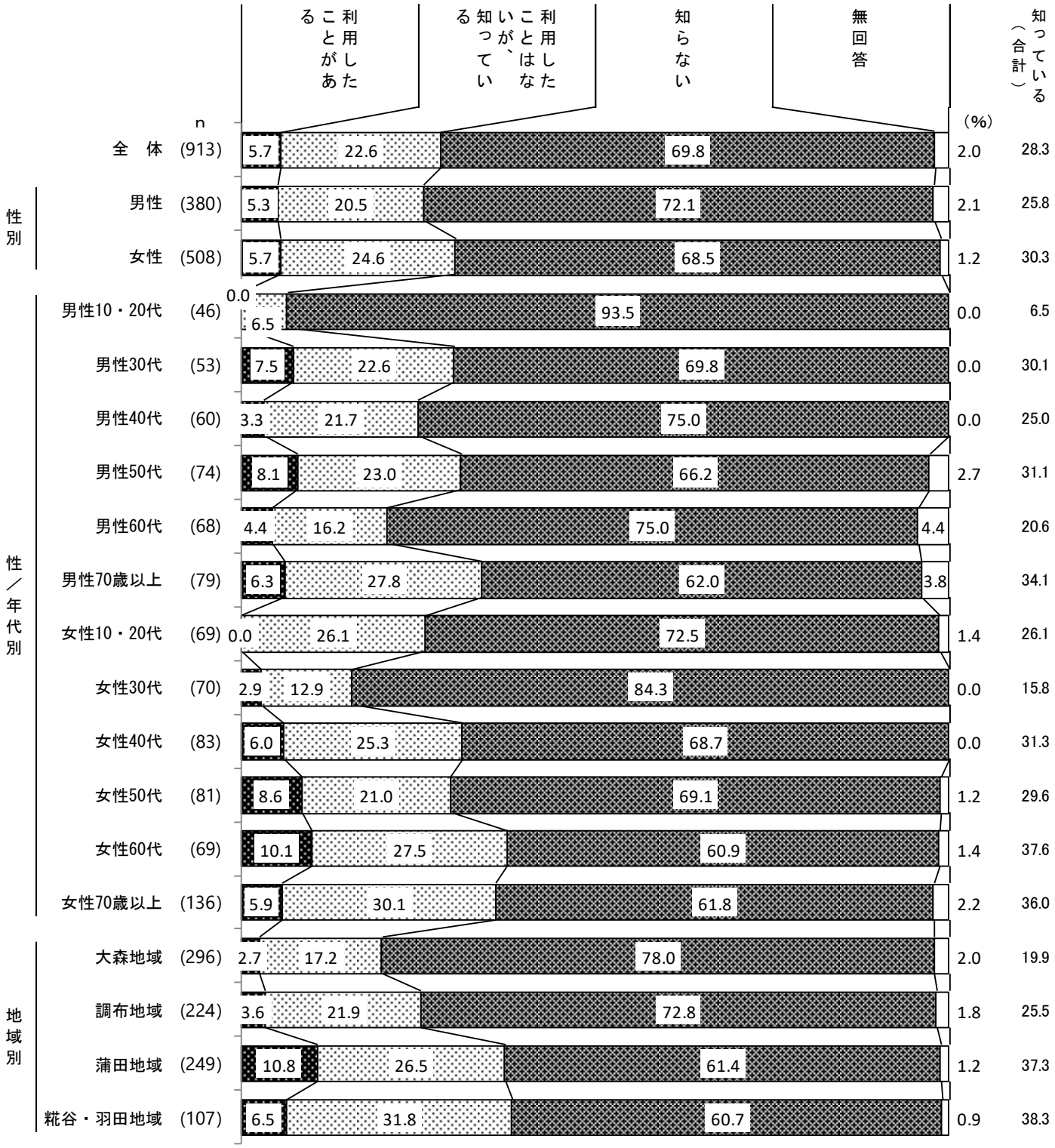
図表３－１　「大田区観光情報センター」の利用の有無



「大田区観光情報センター」を利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」(5.7%)、「利用したことはないが、知っている」(22.6%) を合わせた《知っている (合計)》は 28.3%となっている。

一方、「知らない」が 69.8%となっている。（図表３－１）

図表３－２　「大田区観光情報センター」の利用の有無（性別・性／年代別・地域別）



「大田区観光情報センター」の利用の有無について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、すべての性／年代において「知らない」は６割以上となっている。

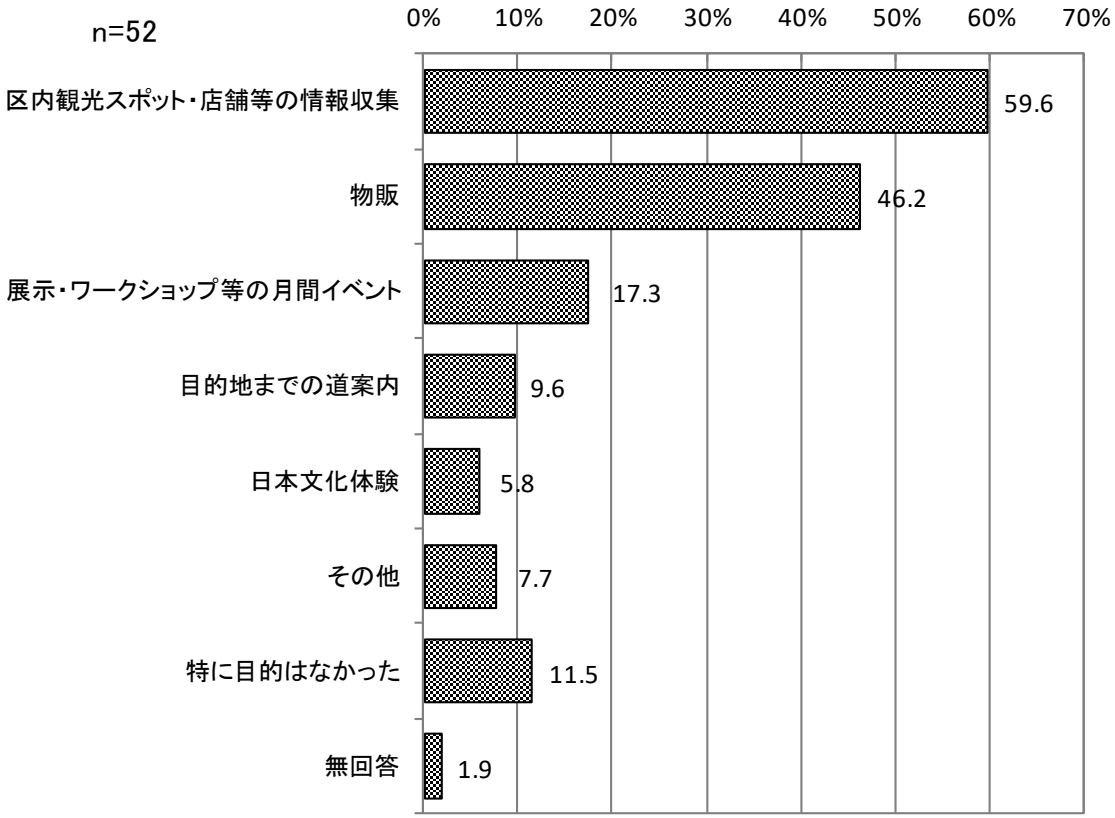
地域別でみると、《知っている（合計）》は蒲田地域、糀谷・羽田地域で３割後半、調布地域で２割半ば、大森地域で約２割となっている。（図表３－２）

（２）「大田区観光情報センター」の利用目的

◎「区内観光スポット・店舗等の情報収集」が約６割となっている

【問 11 で「１．利用したことがある」と回答された方】
問 11-１　どのような目的で利用しましたか。（○はいくつでも）

図表３－３　「大田区観光情報センター」の利用目的



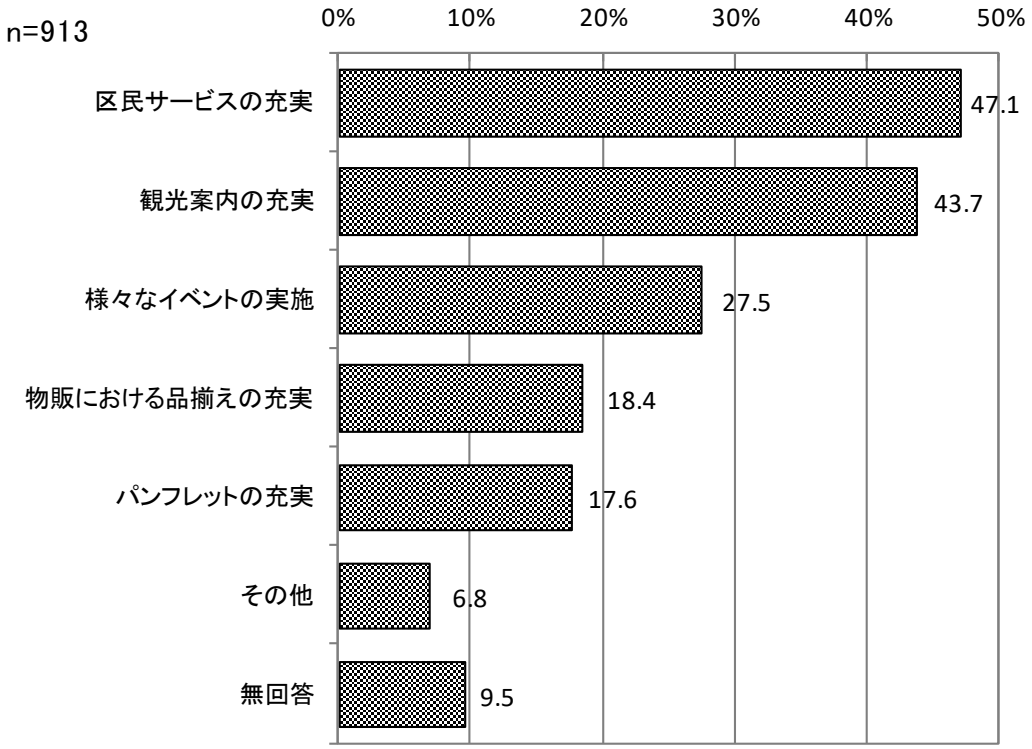
「大田区観光情報センター」の利用目的について聞いたところ、「区内観光スポット・店舗等の情報収集」が 59.6%で最も高く、次いで、「物販」（46.2%）、「展示・ワークショップ等の月間イベント」（17.3%）となっている。（図表３－３）

（３）「大田区観光情報センター」へ期待すること

◎「区民サービスの充実」が４割後半で最も高くなっている

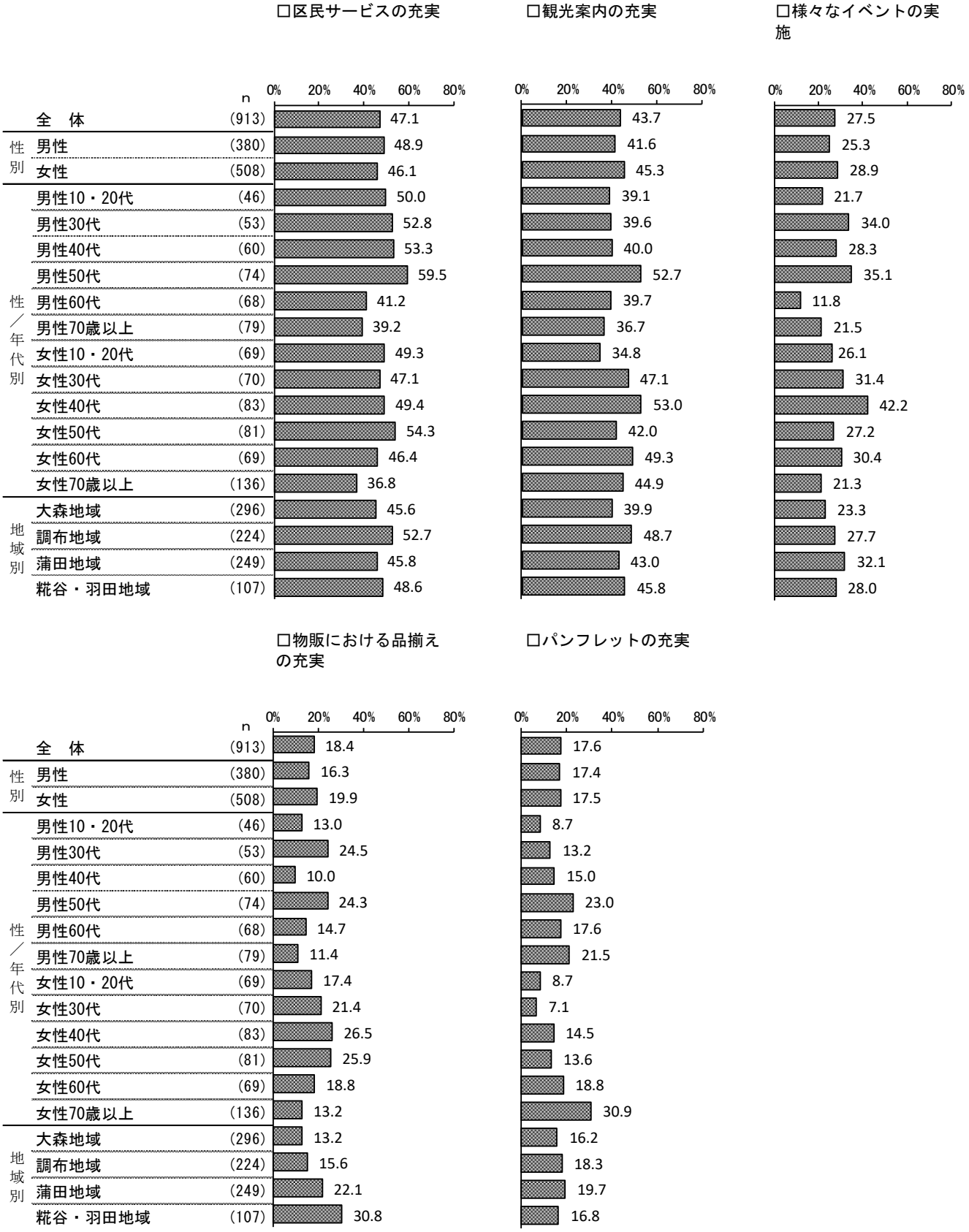
問 12　大田区観光情報センターに今後期待することは何ですか。（○はいくつでも）

図表３－４　「大田区観光情報センター」へ期待すること



「大田区観光情報センター」へ期待することを聞いたところ、「区民サービスの充実」が 47.1％で最も高く、次いで、「観光案内の充実」（43.7％）、「様々なイベントの実施」（27.5％）となっている。（図表３－４）

図表３－５　「大田区観光情報センター」へ期待すること
（性別・性／年代別・地域別　上位５項目）



「大田区観光情報センター」へ期待することについて、上位５項目を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性ではすべての年代で「区民サービスの充実」が最も高くなっている。女性では 10・20 代、50 代で「区民サービスの充実」が、40 代、60 代、70 歳以上で「観光案内の充実」が、30 代で「区民サービスの充実」と「観光案内の充実」が同率で最も高くなっている。

地域別でみると、すべての地域で「区民サービスの充実」が最も高くなっている。糀谷・羽田地域で「物販における品揃えの充実」が約３割とその他の地域より高くなっている。（図表３－５）

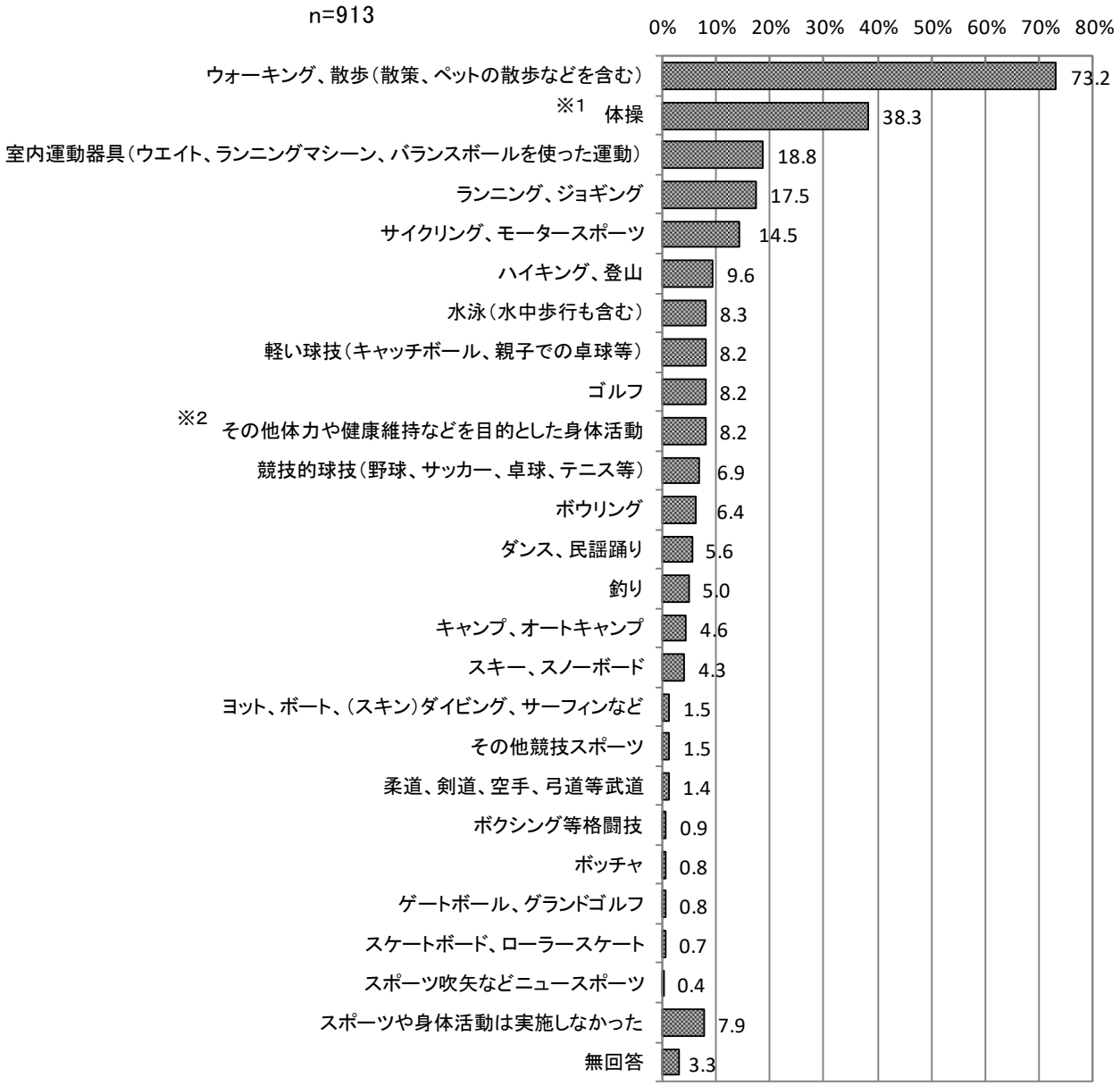
４　運動・スポーツについて

（１）最近１年で行った運動・スポーツ

◎「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が７割前半で最も高くなっている

問 13　この中にあなたが、この１年間で行ったスポーツや運動があれば、すべてお選びください。 （○はいくつでも）

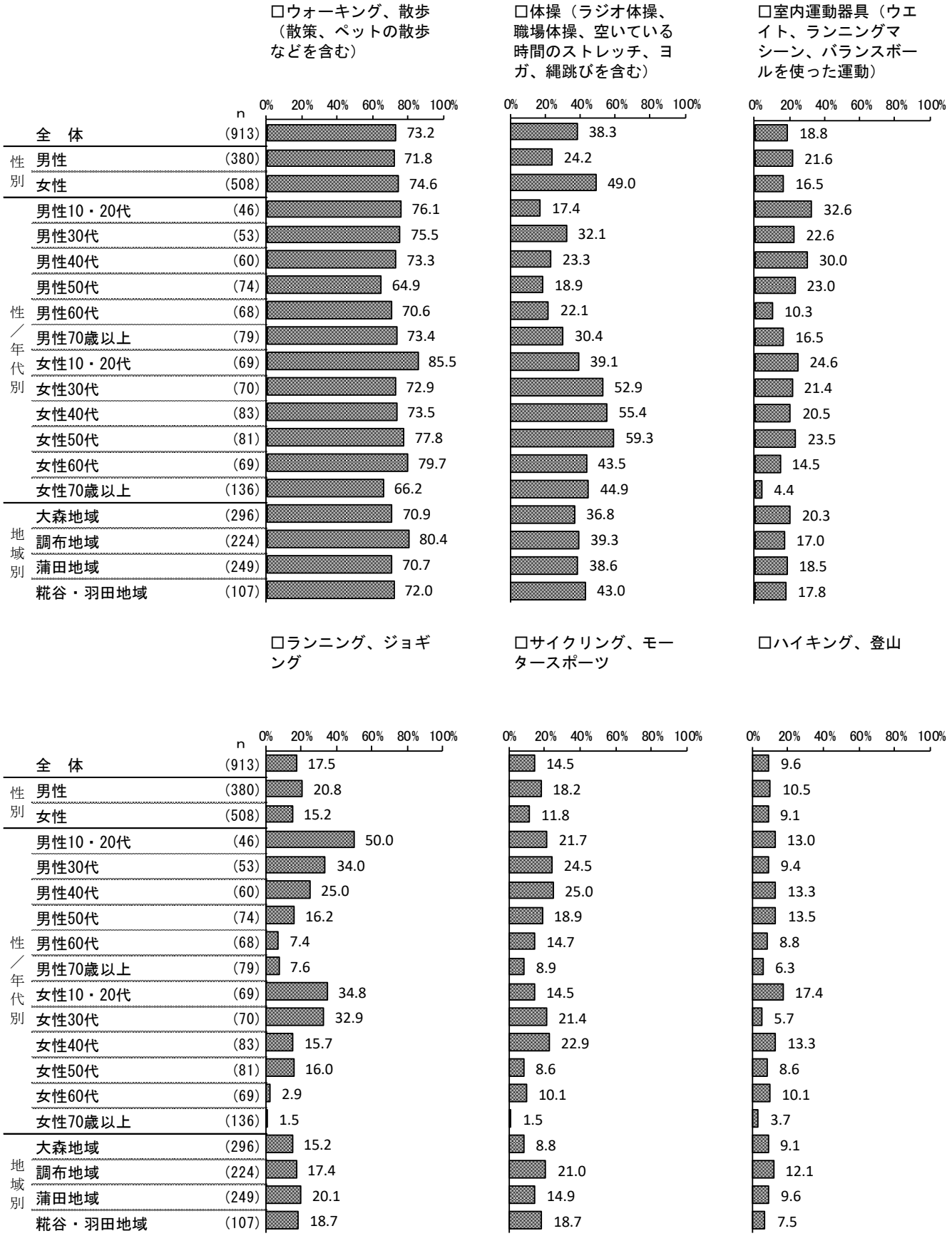
図表４－１　最近１年で行った運動・スポーツ



※１　体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）
※２　その他体力や健康の維持向上、介護予防、ストレスの解消を目的としたスポーツ、身体活動

最近１年で行った運動・スポーツについて聞いたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が 73.2％で最も高く、次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）」（38.3％）、「室内運動器具（ウエイト、ランニングマシーン、バランスボールを使った運動）」（18.8％）となっている。（図表４－１）

図表４－２　最近１年で行った運動・スポーツ（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



最近１年で行った運動・スポーツを性別でみると、男女ともに「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む)」が最も高くなっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む)」は女性（49.0％）が男性（24.2％）を 24.8 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、すべての性／年代で「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む)」が最も高く、６割以上となっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む)」は女性 30 代～50 代で５割台となっている。「ランニング・ジョギング」は男性で 10・20 代が５割となっており、年代が上がるにつれて割合は概ね低くなっている。

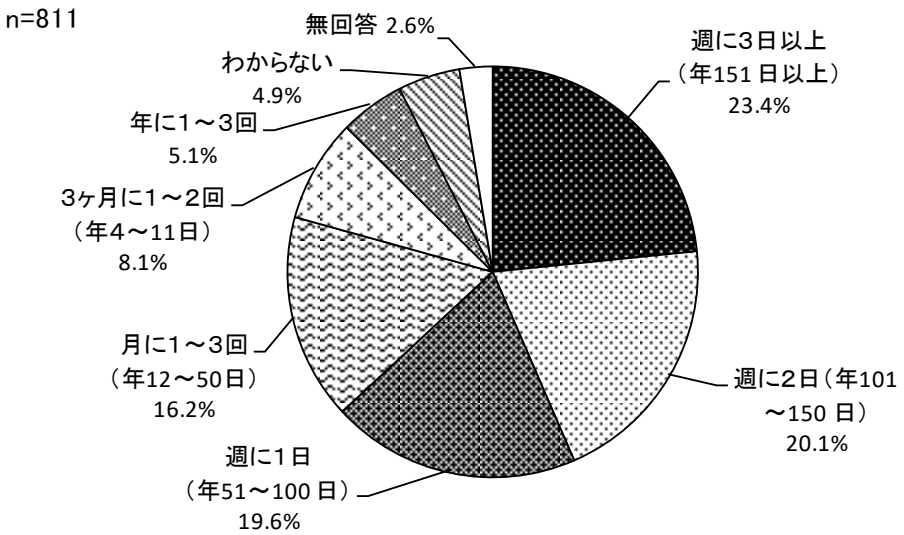
地域別でみると、すべての地域で「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む)」が最も高く、７割以上となっている。(図表４－２）

（２）最近１年間の運動・スポーツの活動頻度

◎「週に３日以上（年 151 日以上）」が２割前半で最も高くなっている

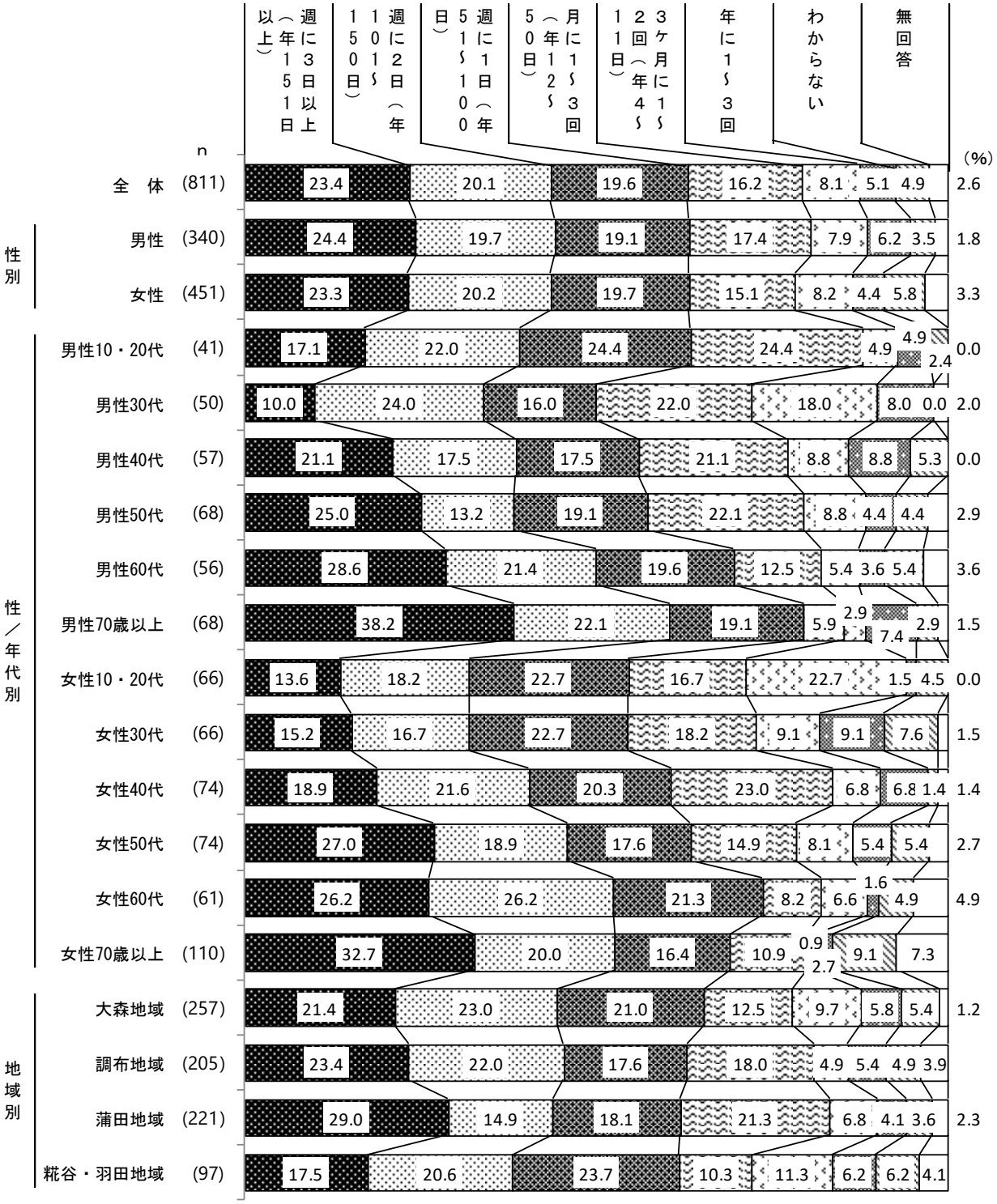
【問 13 で「１」～「24」と回答された方】 問 13-１　この１年間に運動・スポーツ活動を実施した日数を全部合わせると、何日ぐらいになりますか。（週での換算日数）（○は１つ）

図表４－３　最近１年間の運動・スポーツの活動頻度



最近１年間の運動・スポーツの活動頻度について聞いたところ、「週に３日以上（年 151 日以上）」が 23.4％で最も高く、次いで、「週に２日（年 101～150 日）」（20.1％）、「週に１日（年 51～100 日）」（19.6％）などとなっている。（図表４－３）

図表４－４　最近１年間の運動・スポーツの活動頻度（性別・性／年代別・地域別）



最近１年間の運動・スポーツの活動頻度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「週に３日以上（年 151 日以上）」は男女ともに 70 歳以上で３割台となっており、若年層に比べ高齢層が高くなっている。

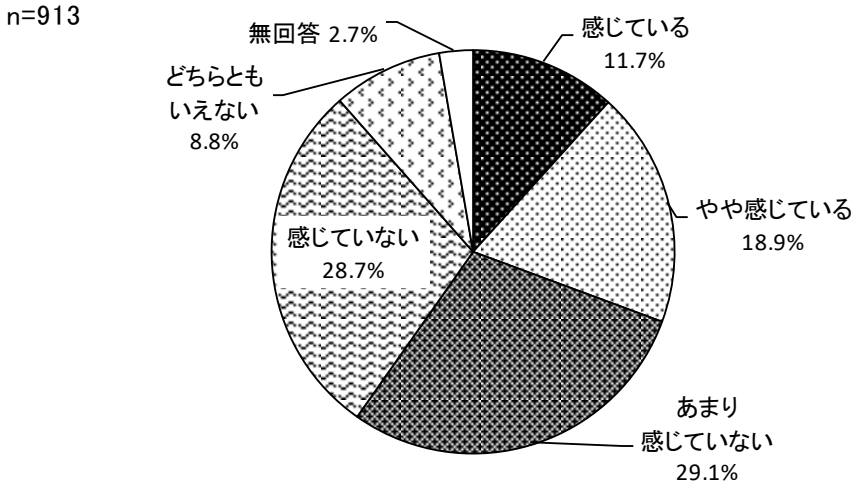
地域別でみると、糀谷・羽田地域は「週に１日以上（年 51～100 日）」が、大森地域は「週に２日以上（年 101～150 日）」が、調布地域、蒲田地域は「週に３日以上（年 151 日以上）」が最も高くなっている。（図表４－４）

（３）東京 2020 大会について

◎「あまり感じていない」が約３割となっている

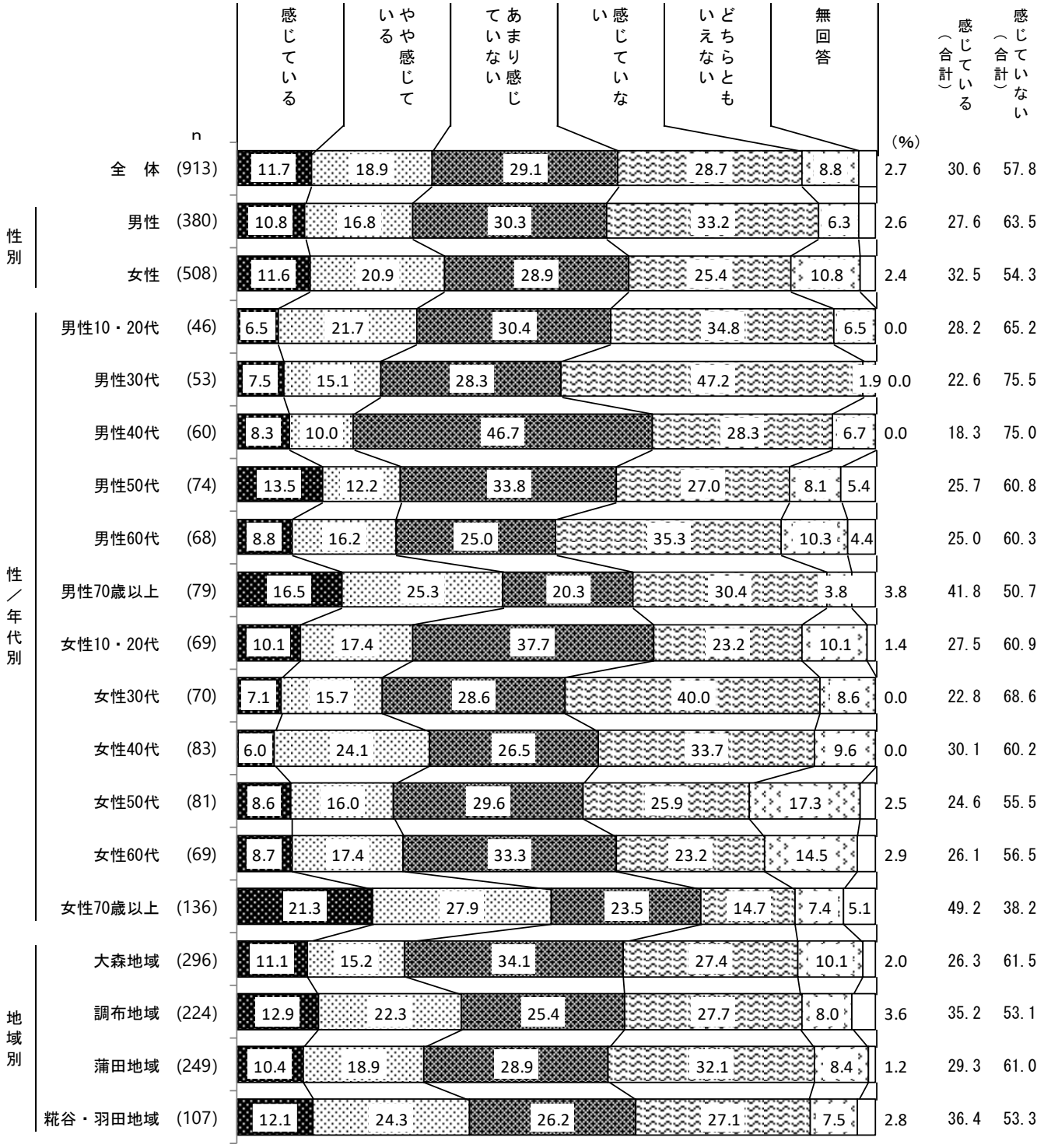
問 14　東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じますか。 （○は１つ）

図表４－５　東京 2020 大会について



東京 2020 大会が身近に感じるか聞いたところ、「あまり感じていない」が 29.1％で最も高く、「感じていない」（28.7％）と合わせた《感じていない（合計）》は 57.8％となっている。「感じている」（11.7％）と「やや感じている」（18.9％）を合わせた《感じている（合計）》は 30.6％となっている。（図表４－５）

図表４－６　東京 2020 大会について（性別・性／年代別・地域別）



東京 2020 大会について性別でみると、《感じていない（合計）》は男性（63.5%）が女性（54.3%）を 9.2 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《感じている（合計）》は女性 70 歳以上で約５割、男性 70 歳以上で約４割と、他の年代より高くなっている。男女ともに 30 代で「感じていない」が４割以上となっている。

地域別でみると、すべての地域で《感じていない（合計）》が５割以上となっている。

（図表４－６）

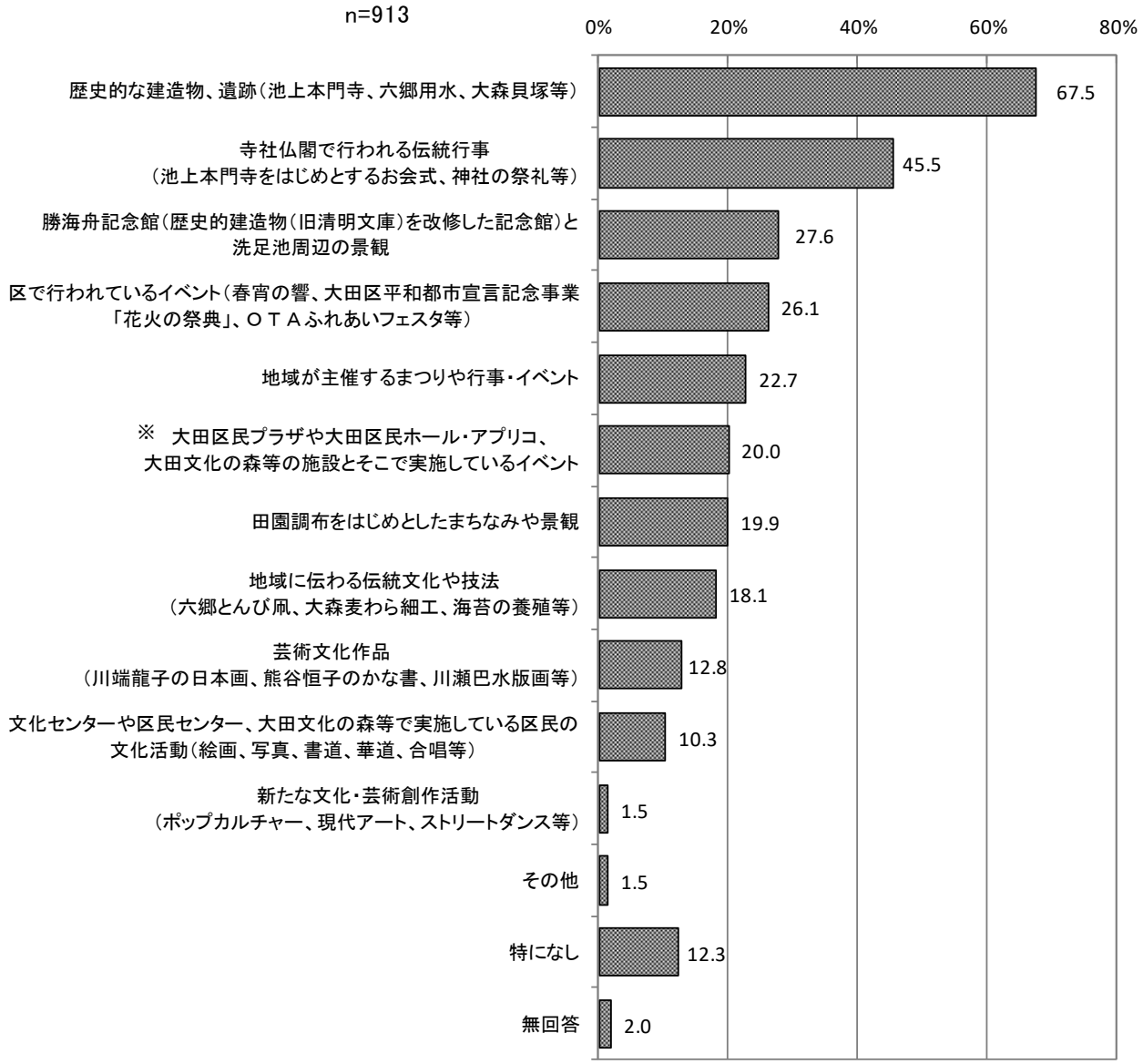
５　文化活動について

（１）大田区の文化・芸術について

◎「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が６割後半で最も高い

問 15　大田区の文化・芸術として思い浮かぶものはどのようなものですか。（○はいくつでも）

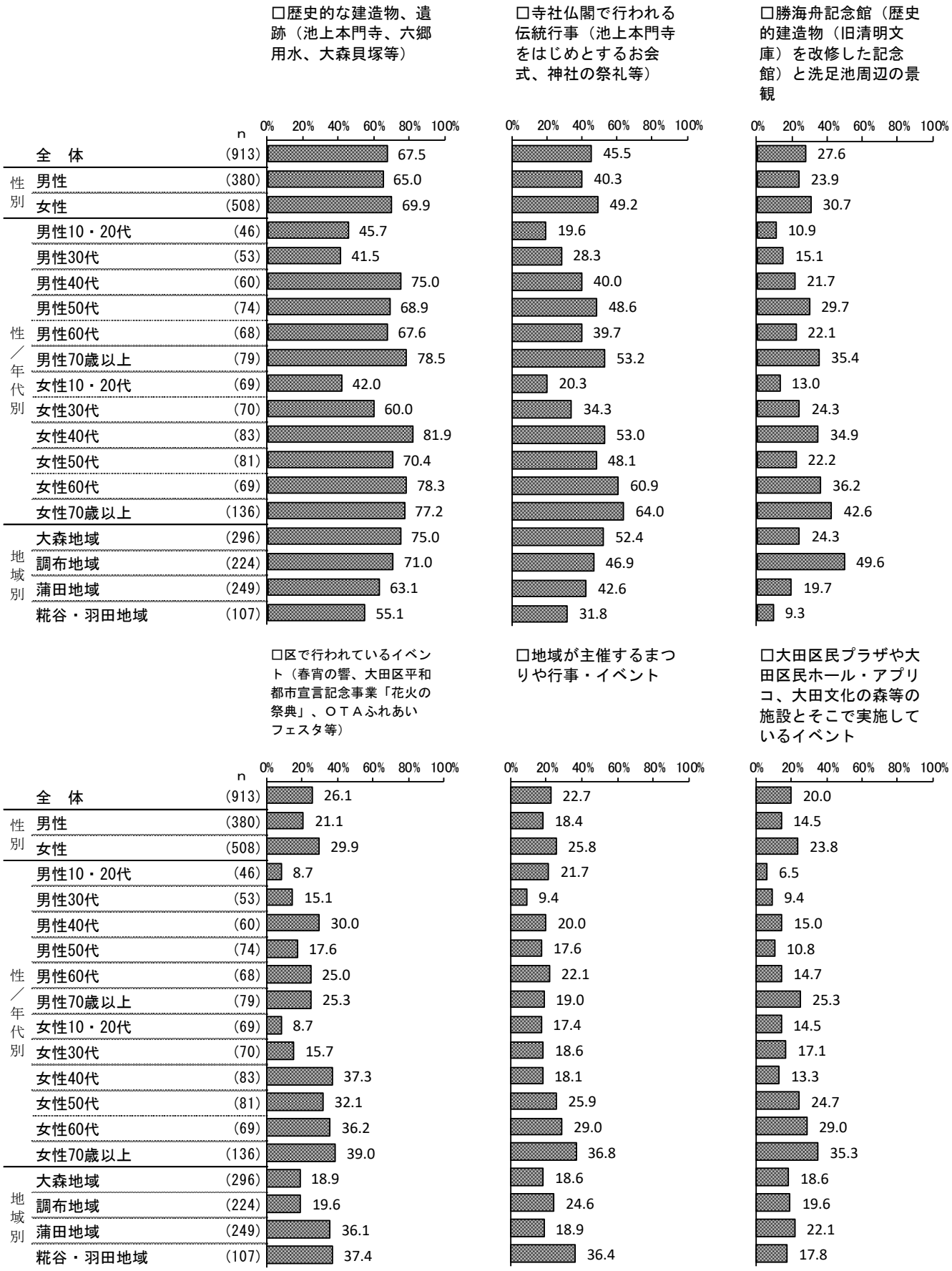
図表５－１　大田区の文化・芸術について



※　大田区民プラザや大田区民ホール・アプリコ、大田文化の森等の施設とそこで実施しているイベント（下丸子ＪＡＺＺ倶楽部、下丸子らくご倶楽部、アプリコみんなの音楽祭、大田区在住作家美術展等）

大田区の文化・芸術として思い浮かぶものについて聞いたところ、「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が 67.5％で最も高く、次いで、「寺社仏閣で行われる伝統行事（池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等）」（45.5％）、「勝海舟記念館（歴史的建造物（旧清明文庫）を改修した記念館）と洗足池周辺の景観」（27.6％）となっている。（図表５－１）

図表５－２　大田区の文化・芸術について（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



大田区の文化・芸術として思い浮かぶものについて、上位６項目を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、すべての性／年代で「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が最も高く、女性 40 代では約８割となっている。「寺社仏閣で行われる伝統行事（池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等）」は女性 60 代、70 歳以上で６割台、男性 70 歳以上で５割前半となっている。

地域別でみると、すべての地域で「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が最も高くなっている。「勝海舟記念館（歴史的建造物（旧清明文庫）を改修した記念館）と洗足池周辺の景観」は調布地域で約５割とその他の地域より高くなっている。（図表５－２）

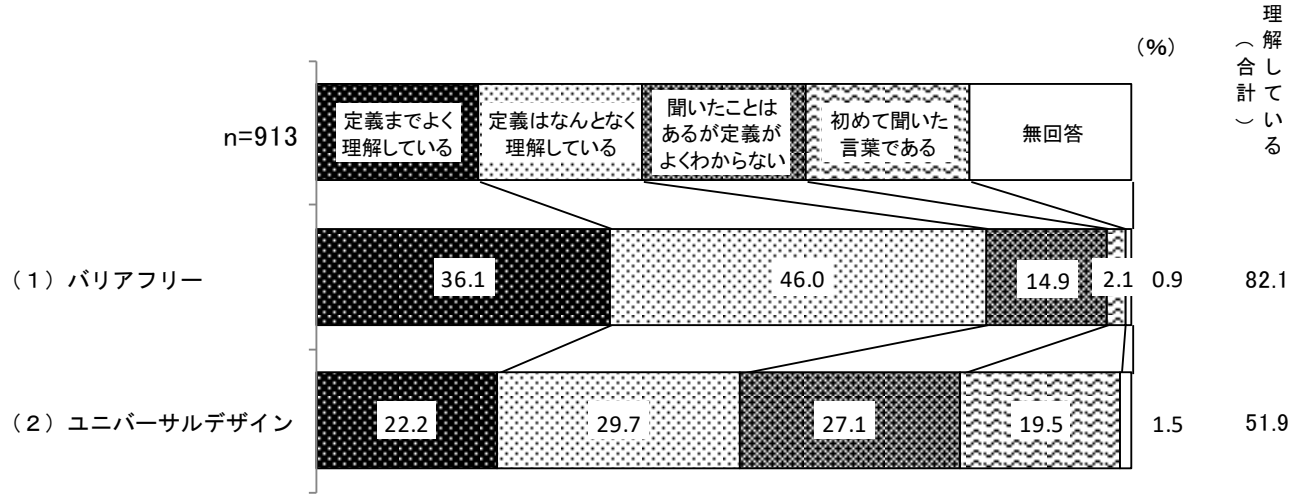
６　バリアフリーについて

（１）「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度

◎《理解している（合計）》はバリアフリーが８割前半、ユニバーサルデザインは約５割

問 16　「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知ですか。
（○はそれぞれ１つ）
（１）バリアフリー
※高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁（バリア）を取り除く考え方
（２）ユニバーサルデザイン
※バリアフリーの考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍（言語）、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの人が利用しやすいように生活環境を構築する考え方

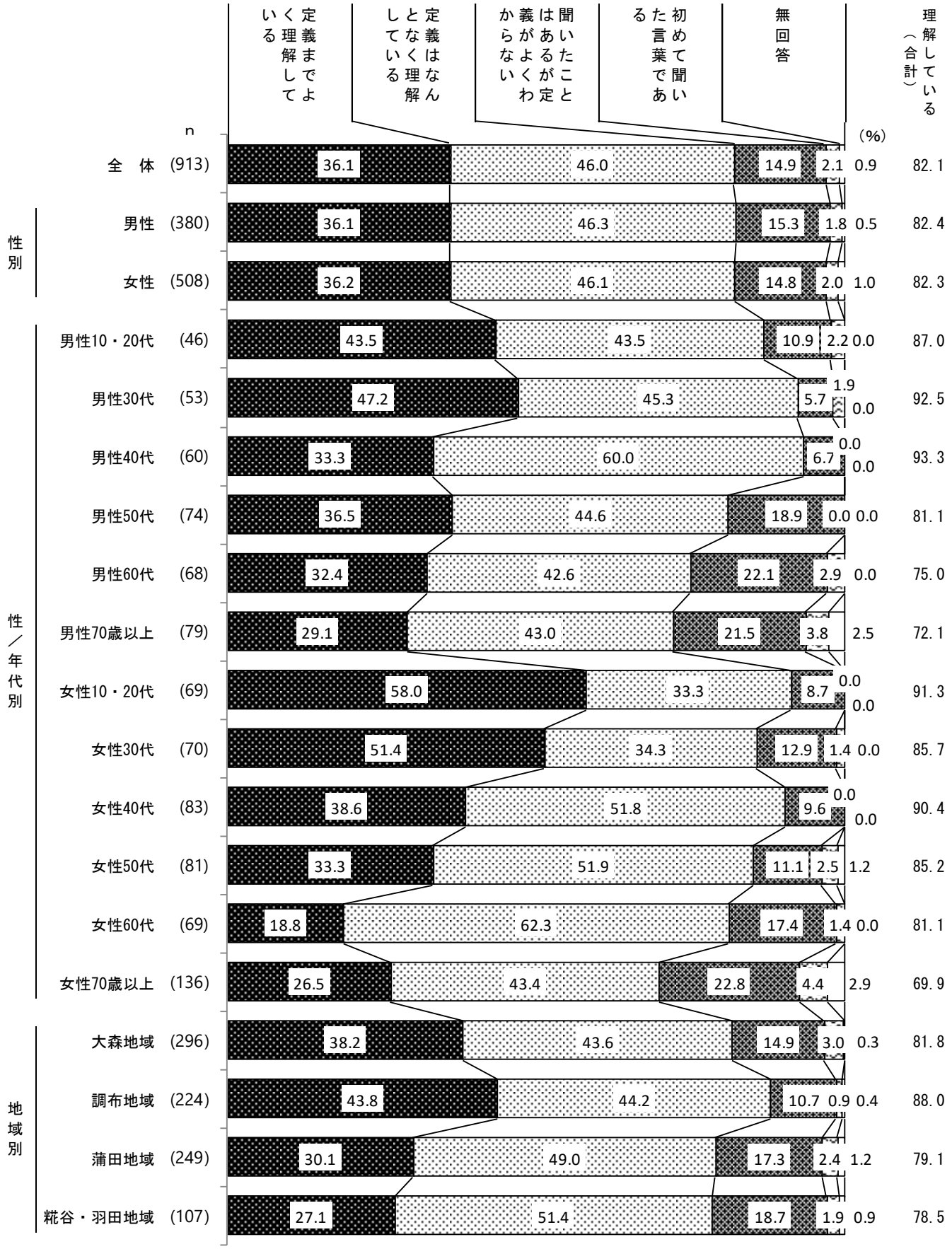
図表６－１　「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度



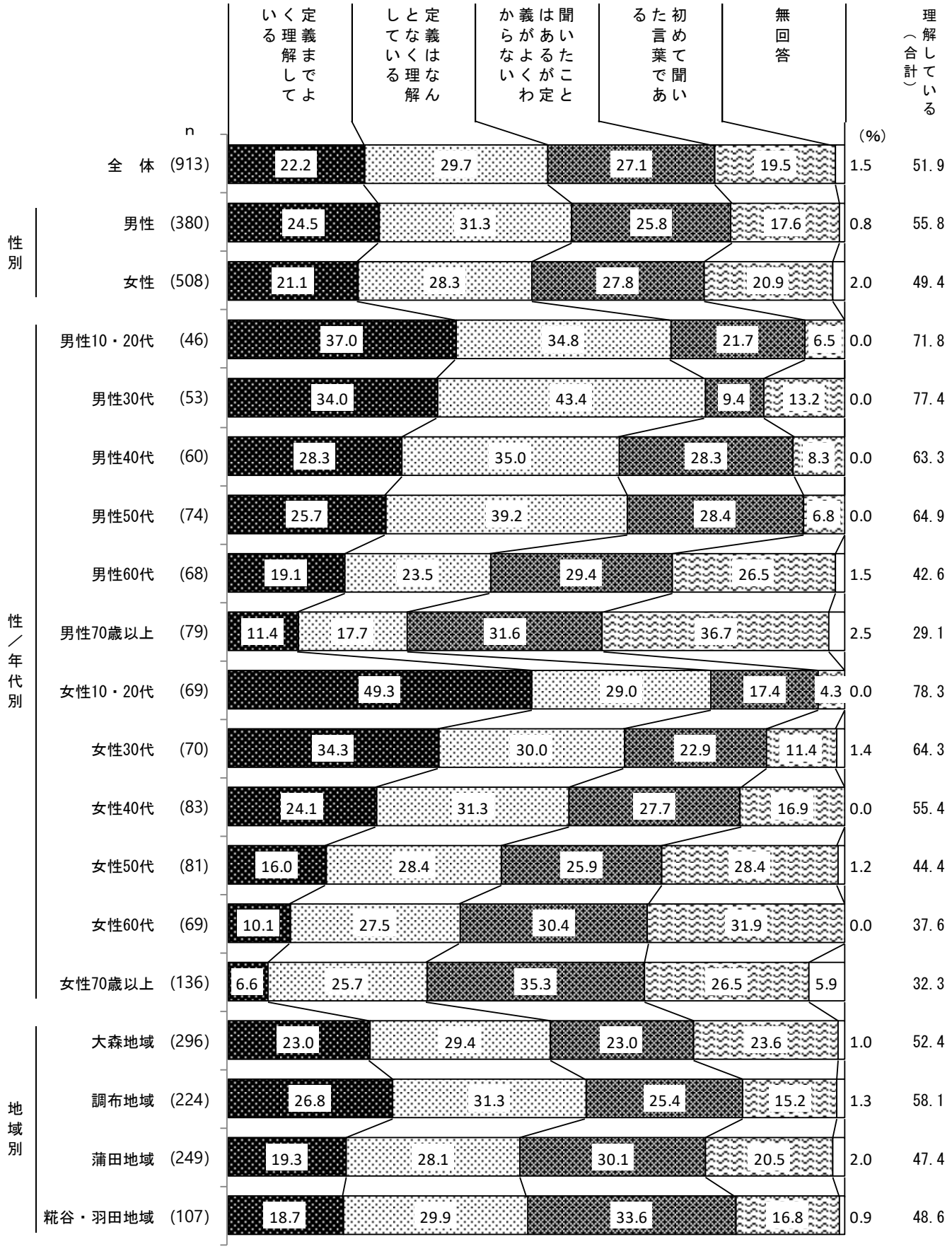
【バリアフリー】の認知度について聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」が 46.0%で最も高く、「定義までよく理解している」（36.1%）と合わせた《理解している（合計）》は 82.1%となっている。

【ユニバーサルデザイン】の認知度について聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」が 29.7%で最も高く、「定義までよく理解している」（22.2%）と合わせた《理解している（合計）》は 51.9%となっている。（図表６－１）

図表６－２　「バリアフリー」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



図表６－３　「ユニバーサルデザイン」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



【バリアフリー】の認知度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「定義までよく理解している」は男性 10・20 代、30 代で４割台、女性 10・20 代、30 代で５割台と他の年代より高くなっている。

地域別でみると、調布地域で「定義までよく理解している」が４割前半と高くなっている。（図表６－２）

【ユニバーサルデザイン】の認知度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、女性 10・20 代で「定義までよく理解している」が約５割と他の年代より高く、男女ともに年代が上がるにつれ割合は低くなっている。

地域別でみると、《理解している（合計)》は大森地域、調布地域が５割台、蒲田地域、糀谷・羽田地域が４割後半となっている。（図表６－３）

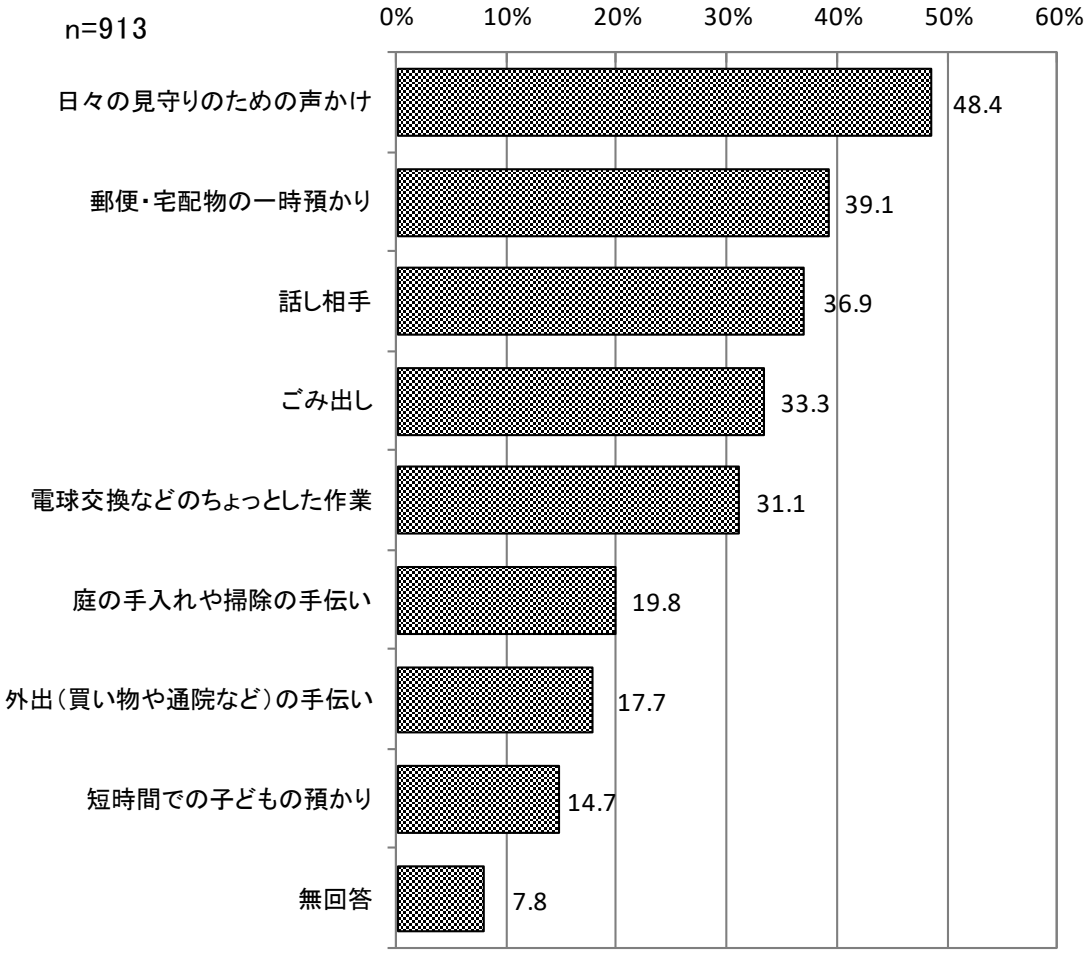
７　施策等の認知度について

（１）近所への手助けについて

◎「日々の見守りのための声かけ」が４割後半で最も高くなっている

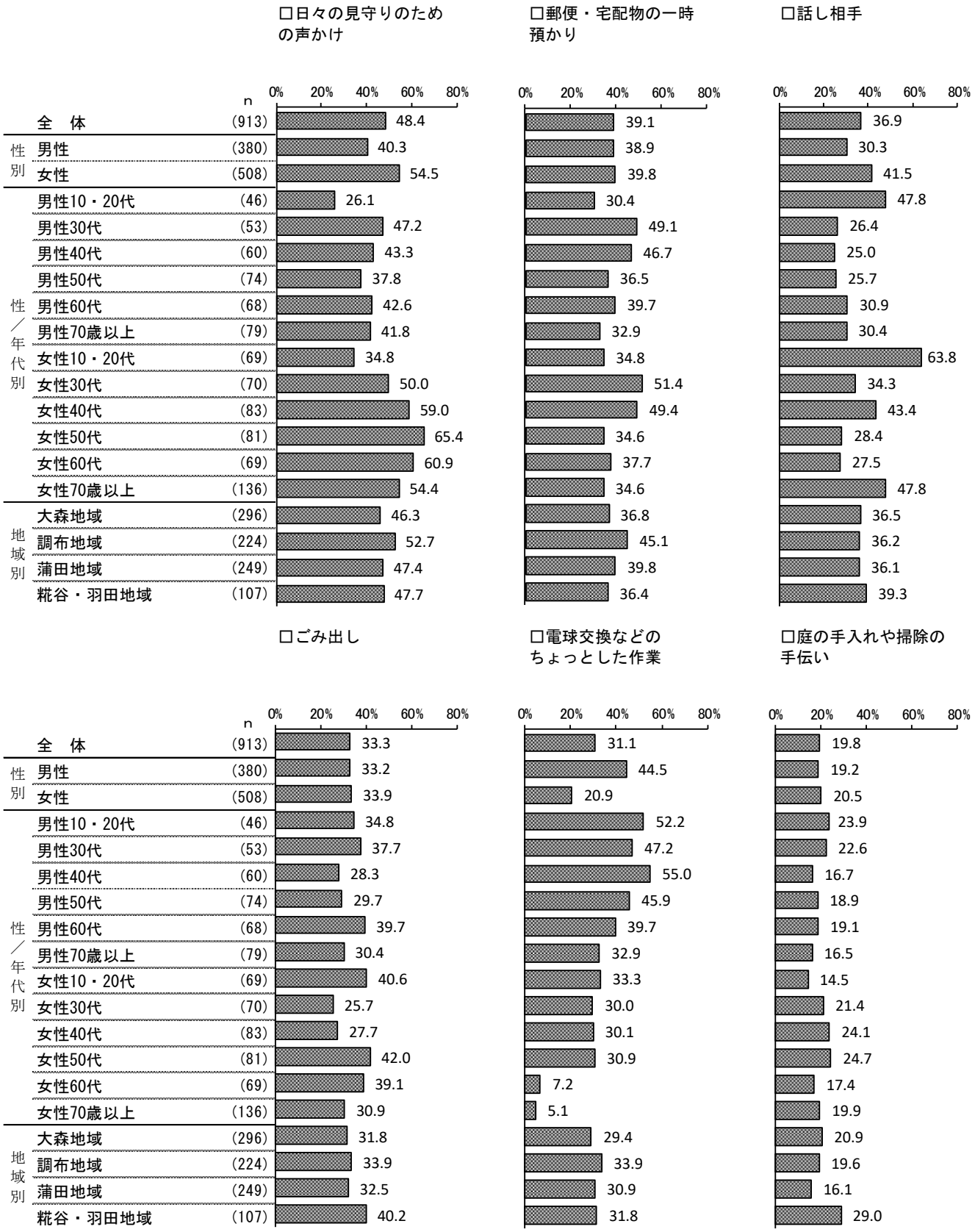
問 17　あなたが近所の方から次のことを頼まれた場合、手助けできると思うことを教えてください。（○はいくつでも）

図表７－１　近所への手助けについて



近所への手助けについて聞いたところ、「日々の見守りのための声かけ」が 48.4％で最も高く、次いで、「郵便・宅配物の一時預かり」（39.1％）、「話し相手」（36.9％）となっている。（図表７－１）

図表７－２　近所への手助けについて（性別・性／年代別・地域別）



近所への手助けについて性別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は女性（54.5%）が男性（40.3%）を 14.2 ポイント、「電球交換などのちょっとした作業」は男性（44.5%）が女性（20.9%）を 23.6 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は女性 50 代、60 代で６割台、30 代、40 代、70 歳以上で５割台と、すべての年代で男性を上回っている。また、「話し相手」では女性 10・20 代が 63.8%と高くなっている。

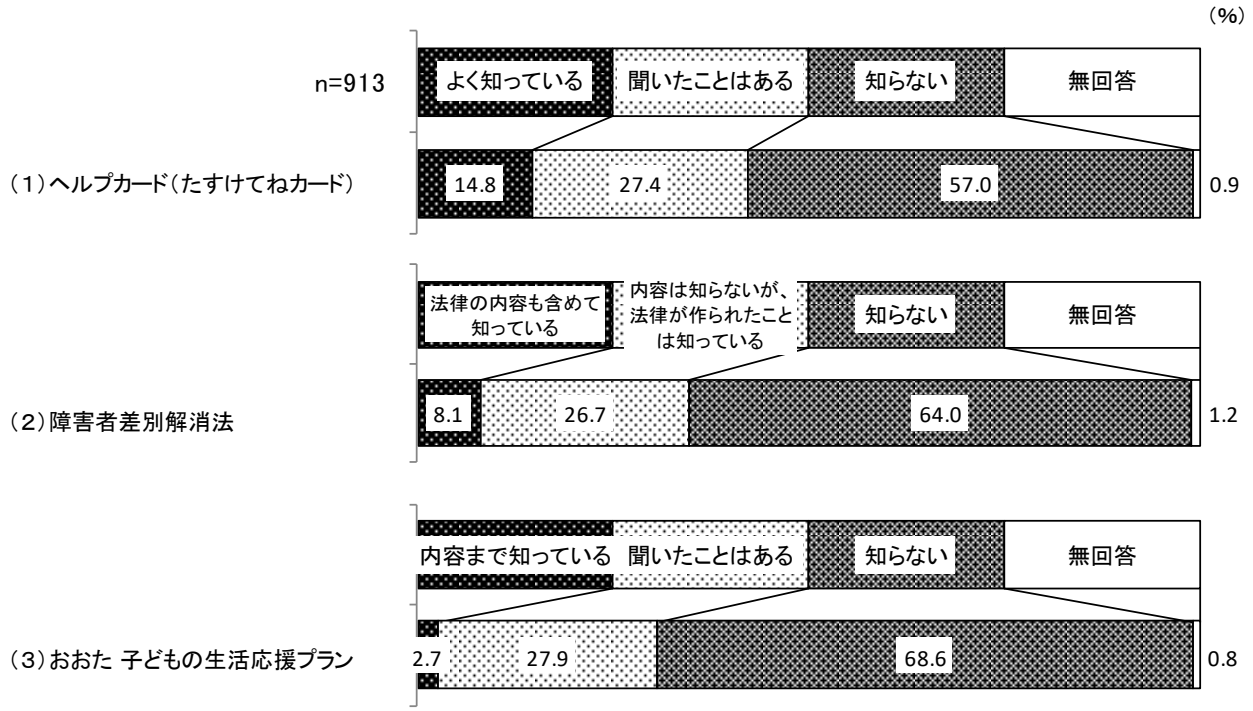
地域別でみると、「日々の見守りのための声かけ」は調布地域で５割前半、その他の地域で４割台となっている。（図表７－２）

（２）大田区の制度、計画の認知度について

◎ヘルプカード（たすけてねカード）を「よく知っている」は１割半ば、
障害者差別解消法、おおた 子どもの生活応援プランを「内容まで知っている」は１割未満

問 18　以下の（１）～（３）の制度、計画などをご存知ですか。（○はそれぞれ１つ）
（１）ヘルプカード（たすけてねカード）
※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード（大田区が作成）
（２）障害者差別解消法
※障がいのある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会づくりを目指して、平成 28 年４月に施行された法律
（３）おおた　子どもの生活応援プラン
※大田区の子どもの貧困対策に関する計画

図表７－３　大田区の制度、計画の認知度について

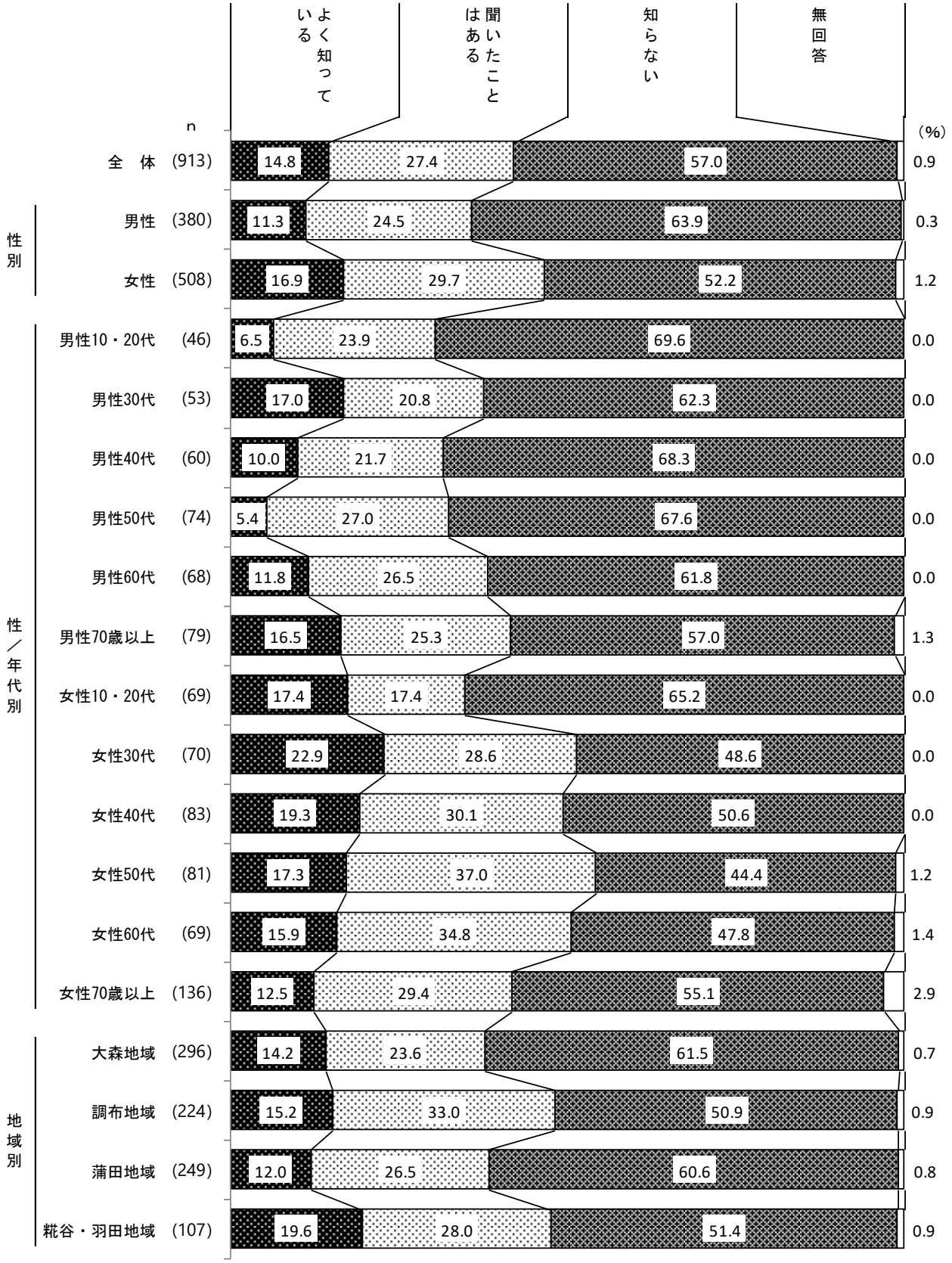


【ヘルプカード（たすけてねカード）】を知っているか聞いたところ、「よく知っている」が 14.8%、「聞いたことはある」が 27.4%、「知らない」が 57.0%となっている。

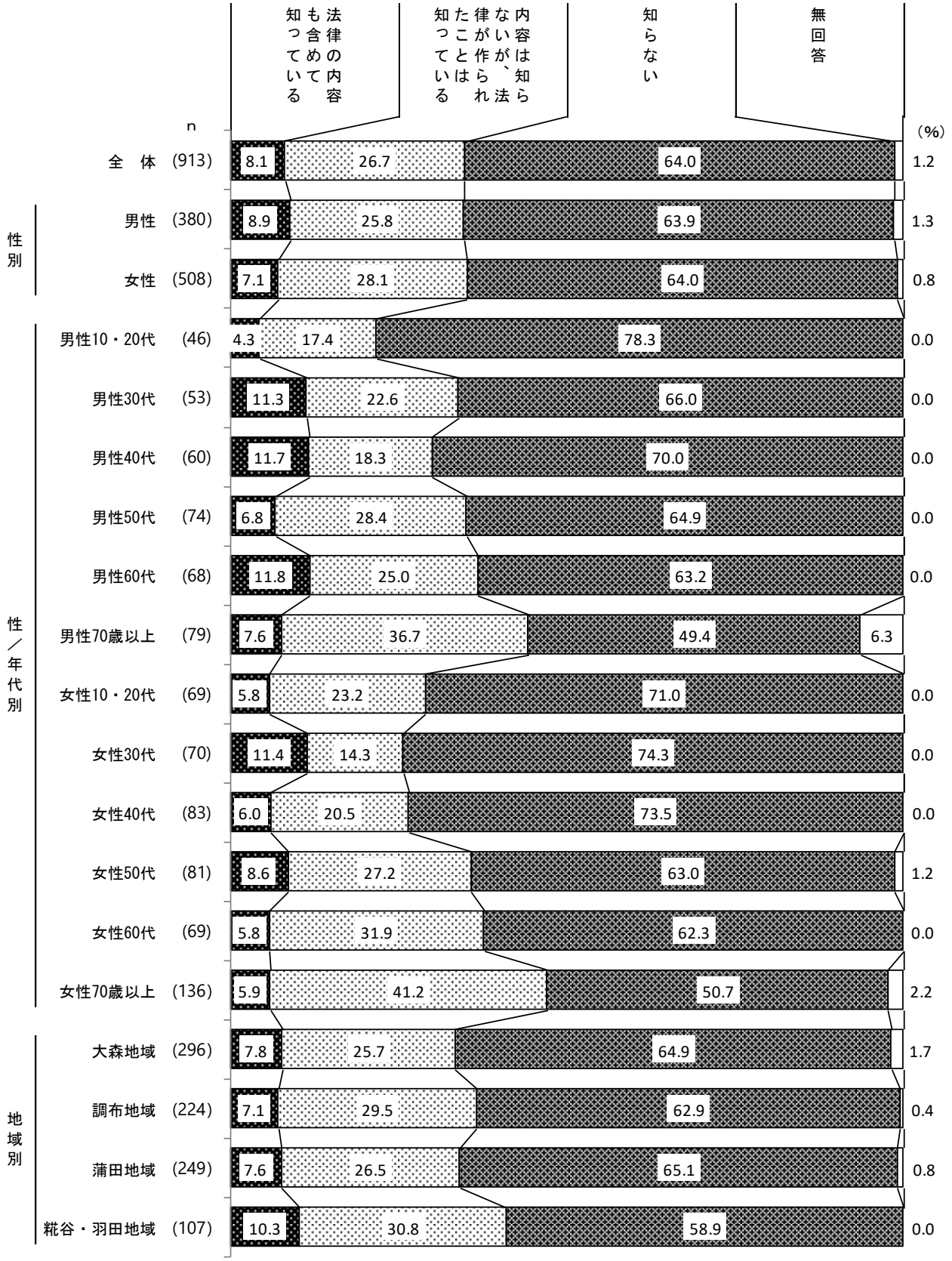
【障害者差別解消法】を知っているか聞いたところ、「法律の内容も含めて知っている」が 8.1%、「内容は知らないが、法律が作られたことは知っている」が 26.7%、「知らない」が 64.0%となっている。

【おおた 子どもの生活応援プラン】の認知度について聞いたところ、「内容まで知っている」が 2.7%、「聞いたことはある」が 27.9%、「知らない」が 68.6%となっている。（図表７－３）

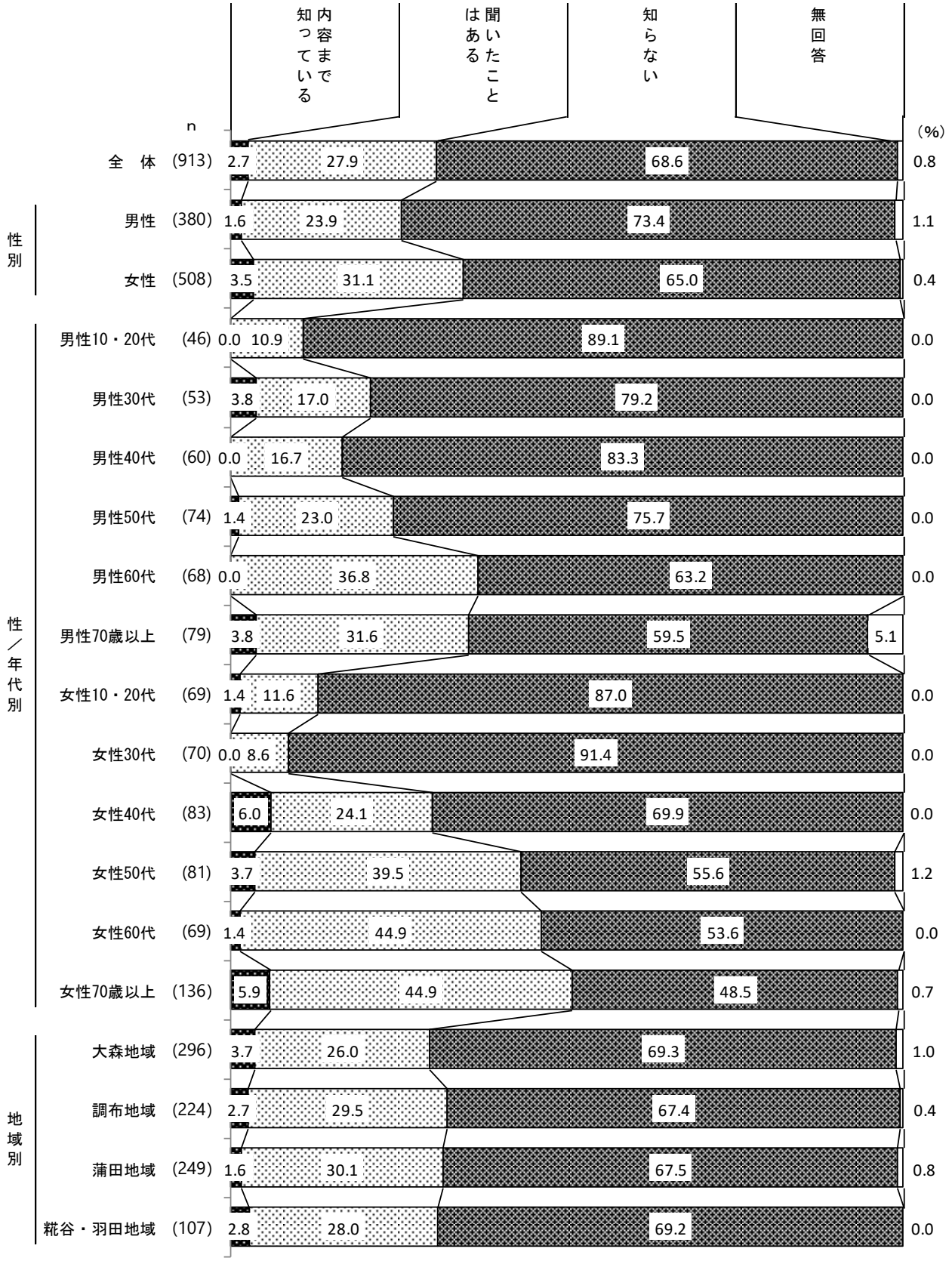
図表７－４　大田区の制度、計画の認知度について（１）ヘルプカード（たすけてねカード）
（性別・性／年代別・地域別）



図表７－５　大田区の制度、計画の認知度について（２）障害者差別解消法
（性別・性／年代別・地域別）



図表７－６　大田区の制度、計画の認知度について（３）おおた 子どもの生活応援プラン
（性別・性／年代別・地域別）



【ヘルプカード(たすけてねカード)】の認知度を性別でみると、「よく知っている」は女性(16.9%)が男性（11.3%）を5.6ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「よく知っている」は女性30代が２割前半となっている。

地域別でみると、すべての地域で「知らない」が５割以上となっている。(図表７－４)

【障害者差別解消法】の認知度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「知らない」は男女ともに70歳以上が約５割で、その他の性／年代では６割以上となっている。

地域別でみると、すべての地域で「知らない」が５割後半以上となっている。(図表７－５)

【おおた 子どもの生活応援プラン】の認知度を性別でみると、「聞いたことはある」は女性(31.1%)が男性（23.9%）を7.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「聞いたことはある」は女性60代、女性70歳以上で４割半ばとその他の性／年代より高くなっている。

地域別でみると、すべての地域でおいて「知らない」は６割半ば以上となっている。(図表７－６)

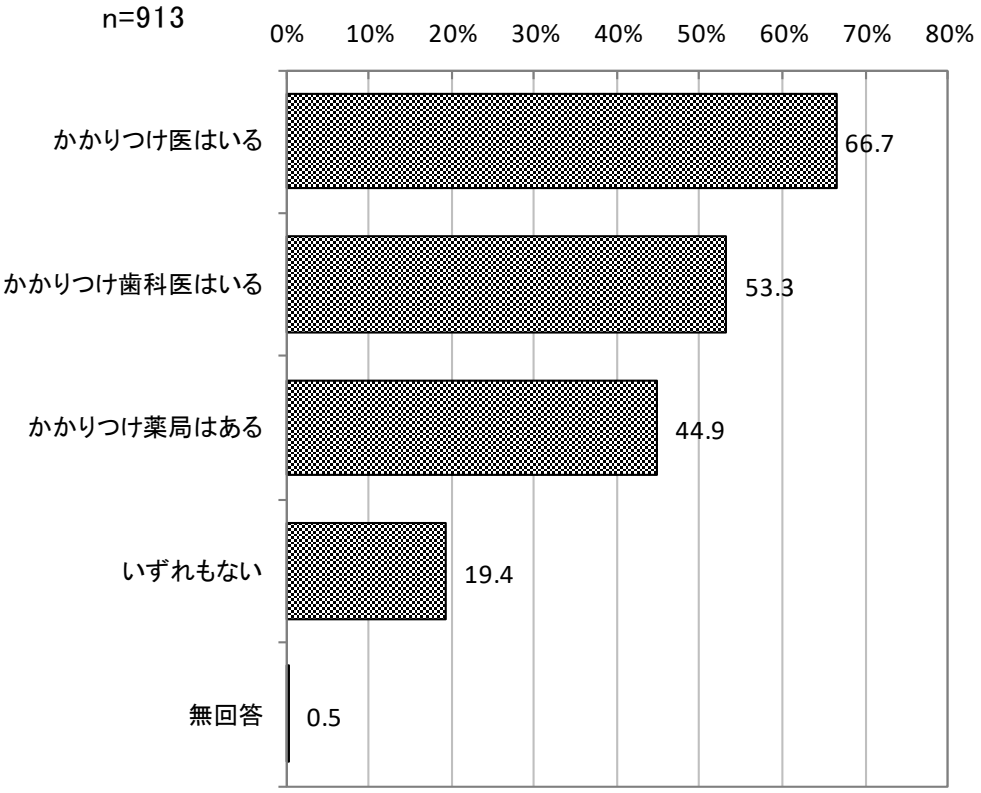
８　通院、在宅医療について

（１）かかりつけの医療機関について

◎「かかりつけ医はいる」が６割半ばで最も高くなっている

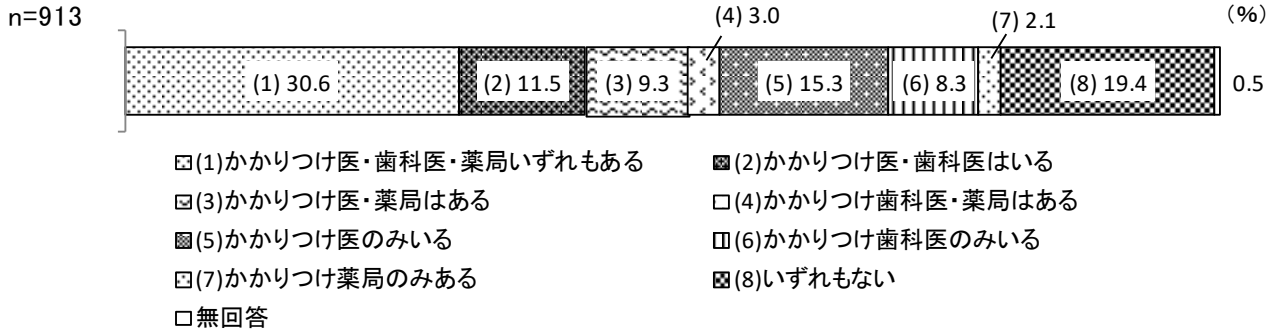
問 19　かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。（○はいくつでも）

図表８－１　かかりつけの医療機関について



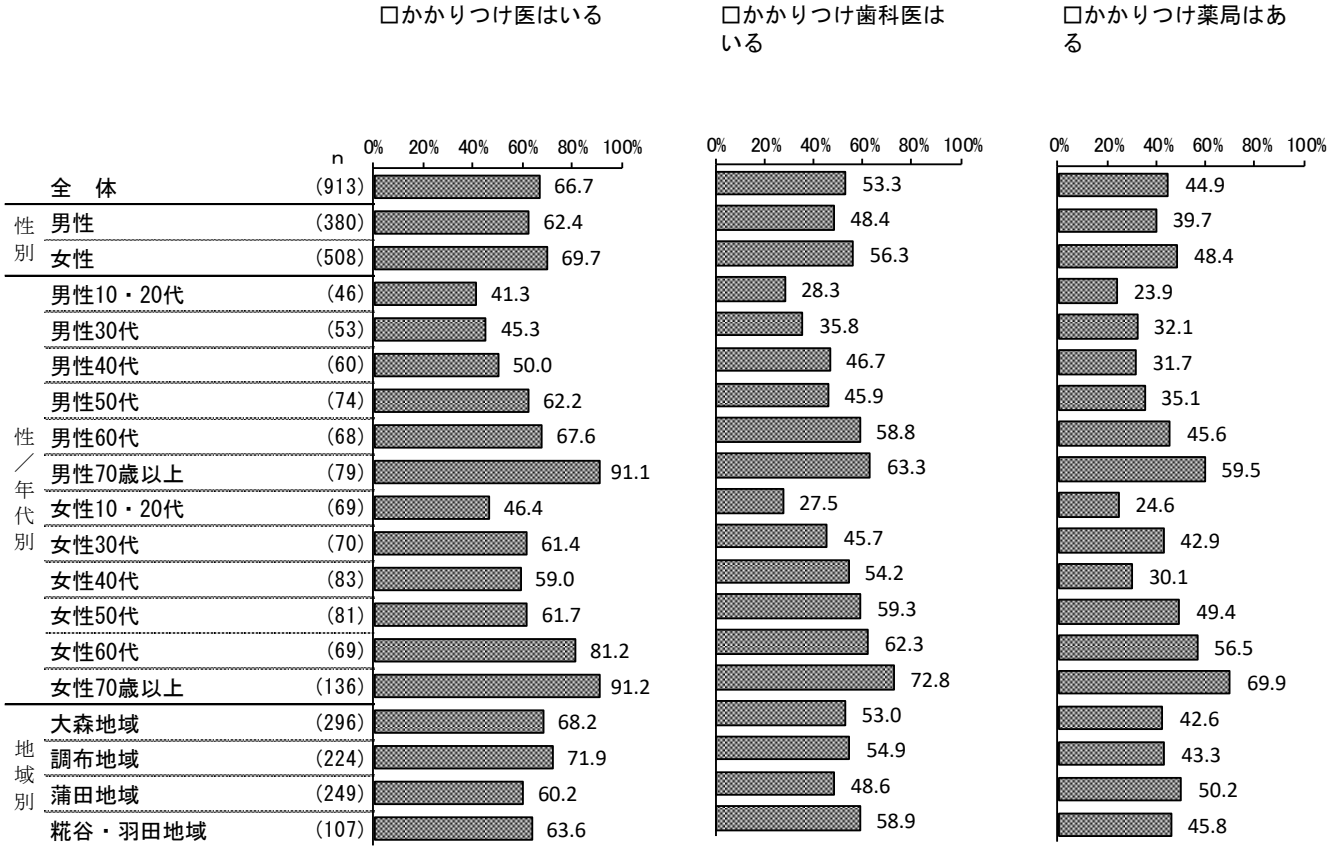
かかりつけの医療機関について聞いたところ、「かかりつけ医はいる」が 66.7％で最も高く、次いで、「かかりつけ歯科医はいる」（53.3％）、「かかりつけ薬局はある」（44.9％）などとなっている。（図表８－１）

図表８－２　かかりつけの医療機関について



また、「かかりつけ医・歯科医・薬局いずれもある」人は 30.6％、「かかりつけ医のみいる」人は 15.3％などとなっている。（図表８－２）

図表８－３　かかりつけの医療機関について（性別・性／年代別・地域別　上位３項目）



かかりつけの医療機関について性別でみると、「かかりつけ医はいる」は女性（69.7%）が男性（62.4%）を 7.3 ポイント、「かかりつけ歯科医はいる」は女性（56.3%）が男性（48.4%）を 7.9 ポイント、「かかりつけ薬局はある」は女性（48.4%）が男性（39.7%）を 8.7 ポイント上回っている。

性／年代別にみると、「かかりつけ医はいる」は男女ともに 70 歳以上が約９割、「かかりつけ歯科医はいる」は女性 70 歳以上が７割前半、男性 70 歳以上、女性 60 代が６割前半、「かかりつけ薬局はある」は女性 70 歳以上が約７割、男性 70 歳以上が約６割と、いずれも高齢者層が高くなっている。

地域別でみると、「かかりつけ医はいる」は調布地域で約７割、大森地域、蒲田地域、糀谷・羽田地域で６割台となっている。（図表８－３）

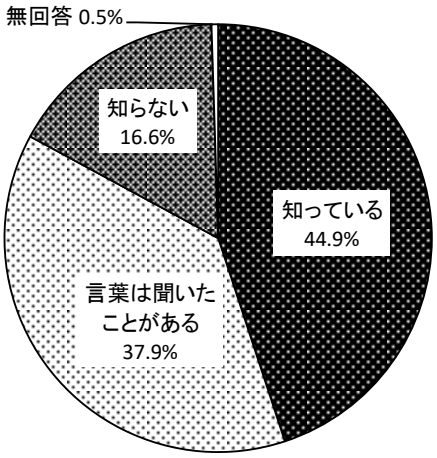
（２）「在宅医療」の認知度

◎「知っている」が４割半ばとなっている

問 20　「在宅医療」の制度や仕組みについて知っていますか。（○は１つ） ※在宅医療とは、自宅等において、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら、療養生活を送ること。

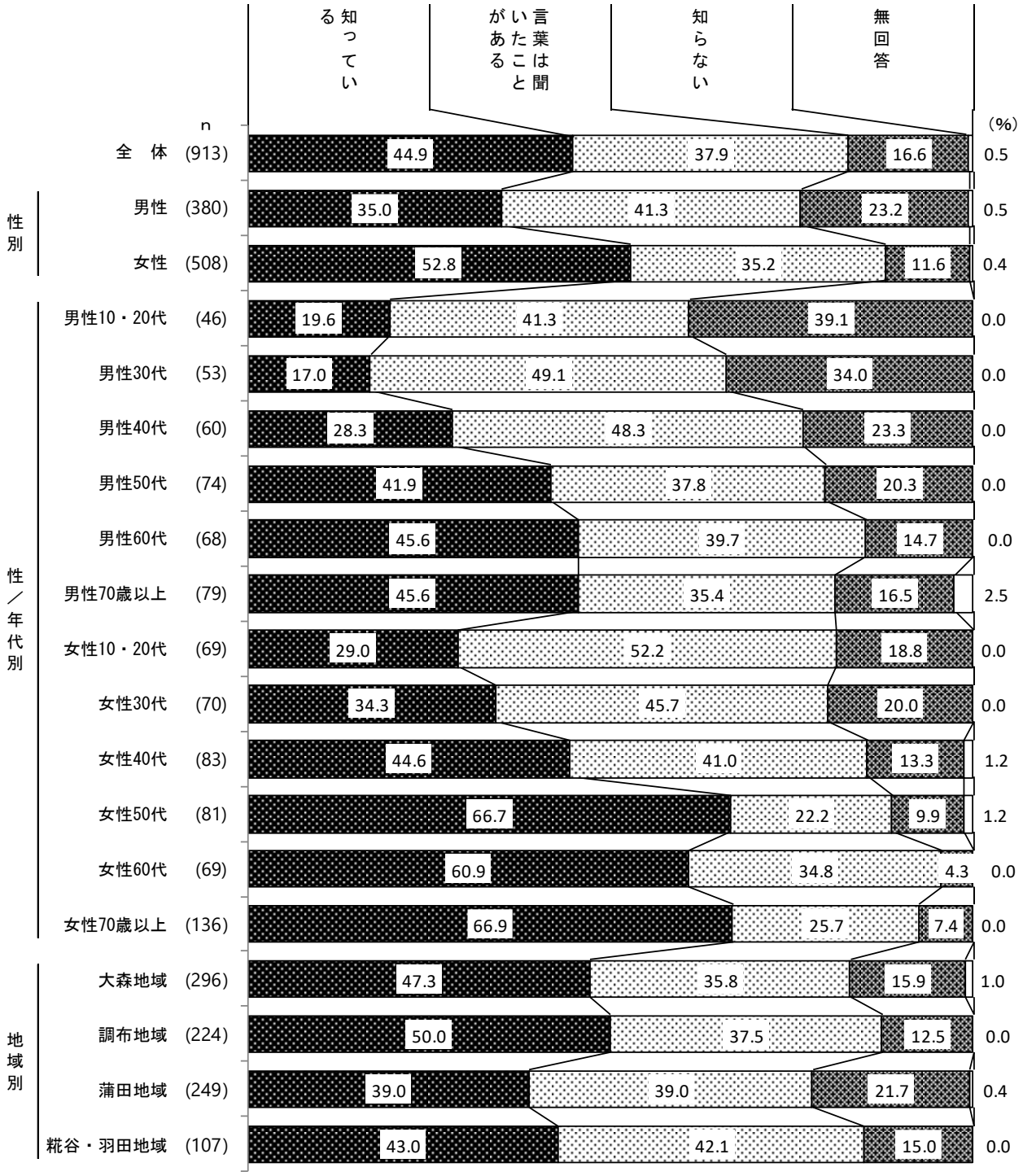
図表８－４　「在宅医療」の認知度

n=913



「在宅医療」の認知度について聞いたところ、「知っている」が 44.9%、「言葉は聞いたことがある」が 37.9%、「知らない」が 16.6%となっている。（図表８－４）

図表８－５　「在宅医療」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「在宅医療」の認知度を性別でみると、「知っている」は女性（52.8%）が男性（35.0%）を 17.8 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は女性 50 代以上で６割台、男性 50 代以上、女性 40 代で４割台と高齢層で高く、すべての年代で女性が男性を上回っている。

地域別でみると、「知っている」は調布地域で５割となっている。（図表８－５）

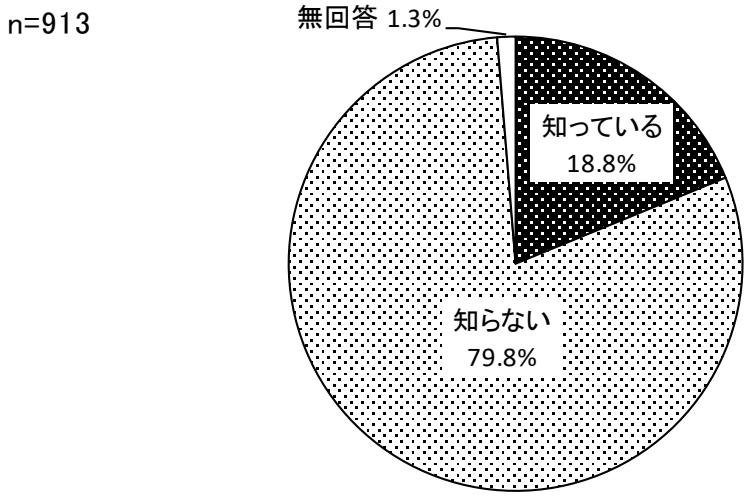
９　災害時の医療について

（１）災害時の医療制限の認知度

◎「知っている」は１割後半となっている

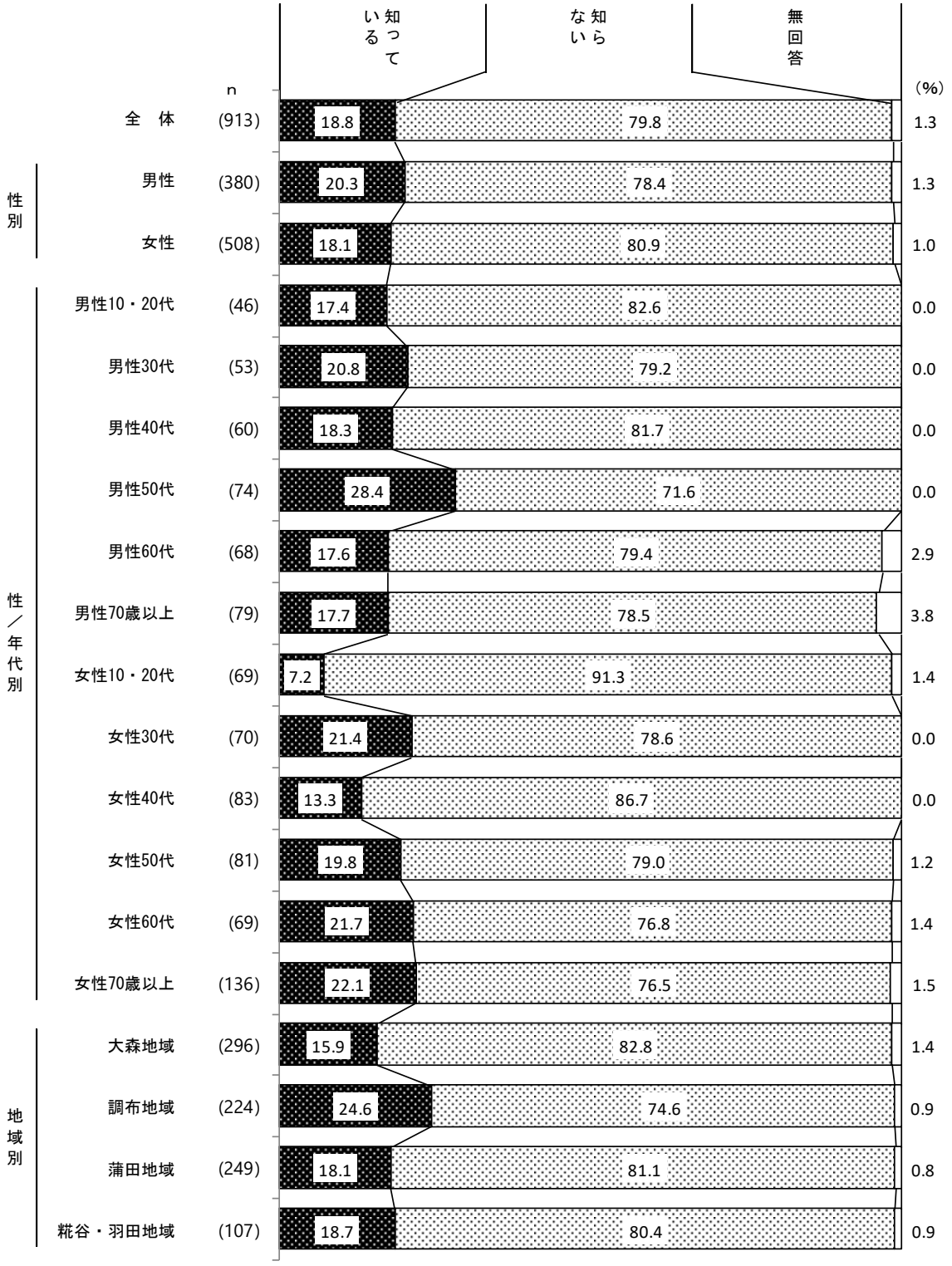
問 21　区内で震度６弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合、医療を提供可能な施設が限定されることを、ご存知ですか。（○は１つ）

図表９－１　災害時の医療制限の認知度



災害時に医療を提供可能な施設が限定されることを知っているか聞いたところ、「知っている」が 18.8%、「知らない」が 79.8%となっている。（図表９－１）

図表９－２　災害時の医療制限の認知度（性別・性／年代別・地域別）



災害時の医療制限の認知度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性 50 代で「知っている」が 28.4%とその他の年代より高くなっている。「知らない」は女性 10・20 代で約９割となっている。

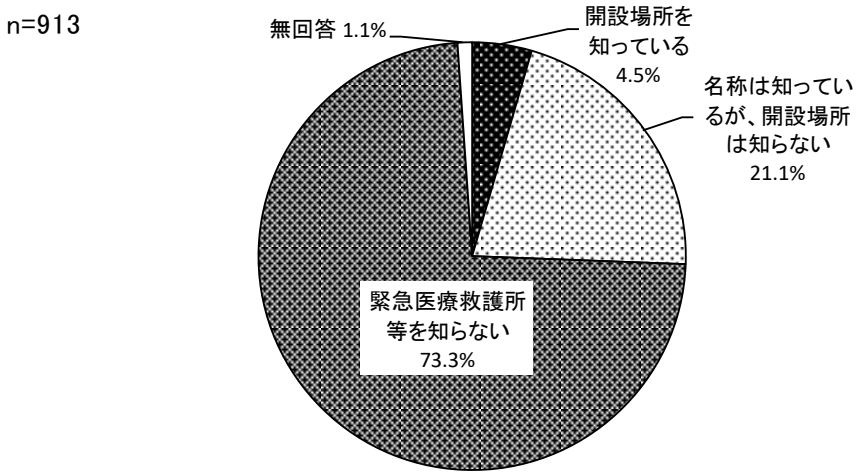
地域別でみると、「知っている」は調布地域で 24.6%とその他の地域より高くなっている。（図表９－２）

（２）災害時の緊急医療開設場所の認知度

◎「緊急医療救護所等を知らない」が７割前半となっている

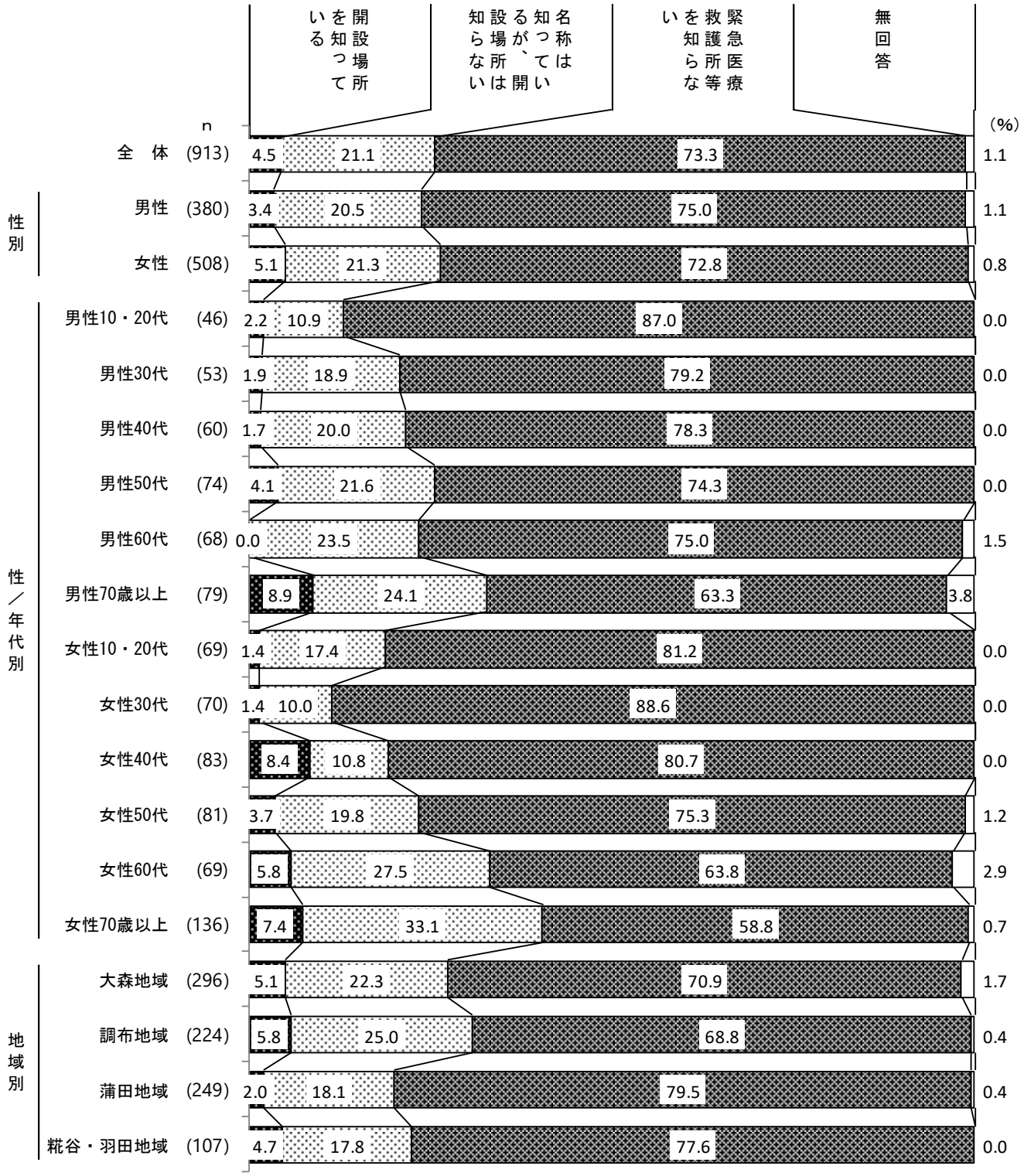
問 22　区内で震度６弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合に開設する緊急医療救護所及び軽症者救護所の開設場所を知っていますか。（○は１つ）

図表９－３　災害時の緊急医療開設場所の認知度



災害時の緊急医療開設場所の認知度について聞いたところ、「緊急医療救護所等を知らない」が73.3%で最も高く、次いで、「名称は知っているが、開設場所は知らない」(21.1%)、「開設場所を知っている」(4.5%) となっている。(図表９－３)

図表９－４　災害時の緊急医療開設場所の認知度（性別・性／年代別・地域別）



災害時の緊急医療開設場所の認知度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「緊急医療救護所等を知らない」は男性 10・20 代、女性 10・20 代～40 代で８割台と高く、すべての性／年代で５割以上となっている。

地域別でみると、すべての地域で「緊急医療救護所等を知らない」が６割後半以上となっている。（図表９－４）

10　喫煙について

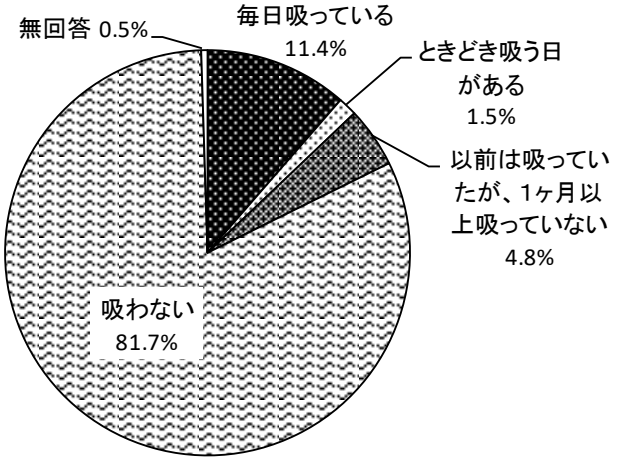
（１）喫煙について

◎「吸わない」が約８割で最も高くなっている

問 23　あなたは、たばこを吸いますか。（○は１つ）

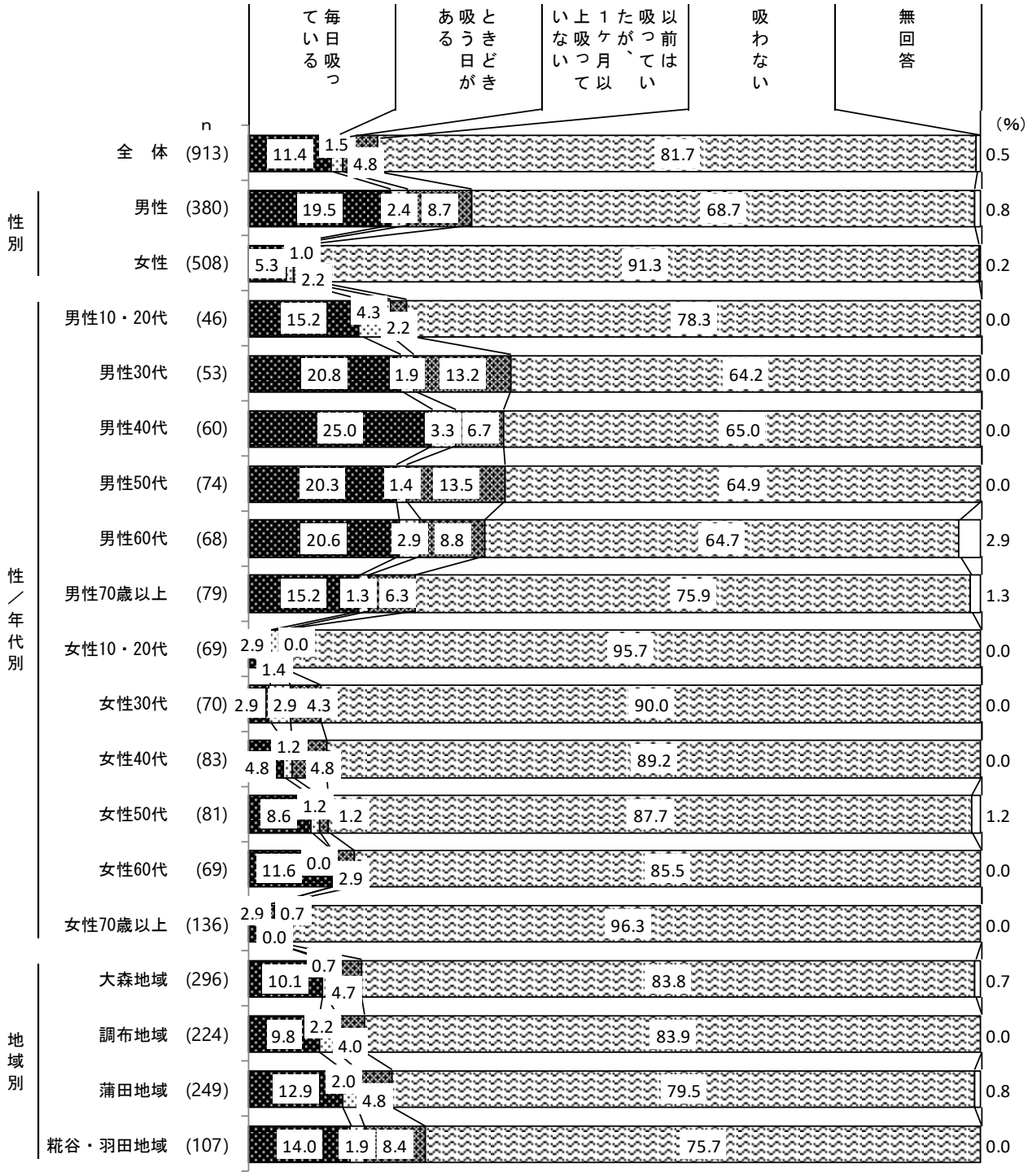
図表 10－１　喫煙の有無について

n=913



喫煙について聞いたところ、「吸わない」が 81.7％で最も高く、次いで、「毎日吸っている」（11.4％）、「以前は吸っていたが、１ヶ月以上吸っていない」（4.8％）となっている。（図表 10－１）

図表 10－２　喫煙の有無について（性別・性／年代別・地域別）



喫煙について性別でみると、「毎日吸っている」は男性（19.5%）が女性（5.3%）を 14.2 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「毎日吸っている」は男性 30 代～60 代で２割台となっている。すべての年代で男性が女性を上回っている。

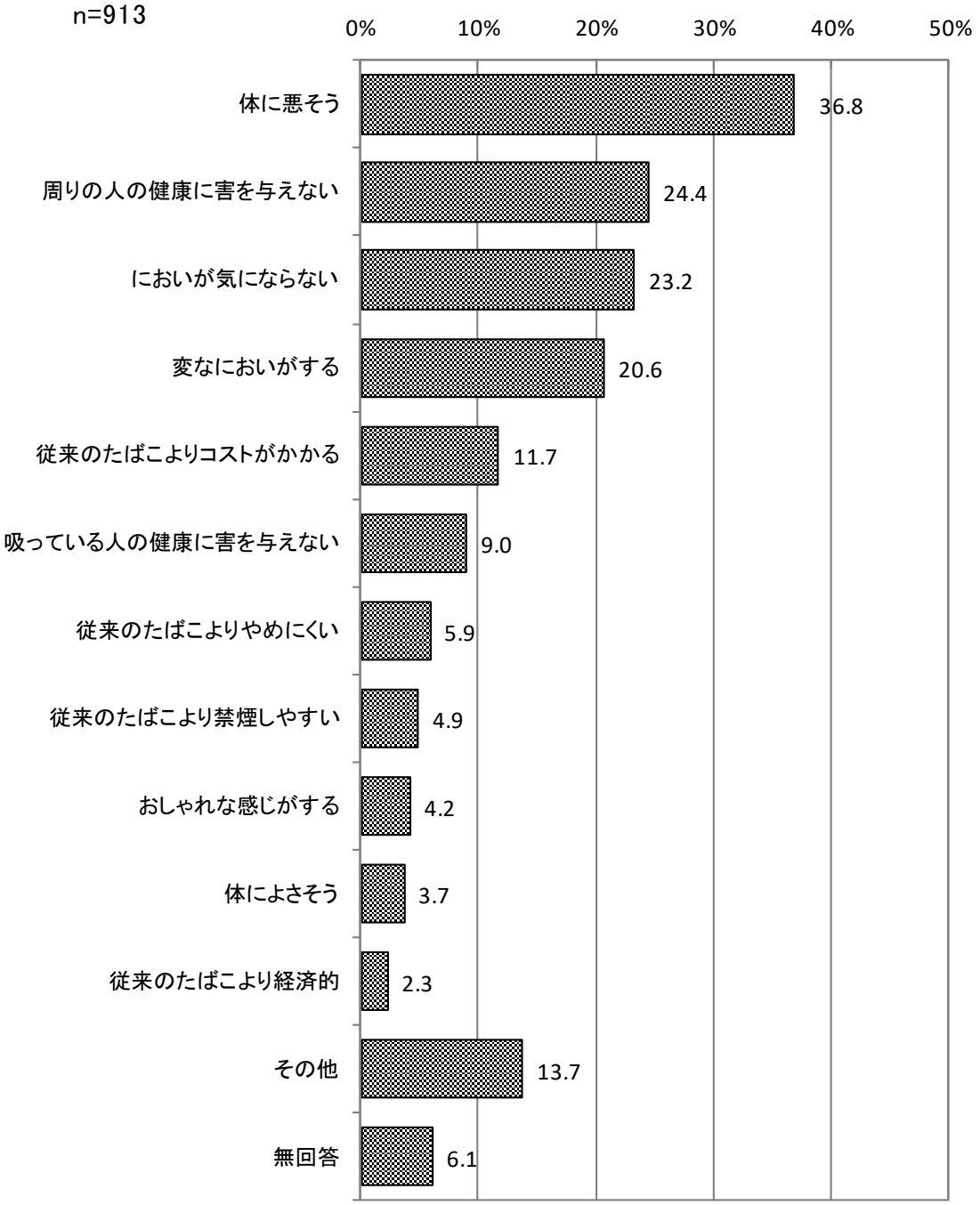
地域別でみると大きな差異は見られなかった。（図表 10－２）

（２）新型たばこのイメージ

◎「体に悪そう」が３割半ばで最も高くなっている

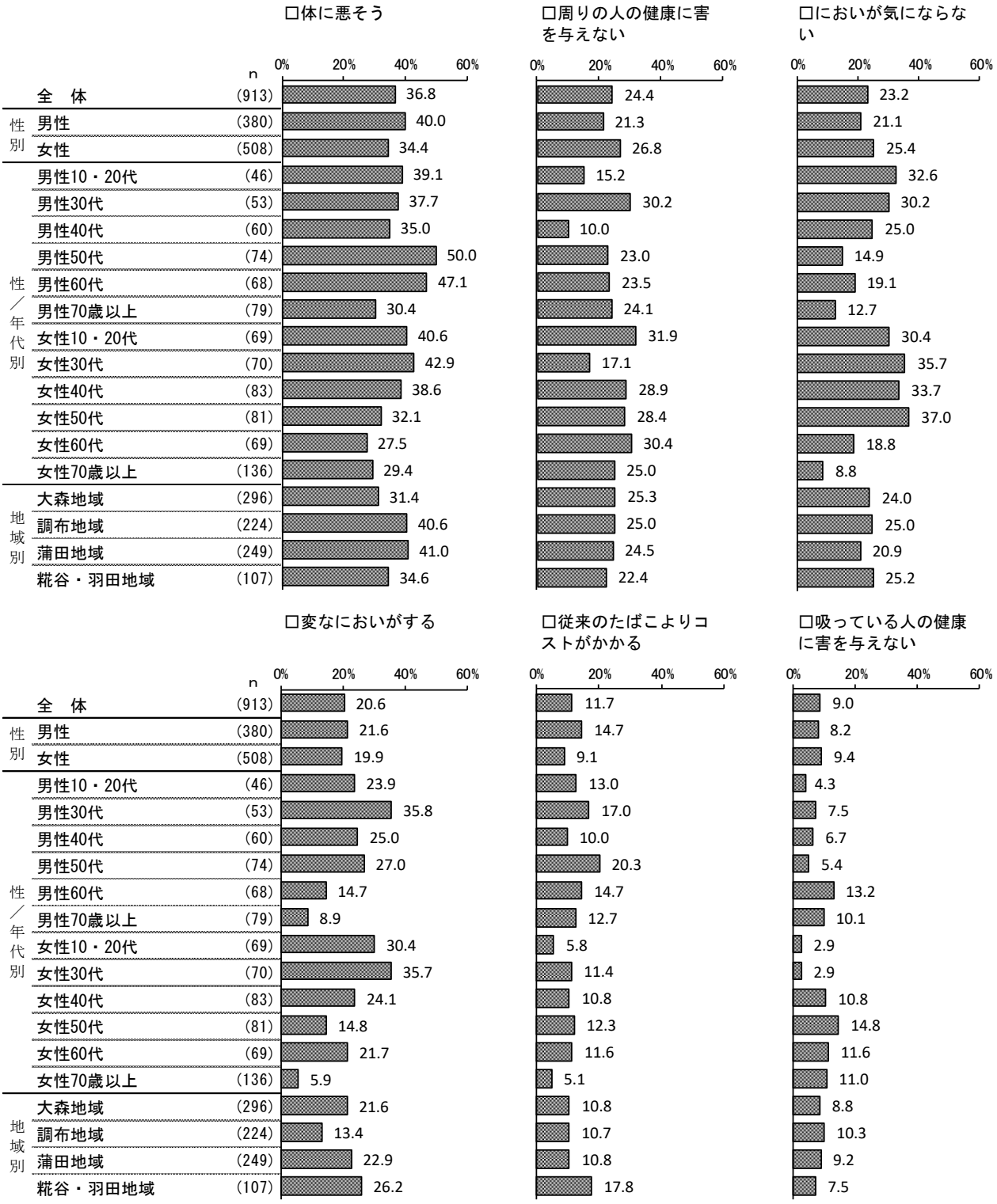
問 24　新型たばこ（加熱式たばこ）についてあなたの持っているイメージであてはまるものはありますか。（○はいくつでも）

図表 10－３　新型たばこのイメージ



新型たばこのイメージについて聞いたところ、「体に悪そう」が 36.8％で最も高く、次いで、「周りの人の健康に害を与えない」（24.4％）、「においが気にならない」（23.2％）となっている。（図表 10－３）

図表 10－４　新型たばこのイメージ（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



新型たばこのイメージについて性別でみると、男女ともに「体に悪そう」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、女性 50 代で「においが気にならない」が、女性 60 代で「周りの人の健康に害を与えない」が、その他の性／年代では「体に悪そう」が最も高くなっている。

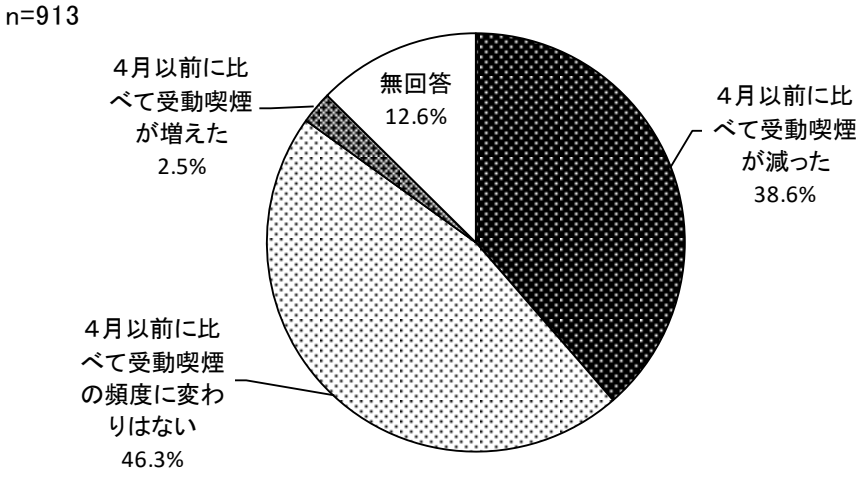
地域別でみると、すべての地域で「体に悪そう」が最も高くなっている。（図表 10－４）

（３）条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について

◎「４月以前に比べて受動喫煙の頻度に変わりはない」が４割半ばで最も高くなっている

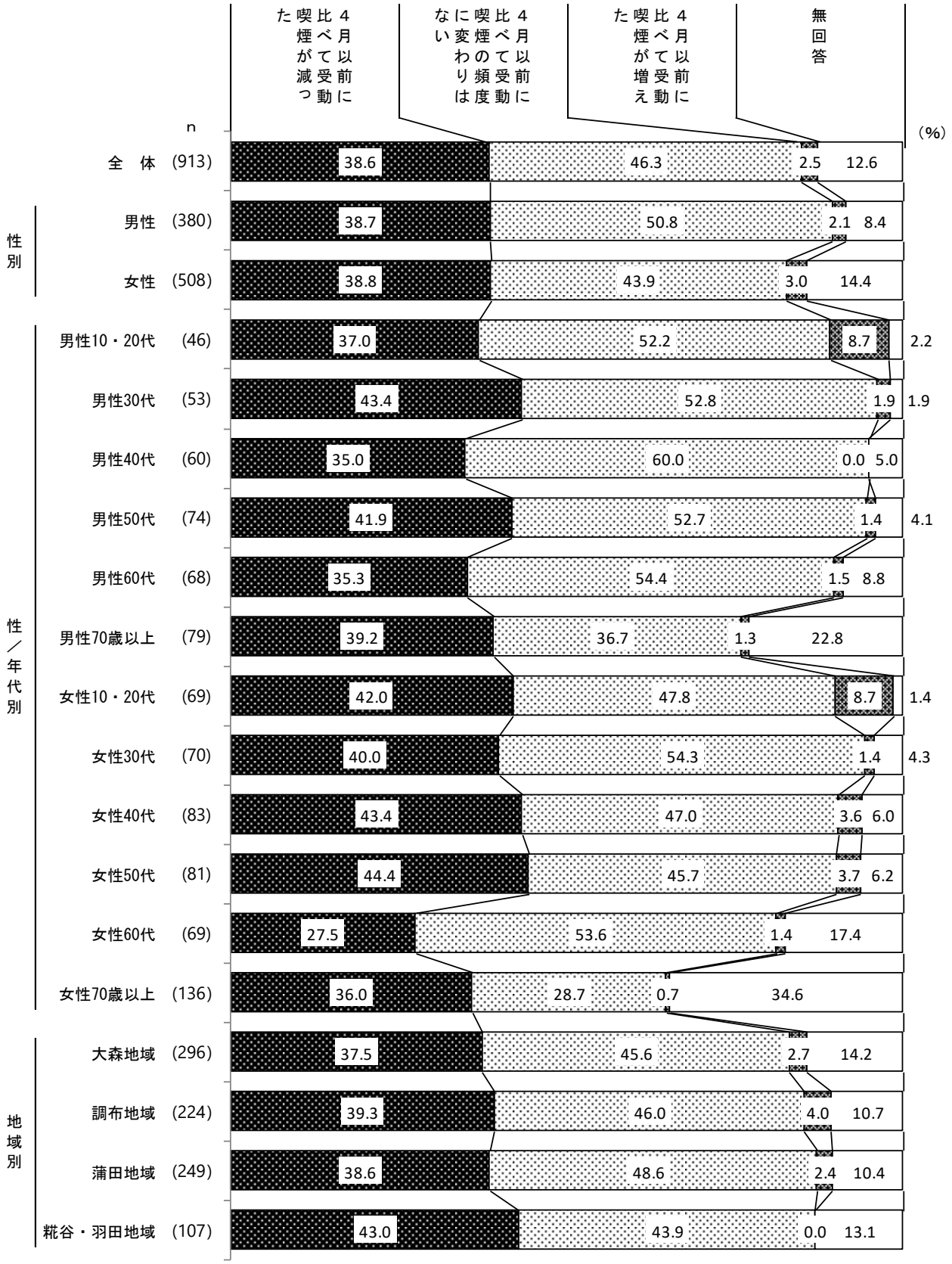
問 25　改正健康増進法及び東京都受動喫煙防止条例が令和２年４月に全面施行されましたが、４月以降、受動喫煙を経験する頻度に変化がありましたか。（○は１つ）

図表 10－５　条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について



条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について聞いたところ、「４月以前に比べて受動喫煙の頻度に変わりはない」が 46.3%で最も高く、次いで、「４月以前に比べて受動喫煙が減った」(38.6%)、「４月以前に比べて受動喫煙が増えた」(2.5%) となっている。(図表 10－５)

図表 10－６　条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について（性別・性／年代別・地域別）



条例施行後の受動喫煙の頻度の変化について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「４月以前に比べて受動喫煙の頻度に変わりはない」は男性 40 代が６割となっている。

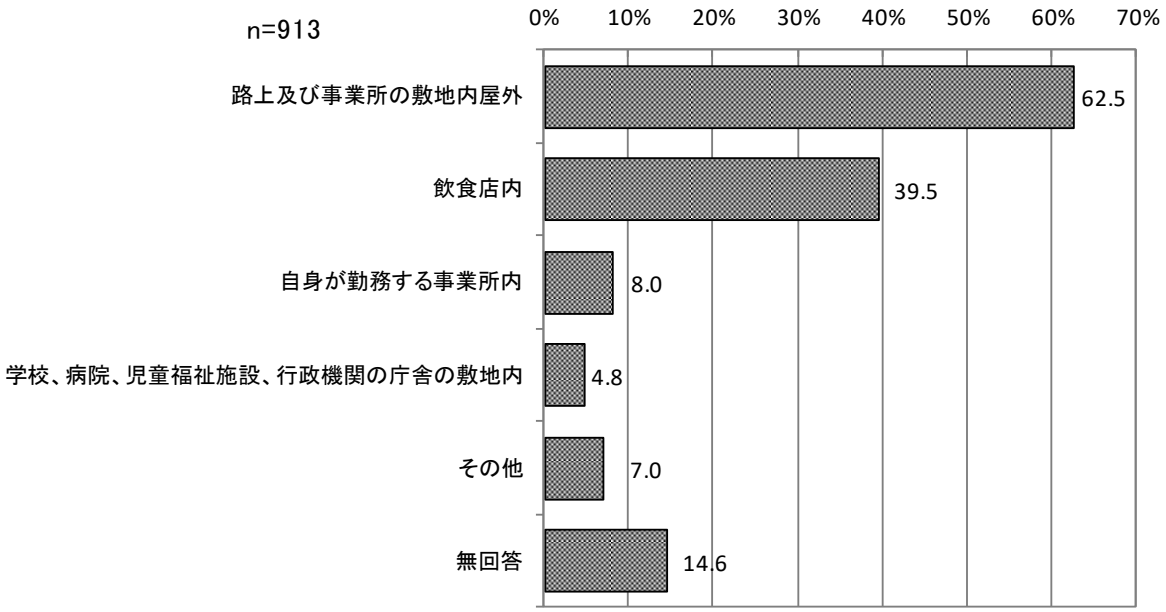
地域別でみると、すべての地域で「４月以前に比べて受動喫煙の頻度に変わりはない」が４割台と最も高くなっている。（図表 10－６）

（４）受動喫煙を経験した場所

◎「路上及び事業所の敷地内屋外」が６割前半で最も高くなっている

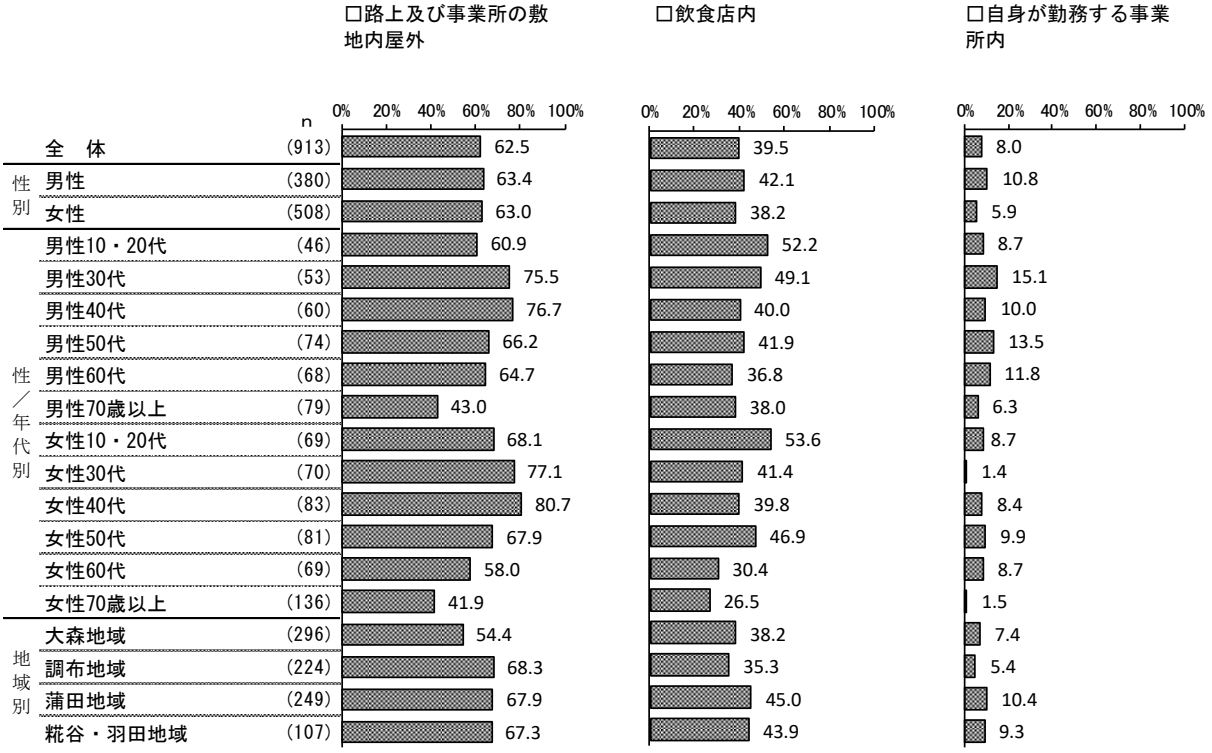
問 26　受動喫煙を経験された場所を教えてください。（○はいくつでも）

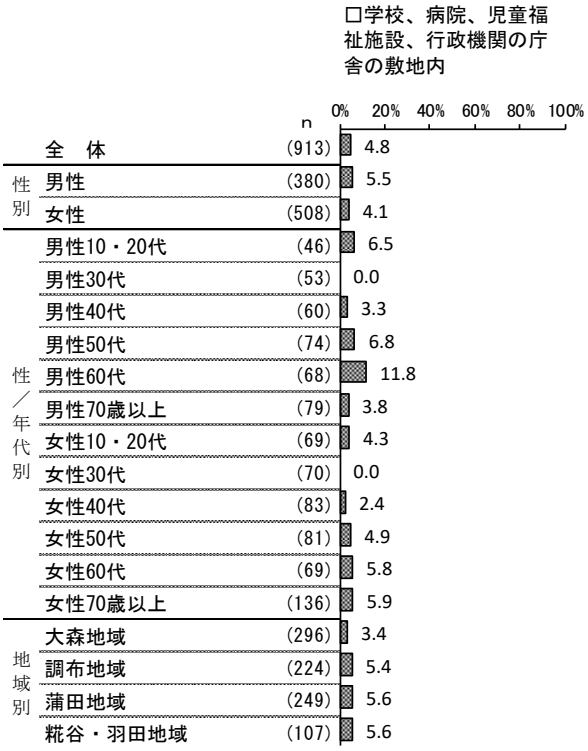
図表 10－７　受動喫煙を経験した場所



受動喫煙を経験した場所について聞いたところ、「路上及び事業所の敷地内屋外」が 62.5％で最も高く、次いで、「飲食店内」（39.5％）、「自身が勤務する事業所内」（8.0％）となっている。（図表 10－７）

図表 10－８　受動喫煙を経験した場所（性別・性／年代別・地域別　上位４項目）





受動喫煙を経験した場所について性別でみると、男女ともに「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「路上及び事業所の敷地内屋外」は、女性 40 代で約８割、男性 30 代、40 代、女性 30 代で７割台となっている。

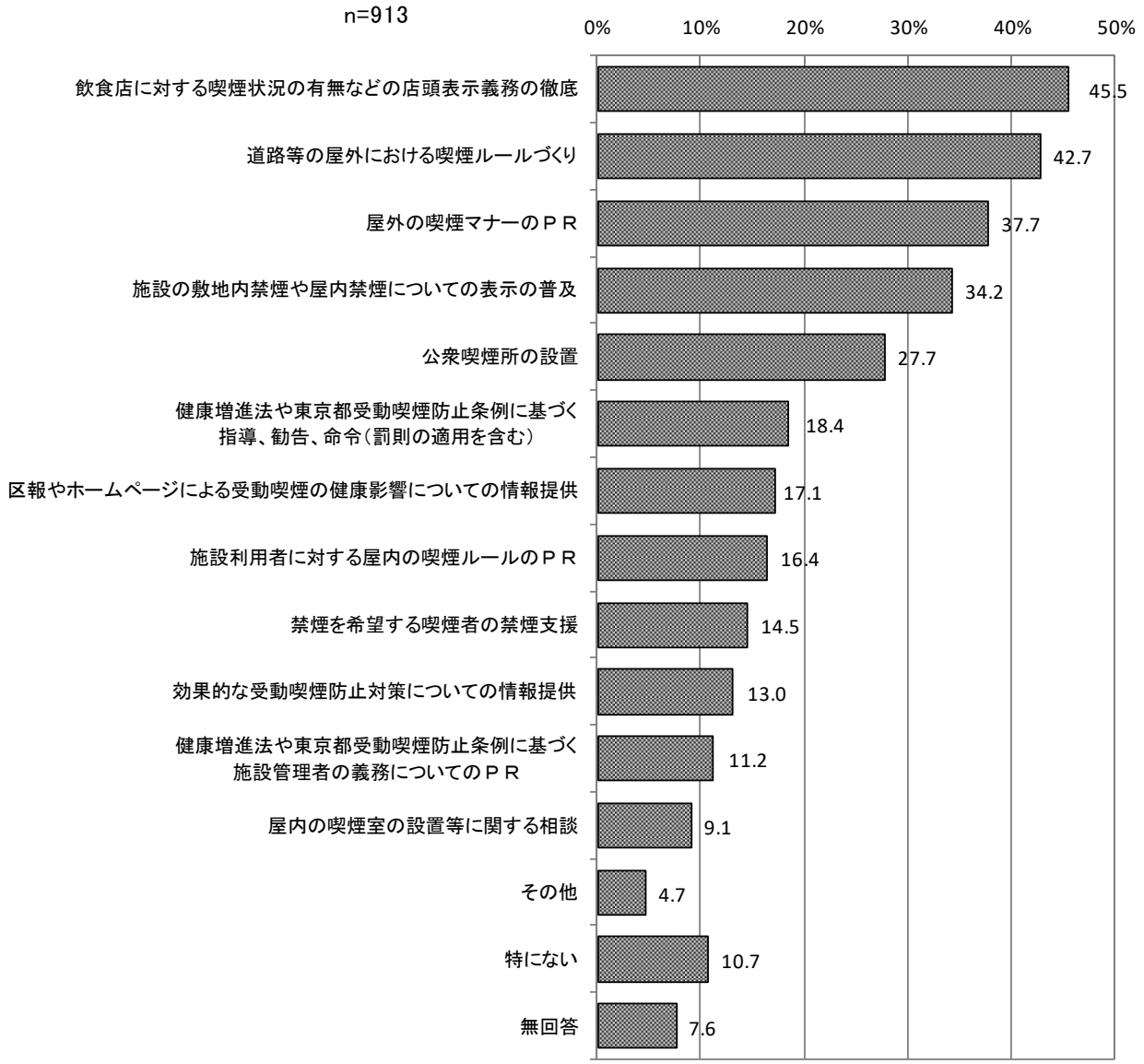
地域別でみると、すべての地域で「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高くなっている。（図表 10－８）

（５）受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

◎「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が４割半ばで最も高くなっている

問 27　受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。（○はいくつでも）

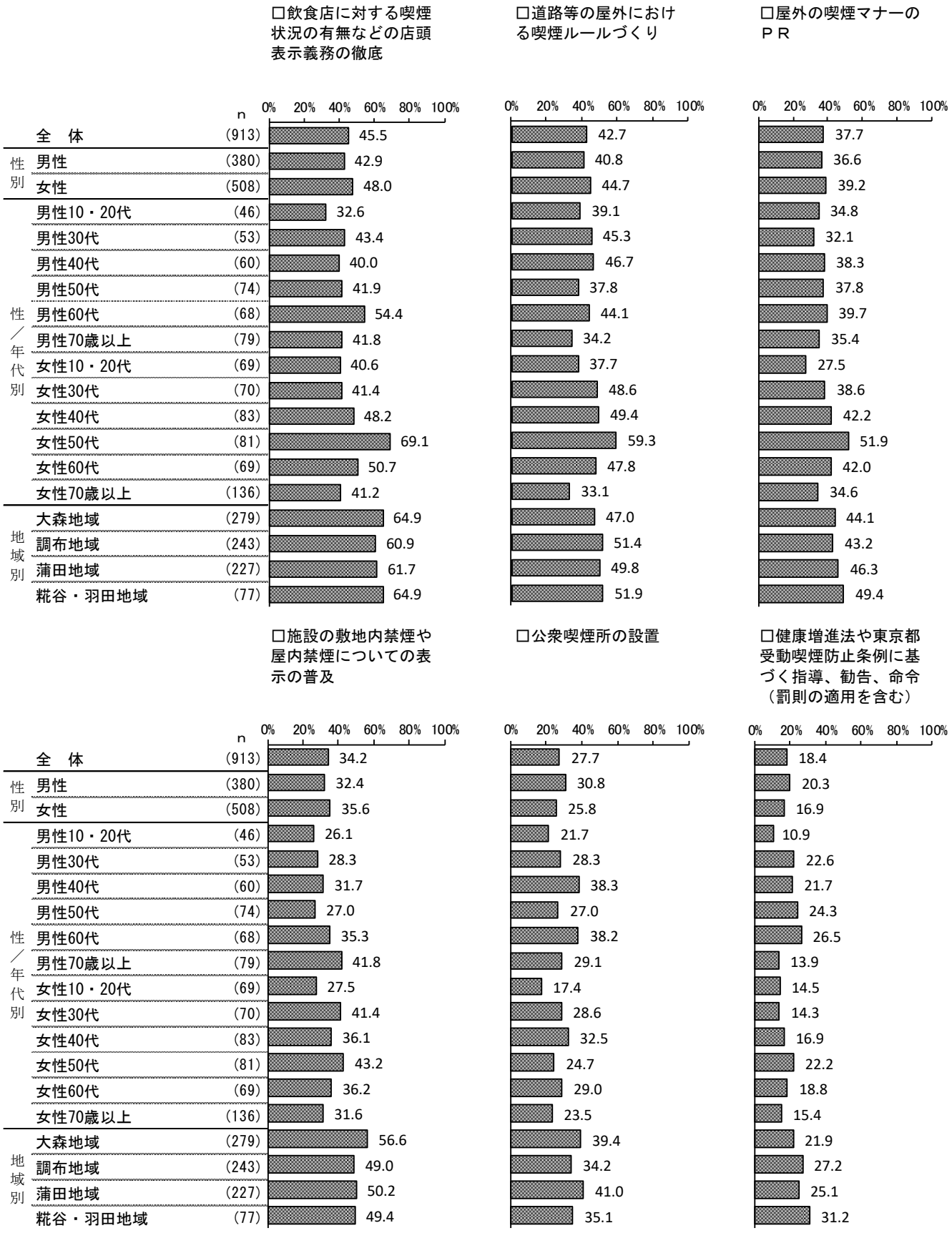
図表 10－９　受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて



受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて聞いたところ、「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が 45.5％で最も高く、次いで、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」（42.7％）、「屋外の喫煙マナーのＰＲ」（37.7％）となっている。（図表 10－９）

図表 10－10　受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて

（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



受動喫煙防止に向け、大田区が推進すべき取り組みについて、上位６項目を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性 10・20 代～40 代、女性 30 代、40 代で「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が最も高くなっている。その他の性／年代では「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が最も高く、女性 50 代で約７割と高くなっている。

地域別でみると、すべての地域で「飲食店に対する喫煙状況の有無などの店頭表示義務の徹底」が最も高くなっている。（図表 10－10）

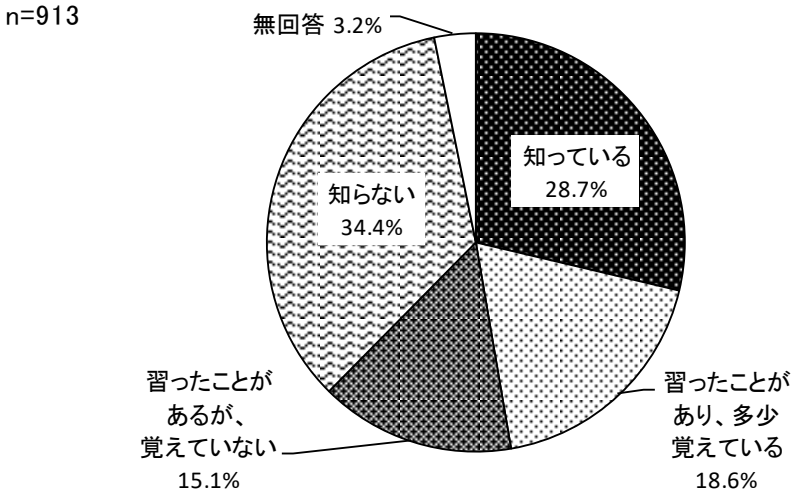
11　ＡＥＤについて

（１）ＡＥＤの使い方の認知度

◎「知っている」は２割後半となっている

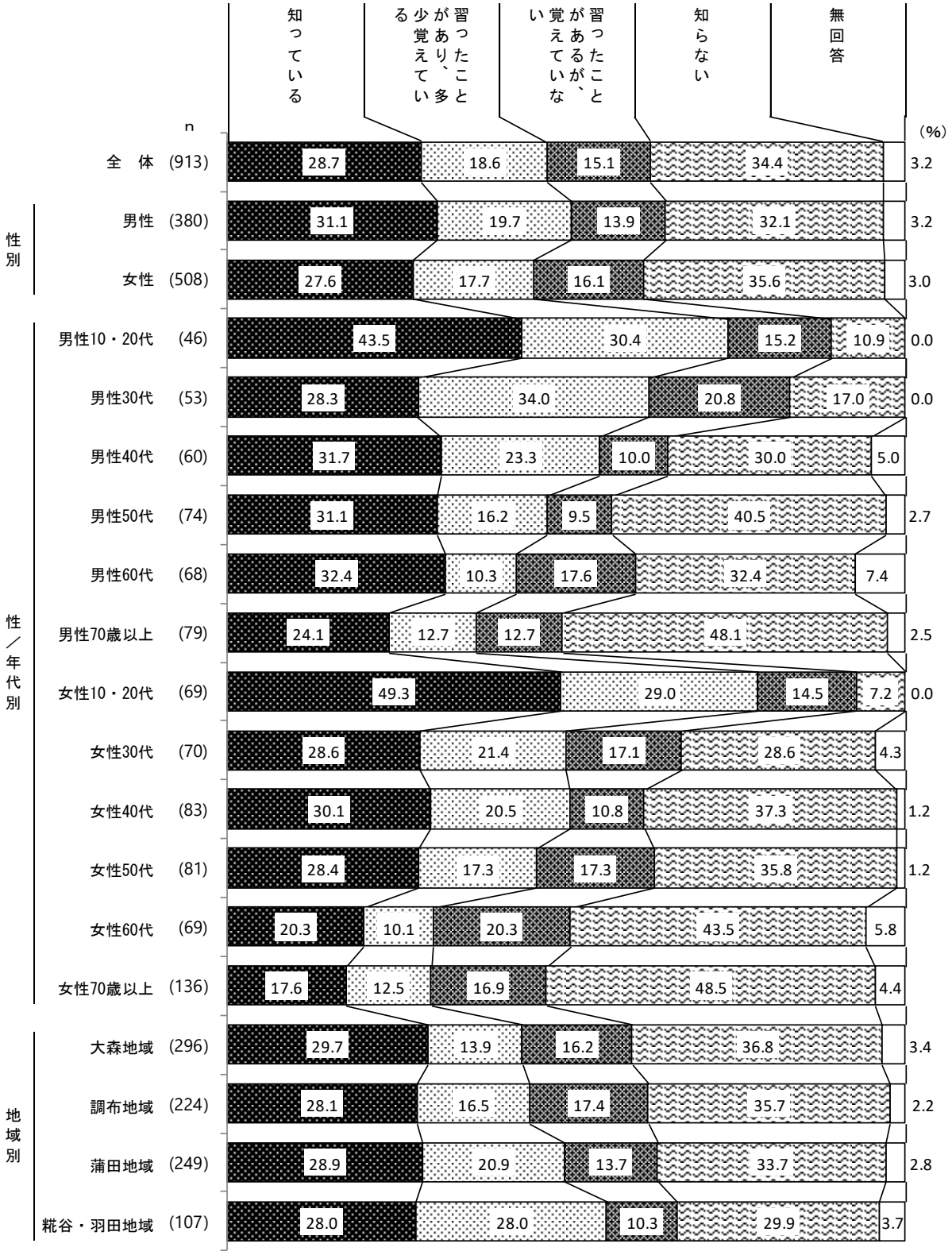
問 28　あなたはＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使い方を知っていますか。（○は１つ）

図表 11－１　ＡＥＤの使い方の認知度



ＡＥＤの使い方の認知度について聞いたところ、「知っている」が 28.7%、「習ったことがあり、多少覚えている」が 18.6%、「習ったことがあるが、覚えていない」が 15.1%、「知らない」が 34.4%となっている。（図表 11－１）

図表 11－２　ＡＥＤの使い方の認知度（性別・性／年代別・地域別）



ＡＥＤの使い方の認知度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「知っている」は男女ともに 10・20 代が４割台と高くなっている。

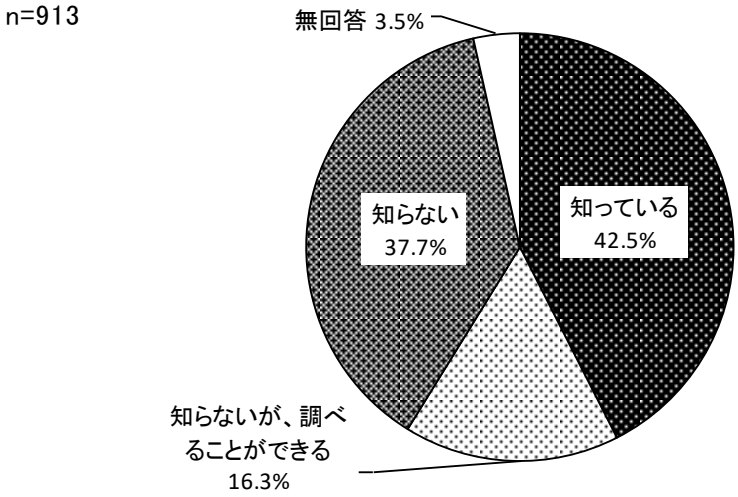
地域別でみると、糀谷・羽田地域で「習ったことがあり、多少覚えている」が２割後半と高くなっている。（図表 11－２）

（２）ＡＥＤの設置場所の認知度

◎「知っている」は４割前半となっている

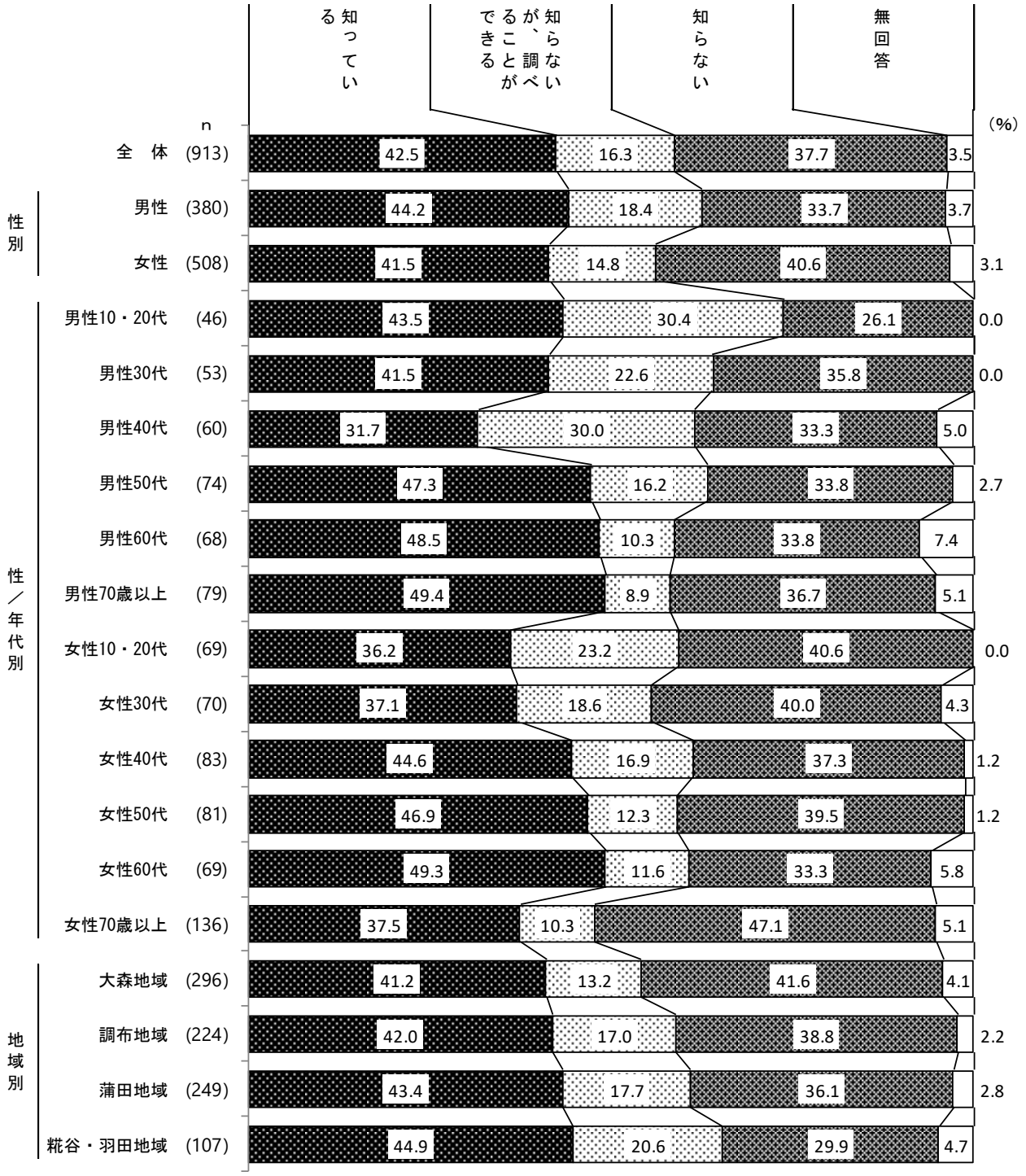
問 29　あなたはご自宅・勤務先等の近くで、ＡＥＤが設置されている場所を知っていますか。 （○は１つ）

図表 11－３　ＡＥＤの設置場所の認知度



ＡＥＤの設置場所の認知度について聞いたところ、「知っている」が 42.5%、「知らないが、調べることができる」が 16.3%、「知らない」（37.7%）となっている。（図表 11－３）

図表 11－４　ＡＥＤの設置場所の認知度（性別・性／年代別・地域別）



ＡＥＤの設置場所の認知度を性別でみると、「知らない」は女性（40.6%）が男性（33.7%）を 6.9 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は男性 40 代、女性 10・20 代、30 代、70 歳以上で３割台、その他の性／年代では４割台となっている。「知らないが、調べることができる」は男性 10・20 代、40 代で３割台となっている。

地域別でみると、すべての地域で「知っている」は４割台となっている。（図表 11－４）

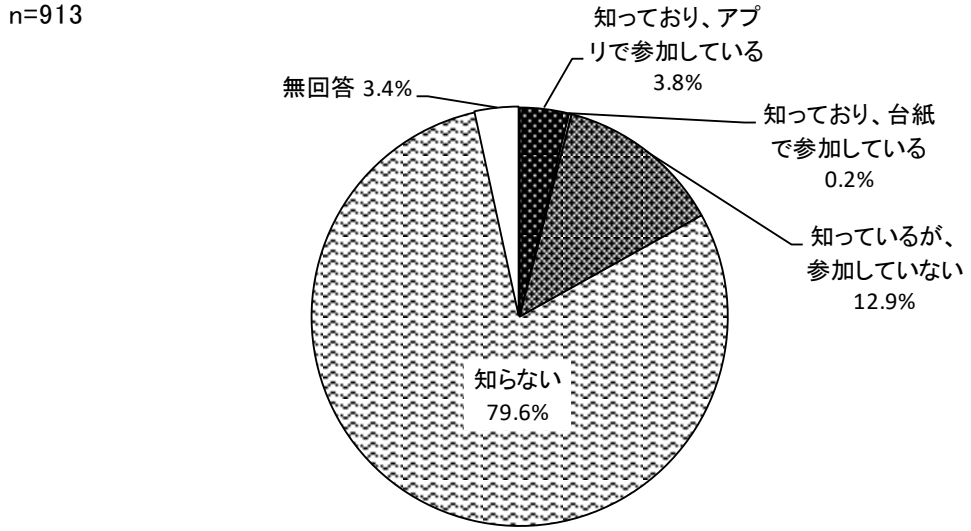
12　はねぴょん健康ポイントについて

（１）「はねぴょん健康ポイント」の認知度

◎「知らない」が約８割となっている

問 30　大田区の健康づくりポイント事業「はねぴょん健康ポイント」を知っていますか。 （○は１つ）

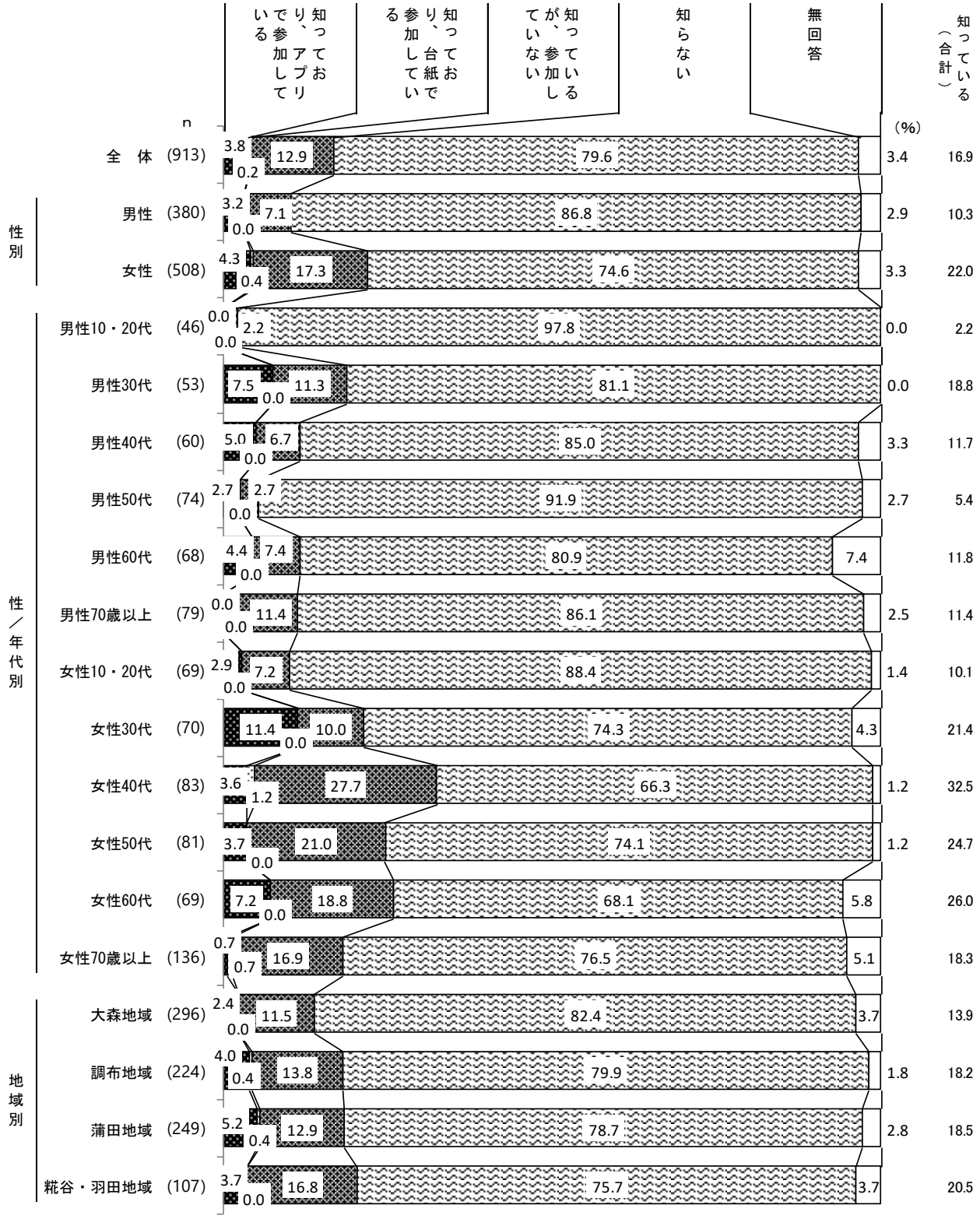
図表 12－１　「はねぴょん健康ポイント」の認知度



「はねぴょん健康ポイント」の認知度について聞いたところ、「知っており、アプリで参加している」(3.8%)、「知っており、台紙で参加している」(0.2%)、「知っているが、参加していない」(12.9%)を合わせた《知っている（合計)》は 16.9%となっている。

一方、「知らない」が 79.6%となっている。（図表 12－１）

図表 12－２　「はねぴょん健康ポイント」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「はねぴょん健康ポイント」の認知度を性別でみると、「知っているが、参加していない」は女性（17.3%）が男性（7.1%）を 10.2 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている（合計）》は女性 40 代で３割前半と高くなっている。

地域別でみると、《知っている（合計）》は糀谷・羽田地域で約２割、その他の地域より１割台となっている。（図表 12－２）

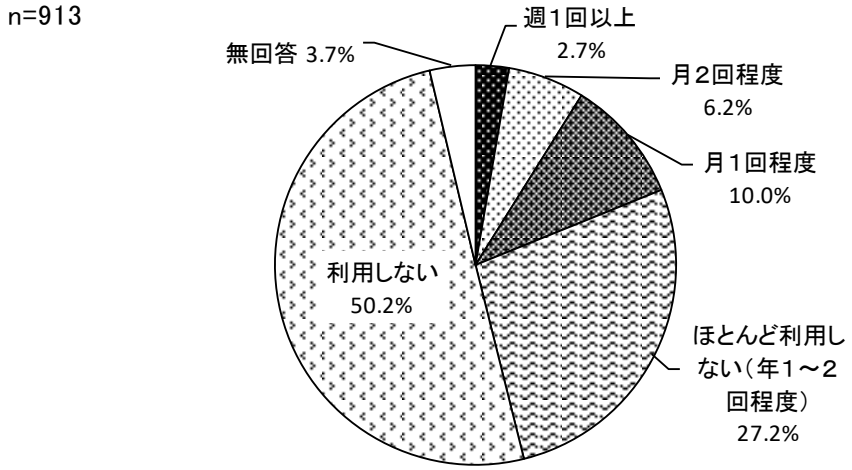
13　図書館について

（１）図書館等の利用頻度

◎「利用しない」が約５割となっている

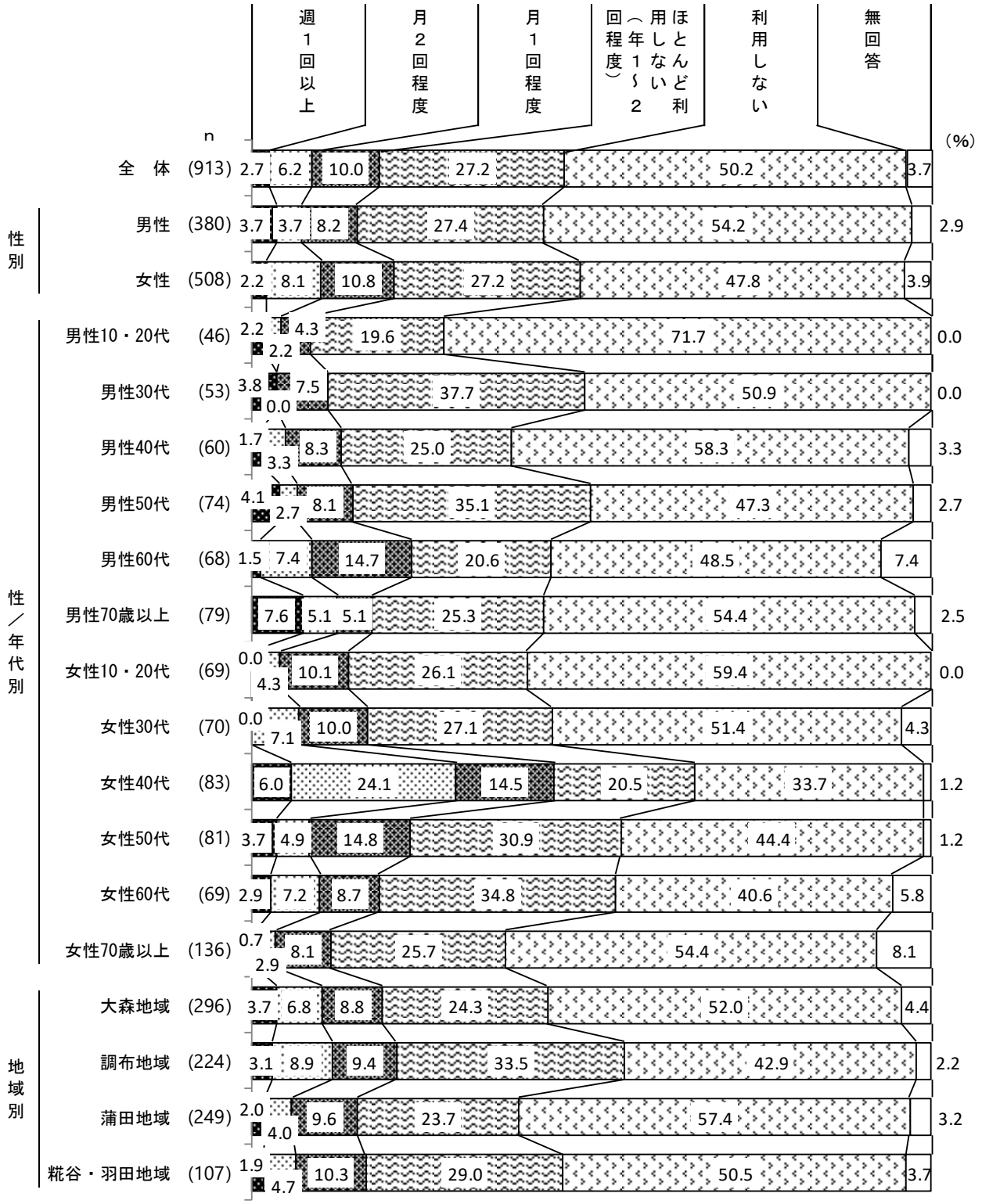
問 31　大田区立図書館または大田文化の森情報館の利用頻度について該当するものを選択してください。（○は１つ）

図表 13－１　図書館等の利用頻度



図書館等の利用頻度について聞いたところ、「利用しない」が 50.2％で最も高く、次いで、「ほとんど利用しない（年１～２回程度）」（27.2％）、「月１回程度」（10.0％）となっている。
（図表 13－１）

図表 13－２　図書館等の利用頻度（性別・性／年代別・地域別）



図書館等の利用頻度を性別でみると、大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性 10・20 代で「利用しない」は約７割と高くなっている。「月２回程度」は女性 40 代で 24.1％とその他の性／年代より高くなっている。

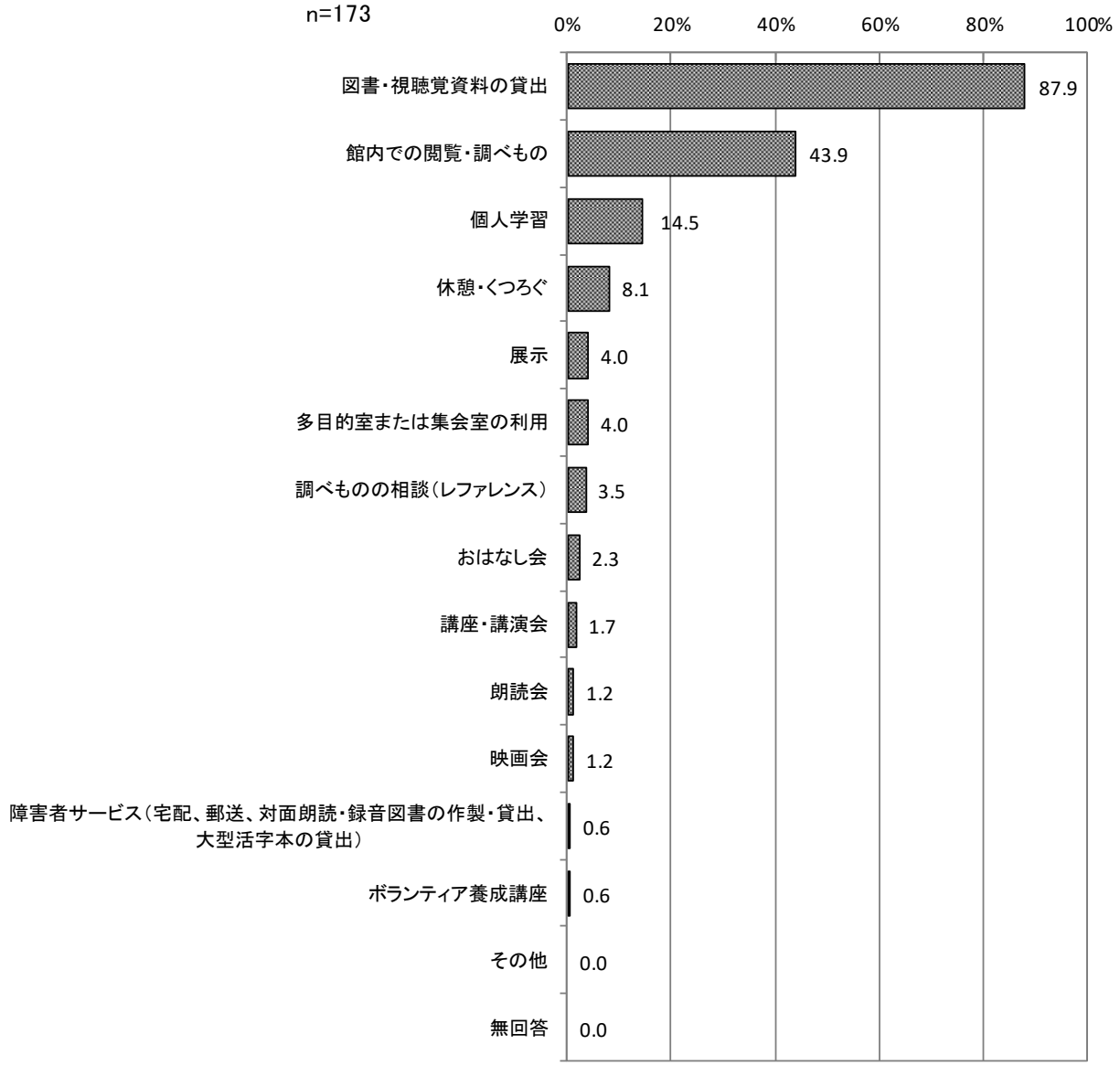
地域別でみると、すべての地域で「利用しない」は４割以上となっている。「ほとんど利用しない（年１～２回程度）」は調布地域で 33.5％とその他の地域より高くなっている。（図表 13－２）

（２）図書館で主に利用する機能・サービス

◎「図書・視聴覚資料の貸出」が８割後半で最も高くなっている

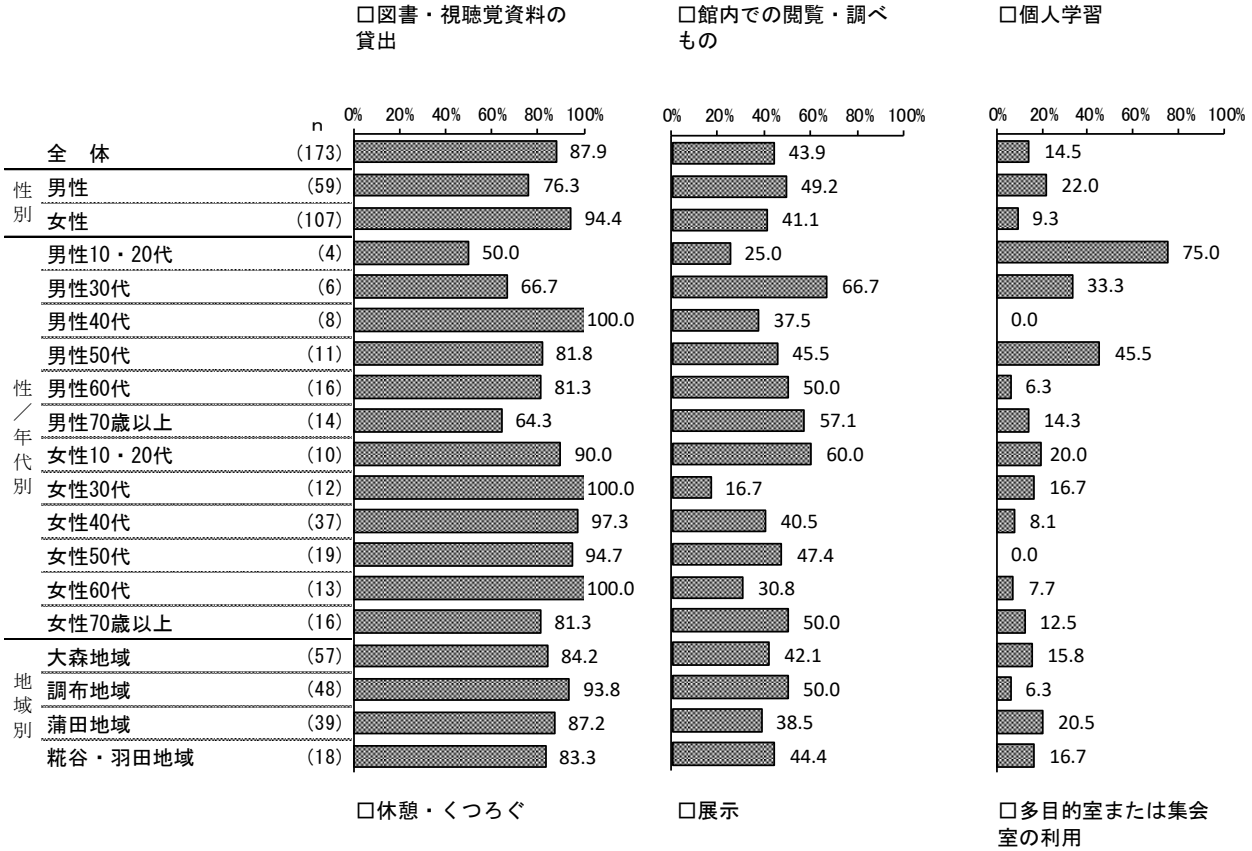
【問 31 で「１」～「３」と回答された方】
問 31-１　図書館で主に利用している機能・サービスについて該当するものを選択してください。
（○はいくつでも）

図表 13－３　図書館で主に利用する機能・サービス



図書館で主に利用する機能・サービスについて聞いたところ、「図書・視聴覚資料の貸出」が 87.9%で最も高く、次いで、「館内での閲覧・調べもの」（43.9%）、「個人学習」（14.5%）となっている。（図表 13－３）

図表 13－４　図書館で主に利用する機能・サービス（性・性／年齢別・地域別　上位６項目）



図書館で主に利用する機能・サービスについて、上位６項目を性別でみると、「図書・視聴覚資料の貸出」では女性（94.4%）が男性（76.3%）を 18.1 ポイント、「個人学習」では男性（22.0%）が女性（9.3%）を 12.7 ポイント上回っている。

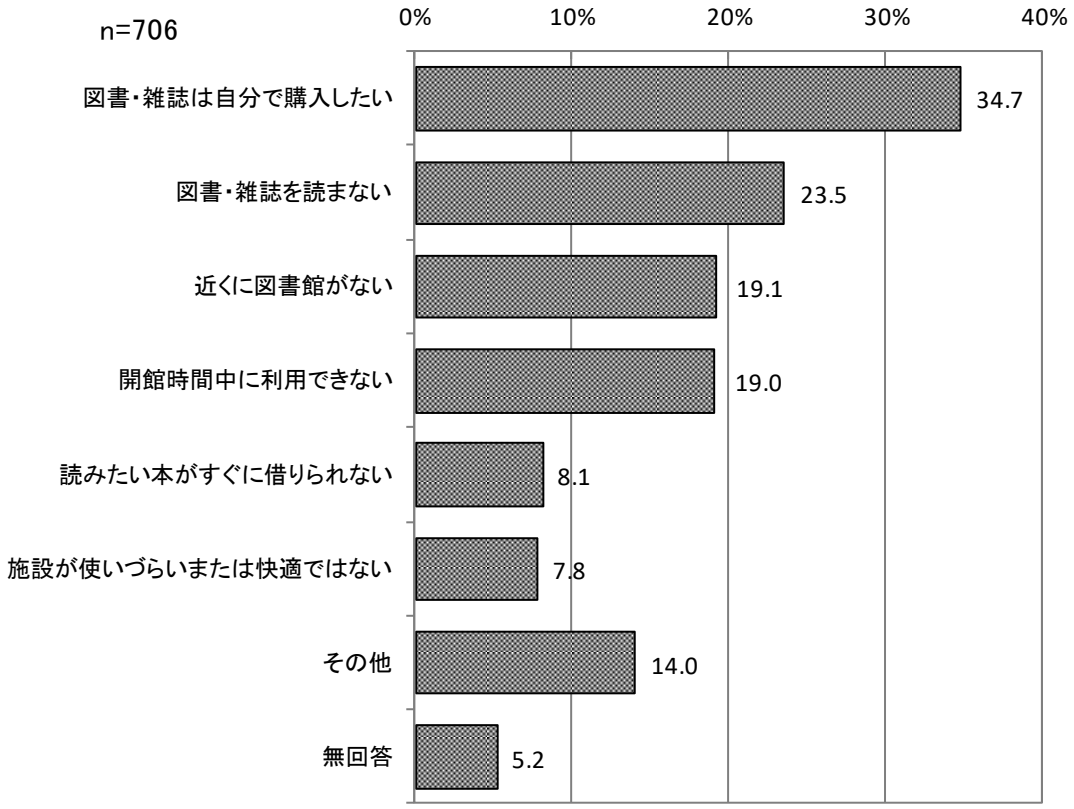
地域別でみると、すべての地域で「図書・視聴覚資料の貸出」が８割以上と最も高くなっている。（図表 13－４）

（３）図書館を利用しない理由

◎「図書・雑誌は自分で購入したい」が３割半ばで最も高くなっている

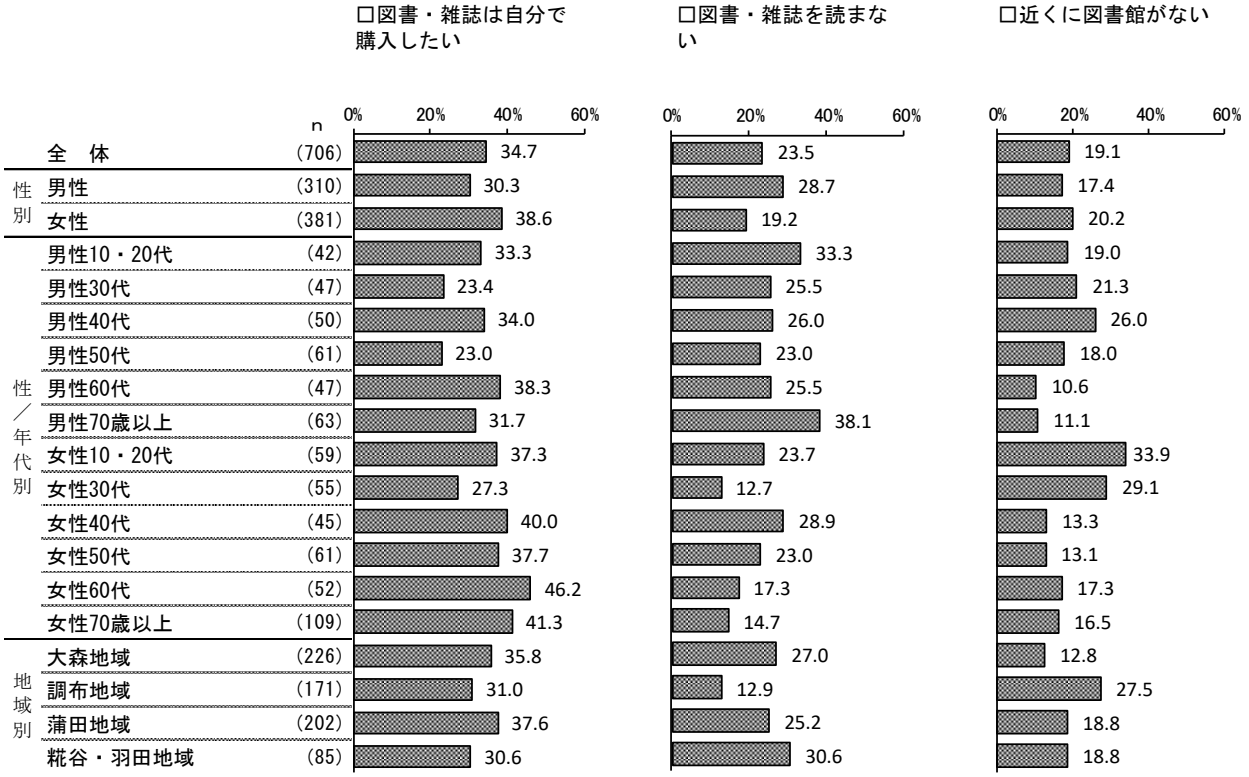
【問 31 で「４」～「５」と回答された方】
問 31-２　図書館を利用しない理由について該当するものを選択してください。（○はいくつでも）

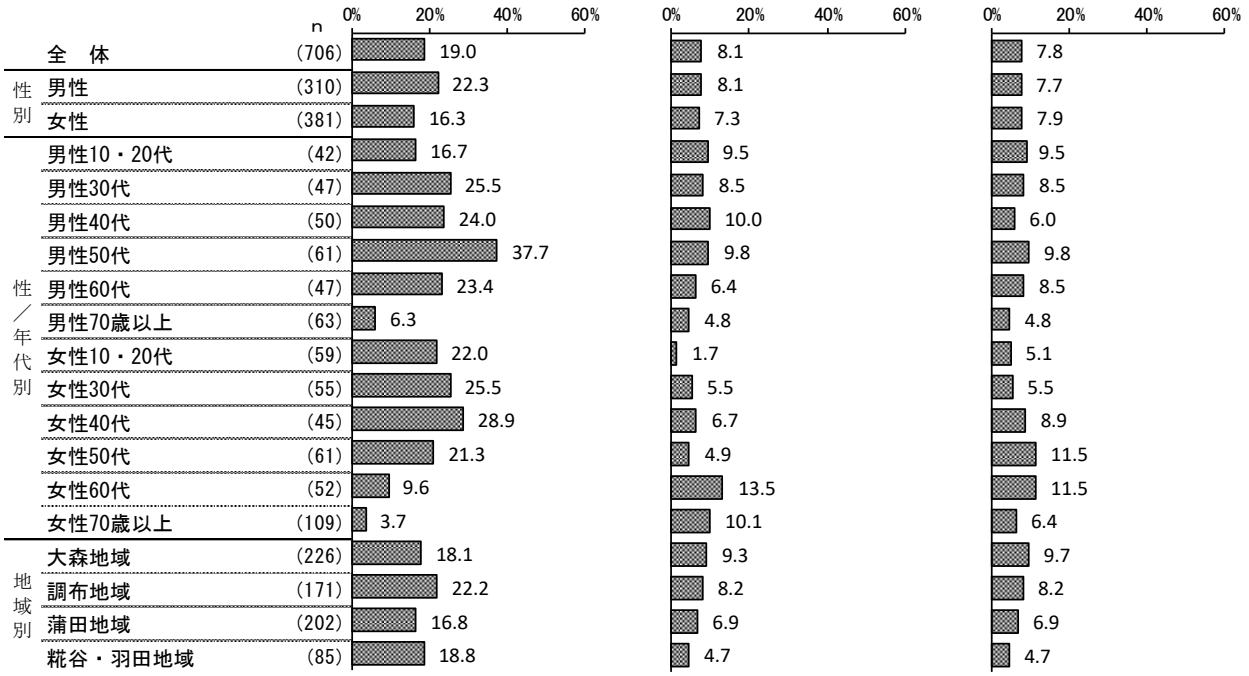
図表 13－５　図書館を利用しない理由



図書館を利用しない理由について聞いたところ、「図書・雑誌は自分で購入したい」が 34.7％で最も高く、次いで、「図書・雑誌を読まない」（23.5％）、「近くに図書館がない」（19.1％）となっている。（図表 13－５）

図表 13－６　図書館を利用しない理由（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）





図書館を利用しない理由について、上位６項目を性別でみると、「図書・雑誌は自分で購入したい」では女性（38.6%）が男性（30.3%）を 8.3 ポイント、「図書・雑誌を読まない」では男性（28.7%）が女性（19.2%）を 9.5 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「図書・雑誌は自分で購入したい」はすべての年代で女性が男性を上回っている。「近くに図書館がない」では女性 10・20 代が３割前半、女性 30 代で約３割とその他の性・年代より高くなっている。「開館時間中に利用できない」は男性 50 代で３割後半と他の性／年代より高くなっている。

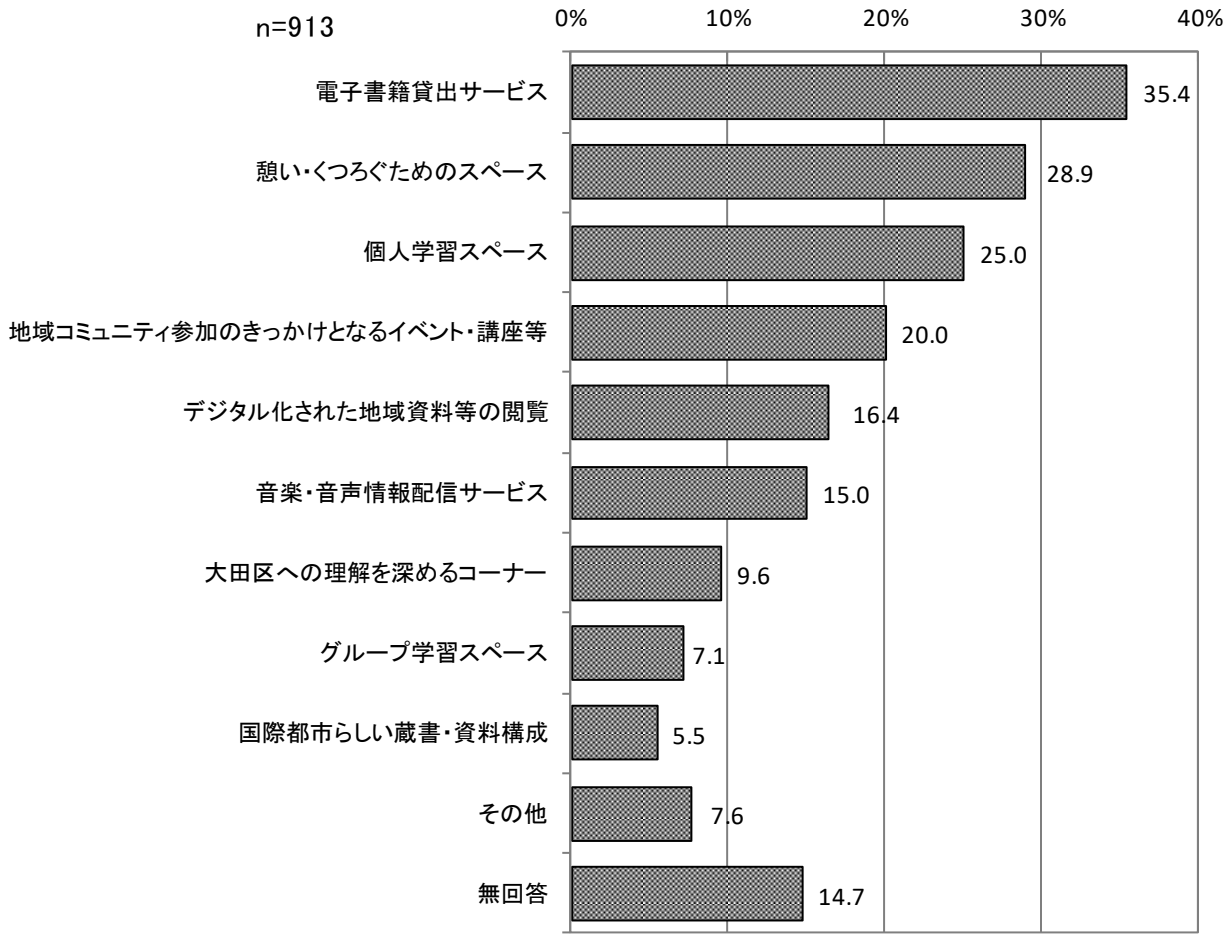
地域別でみると、「近くに図書館がない」は調布地域で２割後半とその他の地域より高くなっている。（図表 13－６）

（４）図書館に期待する機能・サービス

◎「電子書籍貸出サービス」が３割半ばで最も高くなっている

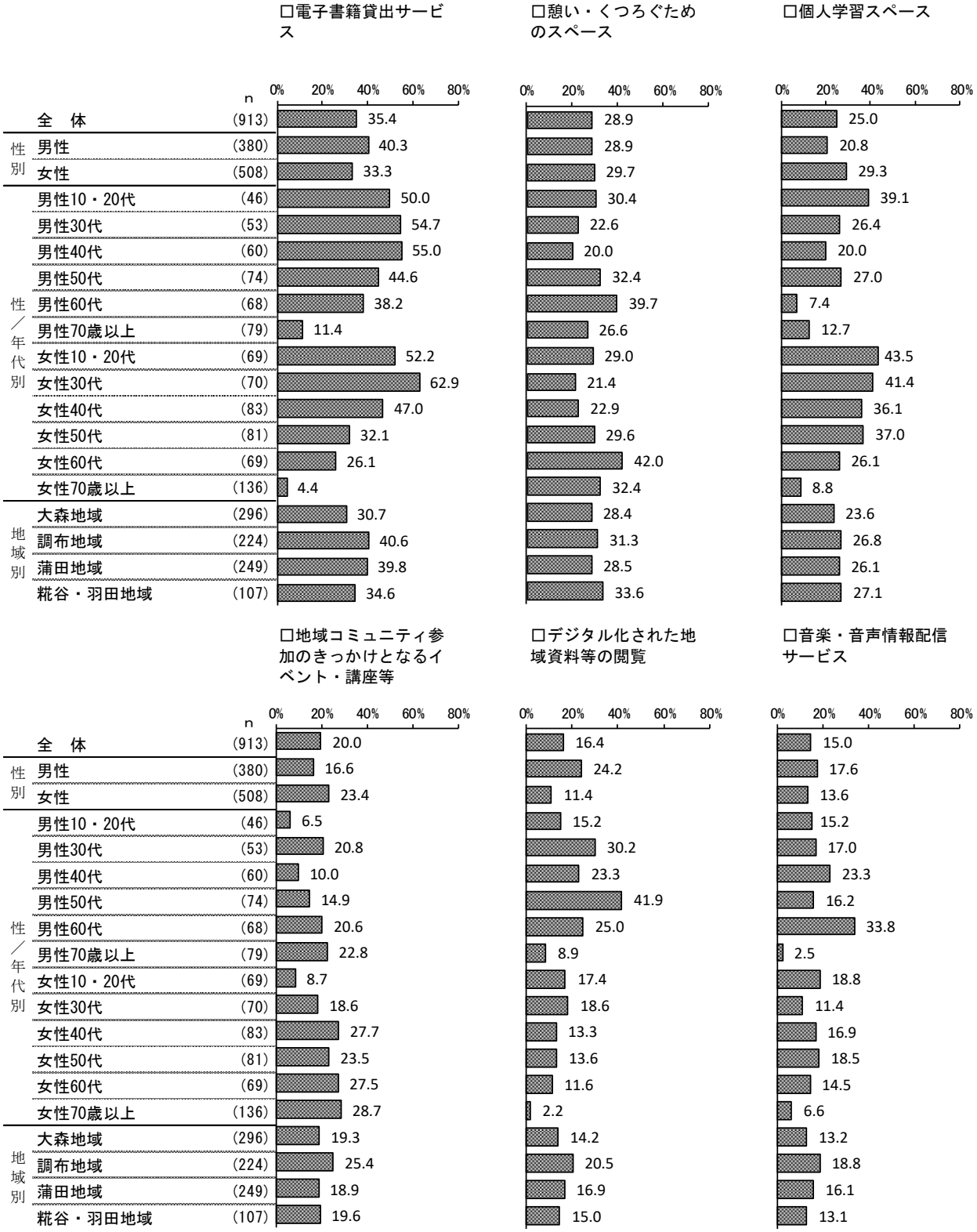
問 32　これからの図書館に期待する機能・サービスについて該当するものを選択してください。（○はいくつでも）

図表 13－７　図書館に期待する機能・サービス



図書館に期待する機能・サービスについて聞いたところ、「電子書籍貸出サービス」が 35.4％で最も高く、次いで、「憩い・くつろぐためのスペース」（28.9％）、「個人学習スペース」（25.0％）となっている。（図表 13－７）

図表 13－８　図書館に期待する機能・サービス（性別・性／年代別・地域別　上位６項目）



図書館に期待する機能・サービスについて、上位６項目を性別でみると、「個人学習スペース」では女性（29.3%）が男性（20.8%）を 8.5 ポイント、「デジタル化された地域資料等の閲覧」では男性（24.2%）が女性（11.4%）を 12.8 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、男女ともに 10・20 代～40 代、男性 50 代で「電子書籍貸出サービス」が最も高く、高齢層に比べ若年層で高くなっている。男女ともに 60 代、70 歳以上では「憩い・くつろぐためのスペース」が、女性 50 代では「個人学習スペース」が最も高くなっている。

地域別でみると、すべての地域で「電子書籍貸出サービス」が最も高くなっている。（図表 13－８）